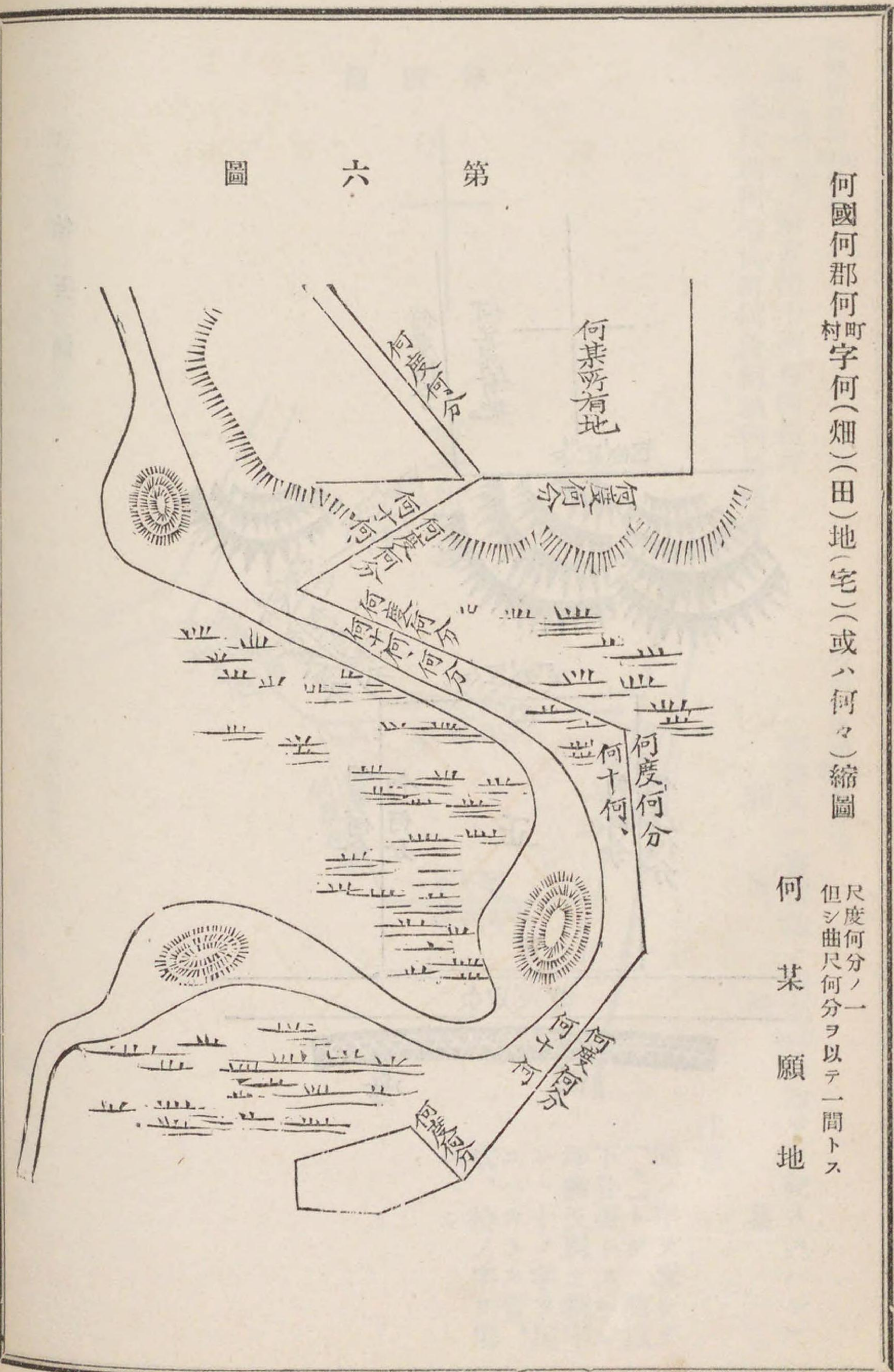


何國何郡何町何字何(畑)田(地)宅(或ハ何々)縮圖

尺度何分ノ一
但シ曲尺何分ヲ以テ一間トス
何 某 願 地



第六圖

第七圖 何國何郡何町何字何

明治何年何月何日調査
尺度何分ノ一
但シ曲尺何分ヲ以テ一間トス

氏名印

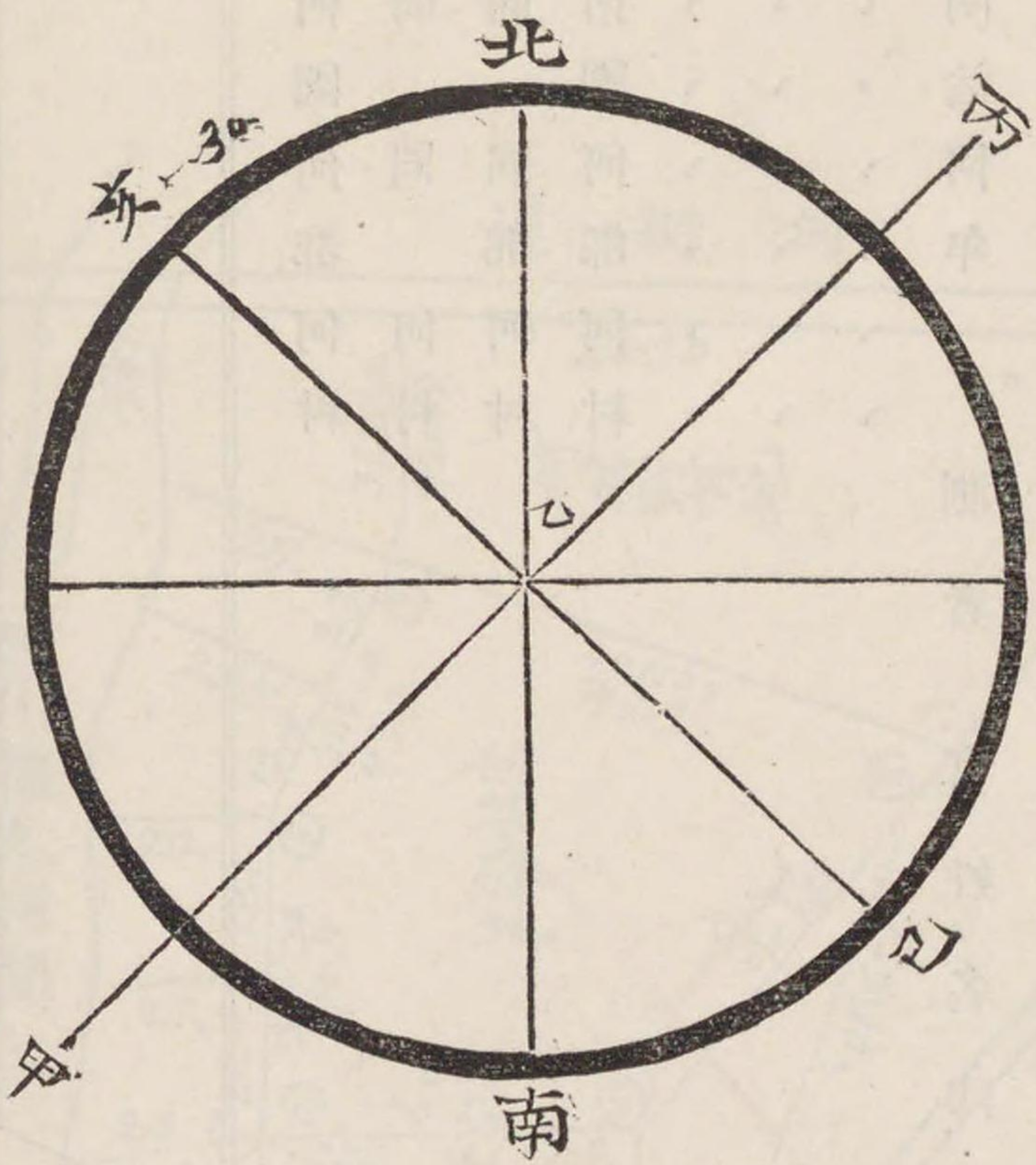
何某所有地	(四) 正	何某所有地	(七) 正
何某所有地	(三) 正	何某所有地	(六) 正
何某所有地	(二) 願人何某	何某所有地	(五) 願人何某
何某所有地	(一) 願人何某	何某所有地	(四) 願人何某
何某所有地	(七)(六)(五)(四)(三)(二)	何某所有地	(七)(六)(五)(四)(三)(二)

計
口何百何拾何坪何合何
才何拾何坪何合何何
何々何百何拾何坪
此段別、
畑(一)願人何某
何々何百何拾何坪

住所記載方ハ第二圖ノ
例ニヨル
(一)願人何某

上 上 上 上 上 上 某

第十圖



○河川ニ對スル堤防敷地控除ノ件

○殖民部長ヨリ各支廳長へ通牒 明治三十六年九月二十一日 殖拓第四九一八號

河川ニ對スル堤防敷地除地ノ件ニ付テハ本年二月二十三日付殖拓第八八六號ヲ以テ及通牒置候處取扱上河川ノ幅員ニ關スル解釋左記ノ通り決定相成候條爲御心得此段及通牒候也

堤防敷地除地標準ノ河幅ハ河身ノ兩岸法リ肩線ニ終ルモノトス岸法リ極メテ緩ニシテ法肩ヲ認メ難キモノニアリテハ其附近天然地盤ト一平ナル點ヲ以テ法肩トス

○殖民地選定及區畫施設規程

○殖民地撰定及區畫施設規程 明治二十九年 五月二十九日議定

第一章 殖民地撰定

第一條 殖民地トシテ撰定ヲ爲スヘキ箇所ハ左ノ標準ニ依ルヘシ

- 一 農牧ニ適スル土地
 - 二 地積五十萬坪以上ノ土地
但シ五十萬坪以下ト雖モ地形ニ依リテハ此限ニアラス
 - 三 傾斜二十度以下ノ土地
 - 四 海面上二百米以下ノ土地
但シ二百米以上ト雖モ特ニ農牧ニ適スル土地ハ此限ニアラス
- 第二條 殖民地撰定ノ際ハ原野ノ狀況ヲ詳ニスルカ爲メ豫メ基點ヲ定メ概測スルノ外左ノ事項ヲ調査スヘシ

一 原野名

- 二 原野中ノ小字
 - 三 原野ノ位置及廣狹(地積)
 - 四 山川湖沼丘陵ノ位置及形狀
 - 五 樹林草原ノ狀況
 - 六 勝地ノ位置及狀況
 - 七 河川ノ水量水質並ニ河岸及河底ノ地質
 - 八 雨雪出水ノ量及水害ノ有無
 - 九 土性
 - 十 動植物
 - 十一 氣候
 - 十二 耕牧適否ノ區別
 - 十三 交通ノ便否
 - 十四 道路排水施設ノ要否
 - 十五 舊土人部落ノ位置及狀況
 - 十六 區畫施設ノ適否
 - 十七 比隣ノ遠近及狀況
 - 十八 最近町村ノ里程
 - 十九 最近町村農商ノ實況及物價諸雇賃錢
- 右第一項乃至第十五項ノ諸項ヲ調査スルニハ少クモ每三百間ニ踏査シ又植物土性ハ其標木ヲ採集スルヲ要ス

第三條 第二條ノ調査ヲ了シタルトキハ殖民地撰定原圖分二萬五千ヲ製シ報文ヲ添付スヘシ但シ將來貸下ヲ爲サス現況ノ儘存置セントスル見込アル地域ハ特ニ其必要トスル事由ヲ詳記スヘキモノトス

第二章 區畫施設

第四條 區畫設計ハ左ノ標準ニ依ルヘシ

- 一 地勢及諸般ノ關係ヲ觀察シ先ツ交通道路ヲ豫定スルコト
- 二 一部落若クハ一村ヲ以テ一區域トスルコト
- 三 原野ノ區域ハ可成既設村界ニ依ルコト
- 四 一村ノ境界ハ自然ノ山川ニ依ルコト
- 但シ自然ノ山川ナキ所ハ豫定道路線ニ依ルコト
- 五 三百戸乃至五百戸ニ對スル耕宅地竝ニ之ニ要スル諸般ノ豫定地ヲ以テ一村ト假定スルコト
- 六 大中小農區及牧場ノ位置ヲ定ムルコト
- 七 區畫ノ基線ハ既成道路若クハ豫定道路ニ依ルコト
- 八 區畫法ハ直角法ニ依ルコト
- 小畫(間口百間奥行百五十間地積一萬五千坪)ヲ其單位ト爲シ小畫六箇ヲ合シタル中畫(縱橫各三百間地積九萬坪)ト爲シ中畫九箇ヲ合シタルヲ大畫(縱橫各九百間地積八十一萬坪)ト爲ス
- 九 地勢ニ依リ直角法ニ依ル能ハサルトキ又ハ直角法ニ依ラサルヲ便トスルトキハ大中小區畫ノ地積ハ必スシモ一萬五千坪、九萬坪、八十一萬坪ニ限ラサルコト
- 既成道路又ハ豫定道路ニ面シ可成多數ノ區畫ヲ施設スル時ト雖モ一戸ノ間口六十間以下タルコトヲ得ス(一戸一萬五千坪ヲ標準トス)

十 中畫又ハ之ニ相當スル周圍ニハ地勢ニ依リ四間又ハ六間ノ道路敷地ヲ存スルコト
 但シ幹線道路又ハ排水道路ハ八間縣道ハ十二間國道ハ十五間ノ道路敷地ヲ存スルコト
 十一 區畫地ハ其間口ヲ既成道路又ハ豫定道路ニ向ハシムルコト
 堤防ニ接續シタル土地ハ其間口ヲ堤防ニ面シ兩岸各別ニ區畫ヲ設ケ山麓ニ接シタル土地ハ
 其區畫ノ一方ヲ必ラス道路ニ向ハシムルコト
 十二 區畫地ノ位置ハ何線何番地ト稱スルコト
 但シ線ノ北又ハ東ヲ奇數トシ南又ハ西ヲ偶數トスルコト

第五條 區畫設計ニハ左ノ豫定地ヲ存スヘシ
 一 道路又ハ排水渠敷地幅四間乃至十間
 二 保存林 風防林風致林水源涵養林等ニ區分シ風防林ハ少クモ千八百間毎ニ之ニ相當スル土地ヲ適宜有置スヘシ
 三 市街地 三百戸乃至千戸但シ一戸ノ間口六間奥行十四間八十四坪以下トス
 四 官衙公署及共用地 一萬五千坪内外
 五 學校病院敷地 學校三千坪 病院千五百坪
 六 神社寺院敷地 各千坪
 七 公園遊園敷地 坪數適宜
 八 墓地火葬場 一村一箇所一萬五千坪内外地勢ニ依リ増置スルコトヲ得
 九 町村共有地 耕地三十萬坪(町村費十分二ノ收入ヲ標準トス)
 十 薪炭林及草刈場地形ニヨリ適宜之ヲ設ク(薪炭材ハ一戸一萬二千坪草刈場ハ一戸一萬五千坪ヲ標準トスヘシ)
 但シ現在官林内ニ係ルモノハ調査ヲ要セス

十一 舊土人開墾地一戸ニ付一萬五千坪ノ割
 十二 其他除地ヲ要スルモノハ明治二十年ニ訓示土地調査心得第三條乃至第八條ノ規定ニ依ルヘシ

第六條 第四條及第五條ニ依リ區畫設計圖二萬五千分ノ一ヲ調製シ長官經伺ノ上實施スヘシ
 第七條 區畫施設ハ其設計圖ニ基キ務メテ實地ニ適合セシムルヲ要ス
 前項施設ノ際ニハ尙左ノ事項ヲ精査スヘシ
 一 地理、地勢、原野ノ區域等
 二 土性、地味ノ良否、乾濕等
 三 河川脈湖沼及其他除地トシテ存スヘキモノ
 四 河川ノ水量流水ノ深淺緩急並ニ河岸及河底ノ地質
 五 飲用水ノ良否
 六 排水灌漑ノ便否
 七 交通ノ便否

第八條 區畫施設ヲ了シタルトキハ區畫原圖一萬分ヲ製スヘシ
 但シ道路排水渠ノ最モ急要ナルモノハ之カ設計ヲ爲シ高低圖ヲ添付スヘシ

第九條 區畫施設ノ際民有地貸下地又ハ其他ノ開墾地アルトキハ左ノ如ク之ヲ處理スヘシ
 一 民有地ハ拂下當時ノ實測圖又ハ其他ノ證據ニ依リ其位置ヲ區畫圖ニ示スコト
 二 貸下地ハ閣令ニ依ルモノハ二十六年ニ應令第五號北海道土地拂下規則施行手續第七條ノ標木ニ依リ其位置ヲ區畫圖ニ示スコト若シ閣令又ハ其他ノ貸下地ニシテ四至ノ標木ナキトキハ貸下本人又ハ正當代人ニ就キ其地域ヲ質シ之ヲ區畫圖ニ示スコト

但シ本項後段ノ場合ニ於テ確證ナキモノハ立會人ニ其指導ヲ爲サシメ且誠實ナル指導ヲ爲シタル旨ノ誓書ヲ徴スヘシ

三 前各項ノ場合ニ於テ一筆毎ニ二千分一ノ實測圖ヲ製シ之ニ其性質、位置、坪數、周圍ノ間數、方向、角度、住所氏名等必要ノ事項ヲ記入スヘシ

四 無願開墾者ヲ發見シタルトキハ其來歴、成墾地ノ區域、坪數區畫線ノ關係等ヲ調査シ二千分一ノ實測圖ヲ添ヘ其都度長官ニ具申スヘシ

第十條 測量器ハトランシットヲ用ユヘシ

但シ便宜他ノ測量器ヲ用ユルコトヲ得

第十一條 測鎖ハ竹製ノモノヲ用ユヘシ

但シ豫テ準器ト比較スルヲ要ス

第十二條 區畫地ノ標木ハ左ノ六種ニ區別シテ之ヲ建設スヘシ

- 一 基點標 直徑一尺長四尺 地下ニ埋沒
- 二 線路及大畫中畫見出標 幅三寸乃至四寸 地下二尺埋
- 三 小區畫及道路排水幅標 長八尺(上部赤色ペンキ) 地下二尺埋
- 四 風防林其他除地及止測標境界標 幅二寸五分 長一尺五分以上(上部赤色ペンキ) 地下二尺埋
- 五 中心標 長三尺五分 長五尺 地下二尺埋
- 六 區畫番地標 長五尺 幅三寸 長六尺以上(上部赤色ペンキ) 地下二尺埋

○連絡圖

○土地連絡圖調製ニ關スル實地調査規則

○北海道廳令第二十六號 明治二十九年 五月十六日 (明治二十八年四月北海道廳令第三十六號ハ本廳令ニ依リ廢止ス)

土地連絡圖調製ニ關スル實地調査規則

第一條 土地連絡圖ハ土地整理ノ爲メ實地調査ノ上之ヲ調製スルモノトス

前項調査區域ハ毎年告示スヘシ

第二條 前條ノ調査區域内ニ於ケル土地所有者若クハ官有地貸下人ニシテ地元戸長役場(戸長役場ヲ置カサル地方ハ郡區役所)所轄内居住セサルカ又ハ居住者ニシテ不在ノトキハ連絡圖調製ニ關スル諸般ノ事ヲ處辨シムル爲メ代理人ヲ定メ地元戸長役場(戸長役場ヲ置カサル地方ハ郡區役所)へ届出ツヘシ

調査區域外ト雖モ調査區域ト接続スル土地所有者又ハ官有地貸下人ニシテ前項ノ場合ニ該ルトキ亦同シ(二十九年廳令第四十一號ヲ以テ本項追加)

第三條 土地所有者官有地貸下人又ハ其代理人若クハ現住者等ニシテ調査吏員ヨリ實地調査之通知ヲ受ケタルトキハ其期日ニ實地立會ヲ爲スヘシ

第四條 民有地若クハ官有貸下地ニシテ境界標ナキモノハ土地所有者若クハ官有地貸下人又ハ代理人ニ於テ調査期日前之ヲ建設スヘシ

第五條 正當ノ理由ナクシテ本則第二條第三條第四條ニ違反シタルモノハ二十錢以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

○土地連絡圖調製及整理手續

○北海道廳訓第四百十三號 明治三十年 七月六日

土地連絡圖調製及整理手續

第一章 材料蒐集

- 第一條 土地連絡圖調製豫定區域及材料報告期限ハ主務部課ヨリ關係ノ部課及郡區役所へ通報スヘシ
- 第二條 郡區役所ニ於テ前條ノ通報ヲ受ケタルトキハ左ノ書類ヲ調製シ其期限内ニ當廳へ差出スヘシ
 - 一 郡區長處分ニ係ル貸下地(貸付地)報告表(第一號様式)
 - 二 同上地面寫
 - 三 區長處分ニ係ル賣拂地付與地交換地實測圖寫
- 第三條 前條ノ書類ヲ調製シタル後未開地ヲ貸付若クハ賣拂又ハ付與交換其他異動ヲ生シタルトキハ圖面寫ヲ添へ第二號乃至第四號様式ニ依リ連絡圖調製中ハ其都度調製ヲ了へタル後ハ毎月取纏メ翌月十日限り報告スヘシ
- 但シ調査員出張中ハ其方面ニ屬スル部分ニ限り該員へ直チニ送本スヘシ
- 第四條 關係ノ部課ニ於テ第一條ノ通報ヲ受ケタルトキハ左ノ區分ニ依リ其期限内ニ書類ヲ地理課へ送付スヘシ
 - 拓殖課
 - 一 貸付地取調表(第一號様式)
 - 但シ區畫地ヲ除ク
 - 二 同上圖面寫
 - 三 賣拂地付與地交換地實測圖寫
 - 四 區畫地内ノ貸付地賣拂地付與地交換地及豫定ニ係ル官有地公用地等ノ色分圖
- 一 官林圖

土木課

- 一 道路排水溝渠ノ既成及豫定圖
- 第五條 前條ノ書類ヲ調製シタル後未開地ヲ貸付賣拂若クハ付與交換其他異動ヲ生シ又ハ河身ヲ改修シタルトキハ第三條ニ準シ主務課ヨリ地理課へ通報スヘシ
- 第六條 地理課ニ於テ第十二條ノ手續ヲ了へタル後前條ノ通報ヲ受ケタルトキハ左ノ書類ヲ其都度關係郡區役所へ送付スヘシ
 - 一 官林區域變更圖
 - 二 道路排水溝渠ノ開鑿若クハ改修圖
 - 三 河身改修圖
- 第七條 每町村連絡圖ノ調製ヲ了へタルトキハ地理課ヨリ關係ノ部課へ通報スヘシ
- 第二章 土地整理
- 第八條 郡區役所ニ於テ明治二十九年^北北海道廳告示第四百十五號ノ願届書ヲ受ケタルトキハ各其臺帳ニ照合シ(臺帳ノ備付ナキモノヲ除ク)符合ヲ認メタルトキハ其願届書ニ臺帳照合濟ノ印ヲ捺シ郡區長檢印ノ上其都度進達スヘシ
- 第九條 前條ノ願届書ハ地理課ニ於テ處分完了ノ後關係書類ト共ニ主務課若クハ郡區役所へ引繼ヲ爲スヘシ
- 第十條 主務課若クハ郡區役所ニ於テ前條ノ引繼ヲ受ケタルトキハ直チニ各其臺帳ヲ加除訂正スヘシ
- 第十一條 貸付地ノ重複ヲ發見シ又ハ道路河川堤防其他餘地ヲ要スル爲メ換地貸付ヲ請フモノアルトキハ地理課若クハ地理課出張員ヨリ豫メ其地名位置及地積ヲ關係ノ部課若クハ郡區役所へ通報スヘシ重複賣拂地ニシテ換地貸付ヲ請フ者アルトキ同亦シ

第三章 地圖整理

第十二條 每町村連絡圖ノ調製ヲ了ヘタルトキハ其寫ヲ製シ關係郡區役所ヘ交付スヘシ
第十三條 連絡圖調製後土地ニ異動ヲ生シタルトキハ地理課及郡區役所ニ於テ其都度圖面ヲ修正スヘシ

但シ町村ノ大體ニ變動ヲ來シ又ハ異動頻繁ニシテ其儘修正シ難キモノハ更ニ圖面ヲ調製スヘシ
第一號

何郡區町村貸付地報告(取調)表

明治年月日現在

字	地目	積	貸付期限	許可年月日	沿	革	住	所	氏	名

右及報告(通報)候也
年 月 日

郡區長(拓殖課長)氏名印

備考 長官(地理課長)宛

- 一 地積ハ數字ヲ以テ記載スヘシ
- 一 沿革ノ欄ニハ土地及住所氏名等ノ沿革ヲ記載スヘシ
- 一 住所ノ欄ニハ原籍地及寄留地共記載スヘシ

第二號 何郡區町村貸付(賣拂)(付與)(交換)地報告表

字	目的地目	地	積	貸付期限	許可年月日	住	所	氏	名

右及報告候也

年 月 日
長 官 宛

郡區長氏名印

備考

第三條 監督員ノ監査スヘキ要項左ノ如シ

- 一 勤惰
- 二 施業ノ順序及方法ノ當否
- 三 實地調査ノ當否
- 四 圖面調製ノ當否
- 五 實測原圖ノ地名地目地番等土地臺帳寫ニ符合スルヤ否
- 六 諸報告ノ提出遲滯ナキヤ否ヤ
- 七 諸報告ハ其根據正確ナルヤ否ヤ
- 八 器械ノ保管及圖書類ノ整否

第四條 監督員ハ成ルヘク毎月一回乃至二回監査ヲ執行スルヲ要ス但シ臨時監査ノ必要アルトキハ此限ニアラス

第五條 監督員ハ日誌ヲ設備シ監査シタル要領ヲ記載スヘシ

第六條 監督員ハ監査中成規定則ニ反シ又ハ錯誤アルコトヲ發見シタル場合ハ事ノ輕キモノハ之ヲ訂正セシメ重キモノハ殖民部長ニ申報スヘシ

第七條 監督員ハ調査員ヨリ本廳ニ差出スヘキ報告書ノ類ヲ取纏メ閱査ノ上五日以内ニ遲滯ナク回送スヘシ

第八條 監督員ハ監査シタル事項ハ歸廳後一週間以内ニ書面ヲ以テ北海道廳長官ニ復命スヘシ

○土地整理

○土地調査或堤塘敷地調査規則

○北海道廳令第七十號 明治四十三年五月十二日

土地整理或堤塘敷地調査規則

第一條 土地整理或堤塘敷地確定ノ爲實地ヲ調査ス

前項ノ調査區域ハ毎年之ヲ告示ス

第二條 調査區域内ノ土地所有者又ハ國有地ノ受貸付人ニシテ地元區役所又ハ町村、戶長役場管轄内ニ居住セサルカ若ハ居住者ニシテ不在ノトキハ代理人ヲ定メ遲滯ナク地元區役所又ハ町村戶長役場ニ届出ツヘシ

調査區域外ト雖調査區域ニ接續セル土地所有者又ハ國有地ノ受貸付人ニシテ前項ニ該當スルトキ亦同シ

第三條 土地所有者又ハ國有地ノ受貸付人若ハ其ノ代理人ニシテ實地調査ノ通知ヲ受ケタルトキハ其ノ期日ニ實地立會ヲ爲スヘシ

第四條 調査區域内ノ土地所有者又ハ國有地ノ受貸付人ハ第一條第二項ノ告示後一箇月内以ニ其ノ土地一區域毎ニ地目、地番及氏名ヲ記載シタル標杭ヲ四至ノ境界ニ建設スヘシ

前項ノ標杭ハ調査ノ結果之ヲ異動セシムルコトアルヘシ

本則ニ依リ調査ヲ遂ケ正確ト認メタル標杭ニハ調査済ノ極印ヲ押捺スヘシ

第五條 第三條ニ依リ實地調査ノ通知ヲ受ケ立會ヲ爲ササルトキ又ハ前條ノ標杭ヲ建設セサルトキハ其ノ土地ニ關スル書類及圖面ニ基キ其ノ調査ヲ了スヘシ

第六條 第二條、第三條及第四條第一項ニ違背シタル者ハ五拾錢以上四拾圓以下ノ罰金若ハ科料ニ處ス

附 則

明治二十九年^{五月}北海道廳令第二十六號土地連絡地調製ニ關スル實地調査規則並明治二十九年^{五月}北海道廳告示第四百十五號ハ之ヲ廢止ス

○土地整理並堤塘敷地調査規則ニ依ル代理人届ニ關スル件

○北海道廳訓令第四十二號 ^{明治四十三年五月十二日} 區役所、町村役場、戸長役場

明治四十三年^{五月}北海道廳令第七十號土地整理並堤塘敷地調査規則第二條ニ依リ土地所有者ハ國有地ノ受貸付人ニシテ代理人ヲ定メ届出テタルトキハ調査員出張ノ際之ヲ交付スヘシ

○土地整理並堤塘敷地調査規則施行細則

○訓第六百三十二號 ^{明治四十三年五月十二日}

土地整理並堤塘敷地調査規則施行細則

第一條 土地整理並堤塘敷地調査規則ニ依リ實地ヲ調査シタルトキハ土地連絡圖及堤塘敷地調査圖ヲ調製スヘシ

第二條 土地整理並堤塘敷地調査ノ爲調査スヘキ區域及調査材料報告期限ハ拓殖部ヨリ土木部及支廳ヘ通報スヘシ

第三條 支廳ニ於テ前條ノ通報ヲ受ケタルトキハ其期限内ニ左ノ書類ヲ當廳ニ進達スヘシ
一、支廳處分ニ係ル貸付地、賣拂地、付與地、交換地、使用地報告表(第一號様式)
一、同上圖面寫

第四條 前條ノ書類ヲ進達シタル後國有地ノ貸付、付與、賣拂、交換、使用ノ處分ヲ爲シ又ハ貸付地賣拂地ニ異動ヲ生シタルトキハ圖面寫ヲ添ヘ第一號乃至第三號様式ニ依リ毎月取纏メ翌月十日限リ報告スヘシ但シ調査員出張中ハ其方面ニ屬スル部分ニ限リ直チニ該出張員ヘ送付スヘシ

第五條 土木部ニ於テ第二條ノ通報ヲ受ケタルトキハ其期限内ニ左ノ書類ヲ拓殖部ヘ送付スヘシ

一、道路、運河、溝渠及地形ニ變更ヲ來タスヘキ工事ノ既成及豫定實測圖
一、水面埋立成功認可實測圖

本廳處分ニ係ル道路及堤防敷地等ノ使用ヲ許可シタルモノアルトキハ第一號様式ニ準シ其月分ヲ翌月十日限リ圖面ト共ニ拓殖部ニ送付スルヲ要ス

第六條 前條ノ書類送付ノ後道路、運河溝渠等ノ新設變更若ハ河身ヲ改修シ又ハ埋立成功シタルモノアルトキハ第四條ニ準シ土木部ヨリ拓殖部ヘ通報スヘシ

第七條 一區町村ノ土地整理又ハ堤塘敷地調査ヲ了シタルトキハ其都度拓殖部ヨリ土木部及支廳ヘ通報スヘシ

第八條 支廳ニ於テ土地整理又ハ堤塘敷地調査ニ附帶スル土地寄附、上地又ハ貸付地返還等ノ願書ヲ受理シタルトキハ其都度進達スヘシ

第九條 前條ノ願書ハ拓殖部ニ於テ土地連絡圖又ハ堤塘敷地調査圖ニ對照調査ノ上本廳處分ニ屬スルモノハ處分完了ノ後支廳ニ通知シ支廳處分ニ屬スルモノハ處分方通牒スヘシ

第十條 一區町村ノ土地連絡圖又ハ堤塘敷地調査圖ノ調製ヲ了シタルトキハ其ノ謄寫圖ヲ支廳ニ交付シ又タ堤塘敷地調査圖寫ヲ土木部ニ送付スヘシ

第十一條 土地連絡圖又ハ堤塘敷地調査圖調製後支廳ニ於テ國有地ノ貸付賣拂、付與、又ハ交換處分ヲ爲シタルトキハ第一號様式ニ依リ圖面ヲ添ヘ其都度報告スヘシ

第十二條 土地連絡圖又ハ堤塘敷地調査圖調製後土地ニ異動ヲ生シタルトキハ各主務部又ハ支廳ヨリ之ヲ通報シ拓殖部、土木部及支廳ニ於テ其都度圖面ヲ修正スヘシ

附 則

右土地整理並堤塘敷地調査規則施行細則第何條ニ依リ報告候也

年 月 日

長 官 宛

支 應 長 氏 名 印

備考 一、一號様式備考第一項及第三項ハ本表ニ適用ス

○風防林調査規程

○本廳決議

大正二十二年 六月二十四日

風防林地調査規程

- 第一條 本調査ハ風防林ニシテ急速整理ノ必要アルヶ所ニ對シテ之ヲ行フ
- 第二條 出張員ハ一原野毎ニ左記事項ヲ調査スヘシ
- 一 風防林附近開發ノ狀況
 - 二 風防林ト附近市街地トノ關係
 - 三 風防林地ノ土質、地味、地形、傾斜ノ度合、樹木ノ種類、林相ノ良否並ニ植樹ノ必要ノ有無
 - 四 樹木誤盜伐ノ有無程度並ニ侵墾シタルモノアラハ狀況及侵墾者ノ住所氏名
 - 五 風防林ノ使用ヲ許可シタルモノハ其墾成植樹ノ狀況
- 第三條 風防林地植樹ノ必要アリト認メタルモノニ付テハ左記標準ニ依リ風防上適當ト認ムル幅員

ヲ調査スヘシ但シ風防林ノ存廢調査ノ際既ニ調査ヲ了シタルヶ所ニ對シテハ之ヲ要セス

- 一 敷幅百五十間ノヶ所ハ中真若クハ片側ニ於テ六十間乃至百間
- 二 敷幅百間ノヶ所ハ中真六十間若クハ片側六十間

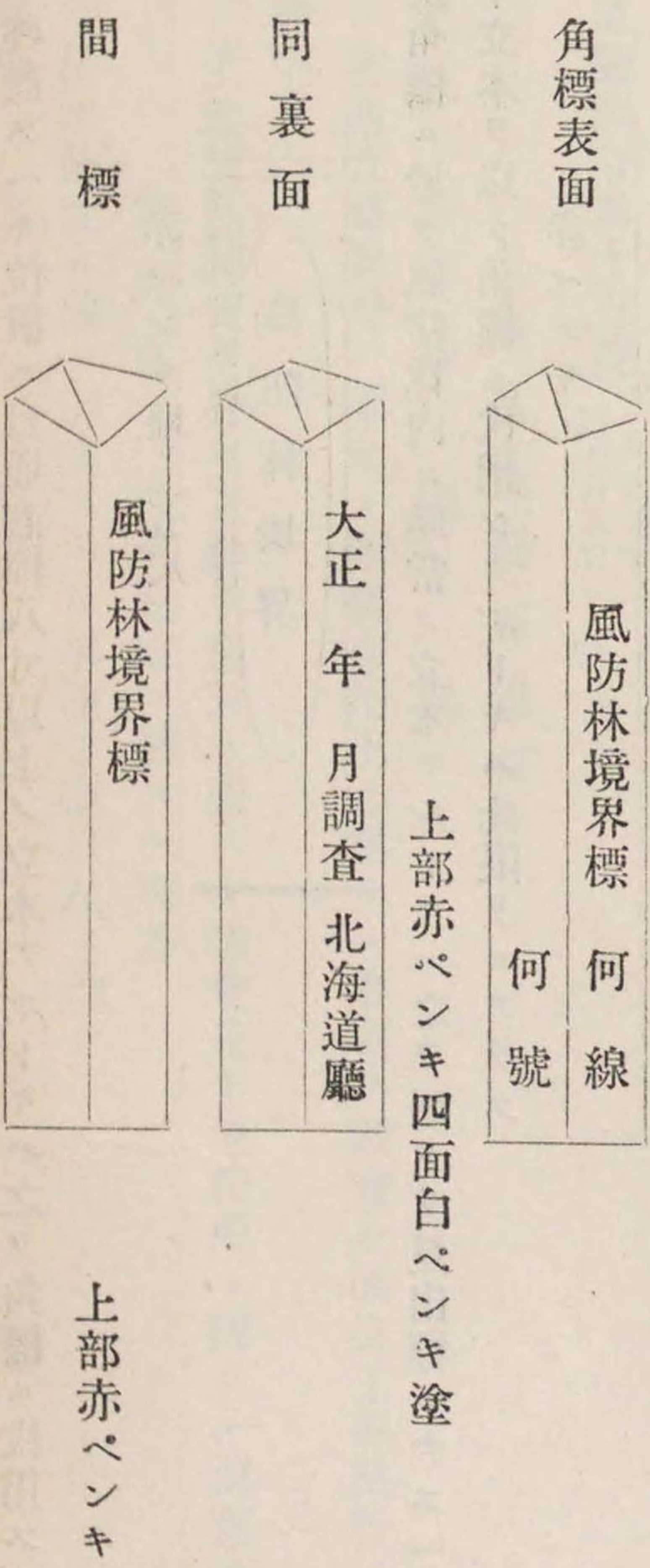
第四條 出張員ハ風防林ノ境界ヲ測定シ左記標杭ヲ建設スヘシ

基點標及同幅標直徑一尺長二尺地下埋設丸形標杭ヲ使用スルコト

角 標 五寸角長六尺地下二尺埋標杭根元ニ於テ地上一尺五寸ノ盛土ヲナスヘシ

間 標 中三寸五分 長四尺地下一尺埋標杭根元ニ於テ地上一尺ノ盛土ヲナスヘシ

角標ハ區畫地ニ在テハ區畫線ノ交叉點ニ區畫外ニ在テハ各隅點又右角標間ノ距離直線ニ三百間以上アルトキハ三百間毎ニ一點ヲ建設シ間標ハ角標ト角標トノ中間ニ建設スルモノトス其記載方左ノ如シ



間標ヲ建設スヘキ位置ニ目通直徑八寸以上ノ立木アルトキハ之ヲ角標ニ代用スヘシ其記載方左ノ如シ

赤ペンキ地上五尺

風防林境界

基點及角標ニ於テ風防林内ニ適當ノ立木アルトキハ之ヲ削リテ見出標トナスヘシ其記載方左ノ如シ但シ立木ヲ以テ角標ニ代用シタルトキハ此限リニアラス

赤ペンキ

風防林境界標(或ハ基點標)

位置(東西)何間何尺

(南北)

第五條 前條ノ境界測定ノ方法ハ區畫圖ニ在リテハ風防林附近ノ區畫中眞杭三點以上ヨリ既定ノ間數ヲ測定シテ之ヲ定メ若シ中眞杭存在セサルカ又ハ存在セリト雖モ確實ト認メ難キ場合並ニ區畫地外ニ在リテハ既成道路民有地賣拂地又ハ貸付地等ノ境界標ニ依リ測定スヘシ
第六條 未開地若クハ官林内ニ於テ作業ノ爲メ立木ヲ伐倒シタルトキハ伐根ニ刻印ヲナスヘシ
第七條 調査ヲ了シタルトキハ左記ノ色分圖ヲ調製シ一原野毎ニ報告スヘシ但シ區畫地ニ在テハ二万五千分一區畫圖區畫外ニ在テハ五万分一地形圖ヲ用フヘシ

前項ノ圖面ニハ風防林ノ全地積及使用許可地並ニ使用許可見込地ノ地積ヲ記載スヘシ

風防林境界線

風防林内使用許可地境界線

使用許可見込地

草生地

笹生地

潤葉樹

針葉樹

侵襲地

紺青色實線

朱色實線

洋紅斜線

黃色

薄綠

綠色散點

紺青色散點

褐色

○土地改良調査規程

○北海道廳訓令第十五號 大正三年三月五日

土地改良調査規程

第一章 總則

第一條 土地改良調査ハ濕地ノ開發利用上必要ナル事項ヲ調査シ改良工事施行ノ計畫ヲ定ムルヲ以テ目的トス

第二條 土地改良調査ヲ分チテ排水施設ニ關スル調査及土地利用ニ關スル調査ノ二種トス

第三條 排水施設ニ關シ調査スヘキ事項ノ概目左ノ如シ

一 地形

- 二 排水路測定
- 三 降水量
- 四 地質及地表並地下水
- 五 關係河川湖沼等ノ水位
- 六 關係河川ノ汎濫狀態
- 七 潰地ニ關スル事項
- 八 工費用材料ニ關スル事項
- 九 附帶工事其ノ他必要ト認ムル事項
- 第四條 地形調査ハ關係區域ノ全般ニ涉ルコトヲ要ス
- 第五條 排水路測定ニ付テハ水路幹支線ノ選定ヲ爲シ其平面測量縱斷面測量及作工物ニ關スル調査ヲ行フヘシ
- 測杭ハ水路線ニ沿ヒ二十間毎及特ニ必要アリト認メタル箇所毎ニ之ヲ設クヘシ
- 第六條 地質ニ付テハ手堀又ハ「ハンドホールディング」ニ依リ地質ノ變化ヲ調査シ其ノ標品ヲ採取シ置クヘシ地質調査ハ地盤以下六尺以上ニ及ホスヘシ
- 地表及ヒ地下水調査ハ排水見込區域ノ全般ニ涉リ之ヲ行ヒ仍地下水ニ就テハ地表ヨリ三尺以上ニ及ホスヘシ
- 第七條 主任技師ノ報文ニハ調査ノ狀況經過等ヲ詳述シ左ノ書類及圖面ヲ添付スヘシ
 - 一 計畫説明書
 - 二 工費概算書(單價表ヲ含ム)
 - 三 工事箇所付表(潰地調査ヲ含ム)

- 四 工事仕様書
- 五 土坪計算書
- 六 一般平面圖
- 七 水路平面圖
- 八 水路縱橫斷面圖
- 九 作工圖
- 十 地質調査圖表
- 十一 其ノ他參考トナルヘキ圖面及諸表ノ類
- 第八條 計畫説明書ニハ左ノ事項ヲ詳記スヘシ
 - 一 改良見込區域内ノ面積及土地ノ狀況
 - 二 排水施設ニ依リ改良シ得ヘキ土地ノ面積
 - 三 水路線選定
 - 四 降水量
 - 五 地質及地表並地下水
 - 六 關係河川及湖沼等ノ水位
 - 七 關係河川ノ汎濫狀態
 - 八 水路ノ流量及斷面ノ計算
 - 九 潰地
 - 十 工費用材料
 - 十一 附帶工事

- 十二 排水施設ニ伴ヒ土地ノ改良以外ニ間接ニ生スヘキ利益アル場合ニ於テハ其種類及程度
- 十三 其他排水施設上必要ト認ムル事項
- 第九條 一般平面圖ハ縮尺二万五千分ノ一以上トシ關係區域ノ全般ヲ包容セシムルコトヲ要ス
 - 一 一般平面圖ハ他ニ利用スルコトヲ得ヘキ適當ノ圖面アルトキハ之ヲ以テ代フルコトヲ得
 - 一 一般平面圖ニ記入スヘキ事項左ノ如シ
 - 一 地形(同高線ヲ以テ表ハス)
 - 二 改良見込區域ノ境界線
 - 三 水路中心線及測點番號
 - 四 郡區町村大字界
 - 五 改良見込地ノ地目別
 - 六 改良見込區域内及之ニ隣接スル土地所有者ノ氏名
 - 七 關係河川ノ構造物
 - 八 洪水汎濫線
 - 九 既成又ハ未成ノ鐵道及道路(國、縣、里、道及經路等)
 - 十 雨量計ノ位置
 - 十一 量水標ノ位置
 - 十二 其ノ他顯著ナル地物
- 第十條 水路平面圖ハ縮尺三千分ノ一以上トシ左ノ事項ヲ記載スヘシ
 - 一 水路線及測定番號
 - 二 曲線ノ起終點番號及半徑

- 三 水路用地ノ地目別及所有者ノ氏名
- 四 既成又ハ未成ノ鐵道及道路
- 五 各作工物ノ位置
- 六 其ノ他顯著ナル地物
- 第十一條 水路縱斷面圖ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ
 - 一 測點番號
 - 二 曲線ノ位置方向及半徑
 - 三 地面高
 - 四 施工面高
 - 五 切土深、盛土高
 - 六 水路ノ勾配
 - 七 橫斷河川及水路並各作工物ノ位置
- 第十二條 水路橫斷面圖ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ
 - 一 測點番號
 - 二 中心ニ於ケル切土深及盛土高
 - 三 切盛土ノ斷面積及其算出方法
- 第十三條 作工圖ノ作製ニ付テハ左記各項ニ依ルヘシ
 - 一 縮尺ハ工法ヲ明瞭ナラシムル範圍ニ於テ適當ニ之ヲ定ムルコト
 - 二 縮尺ノ異レル作工圖ニハ一々縮尺ヲ記入スルコト
 - 三 構造ノ細部ヲ明ニスル爲必要ニ應シ平面、側面、正面、背面、及各斷面ヲ示スコト

- 四 工費算出ノ基礎トナルヘキ材料ノ種類及寸法ヲ記スルコト
- 五 疏水ニ關スル作工圖ニハ總テ計畫水位ヲ記入シ尙水位ノ變化ヲ受クヘキ箇所ニ付テハ其最高及最低水位ヲ記入スルコト
- 六 土工ノ附帶スル作工物ニ付テハ土工圖ノ全部ヲ併記スルコト
- 第十四條 地質調査圖表ニハ地質ノ變化ヲ記載スヘシ
- 第十五條 土木事業執行規程第十二條乃至第十八條第二十一條第二十三條ノ規定ハ排水施設ニ關スル調査ニ準用ス
- 第十六條 土木派出所ニ於テ排水施設ニ關スル調査ヲ行フ場合ニ於テハ主任技師ノ職務ヲ行フ者ハ當該土木派出所長トス

第三章 土地利用ニ關スル調査

- 第十七條 土地利用ニ關シ調査スヘキ事項左ノ如シ
 - 一 土性ニ關スル事項
 - 二 農事ニ關スル事項
 - 三 市場ニ關スル事項
 - 四 氣候其他ニ關スル事項
- 第十八條 土性ニ關シテ各地目毎ニ左ノ事項ヲ調査スヘシ
 - 一 表土ノ性質及其深淺
 - 二 底土ノ性質
 - 三 各種土壤ノ分布區域及面積
 - 土壤ノ種類ハ左ノ八種ニ分ツヘシ

- 一 壤土(砂質壤土、粘質壤土等)
- 二 粘土(砂質粘土等)
- 三 砂土
- 四 礫土
- 五 腐植土
- 六 火山灰土
- 七 高位泥炭
- 八 低位泥炭

第十九條 農事ニ關シテハ左ノ事項ヲ調査スヘシ

- 一 土地改良後水田又ハ畑地トシテ利用シ得ヘキ區域並面積及殘地ノ利用方法
- 二 新墾ノ方法及費用
- 三 新墾地ニ栽培スヘキ主要作物ノ種類及其ノ生産額
- 四 新墾後逐年ノ地産力
- 五 成墾地ノ改良後ニ於ケル利用方法及生産力ノ増加
- 六 農家一戸ノ耕作反別及主要作物
- 七 農家一戸ノ收支計算
- 八 小作ノ契約年期、年限及小作料
- 九 副業ノ種類
- 十 肥料ノ種類、價格及使用方法
- 十一 土地ノ價格

前項第三號以下ノ調査ハ附近農家ノ状態ニ就キ之ヲ行フヘシ

第二十條 市場ニ關シテハ左ノ事項ヲ調査スヘシ

一 市場ノ遠近

二 交通ノ便否

三 農産物ノ運送賃(市場又ハ停車場ニ至ル)

第二十一條 氣候其他ニ關シテハ左ノ事項ヲ調査スヘシ

一 氣温

二 降水量

三 初霜及晩霜

四 初雪及融雪

五 海霧

六 播種季、收穫季及各其季節ニ於ケル天候

七 春夏秋ニ於ケル風向及其強度

八 飲料水ノ良否

九 防風林ノ位置廣袤及面積若シナントセハ其ノ設置方法

十 農道ノ位置、延長、幅員及築設費

十一 主要ナル天然植物ノ種類

第二十二條 主任技師ハ前各條調査ノ結果ニ基キ土地利用ニ關スル報文ヲ作り長官ニ提出スヘシ報

文ニハ調査ノ狀況經過等ヲ詳述シ左ノ書類及圖面ヲ添付スヘシ

一 土性調査書

二 地目別色分圖

三 土壤分布圖

四 土地利用計劃書(色分圖添付)

五 土地ノ生産力及土地價格ニ關スル調査書

六 農家一戸ノ作付反別及收支計算書

七 市場氣候其他ニ關スル調査書

八 土地改良ニ對スル收支比較調査書

九 其他參考トナルヘキ事項

第十三類

○要塞地帯

○要塞地帯法

○法律第百五號

明治三十二年七月

要塞地帯法

第一章 總 則

第一條 要塞地帯トハ國防ノ爲建設シタル諸般ノ防禦營造物ノ周圍ノ區域ヲ云フ

第二條 要塞地帯ノ幅員ハ防禦營造物ノ各突出部ヲ連結スル線ヲ基線トシ此ノ線ヨリ外方一定ノ距離内ニ於テ之ヲ定ム

第三條 要塞地帯ハ陸地ト海面トヲ問ハス之ヲ三區ニ分チ各區ノ幅員ハ左ノ區別ニ從ヒ陸軍大臣之ヲ定メ竝之ヲ告示ス其ノ之ヲ變更スル場合亦同シ但シ陸軍防禦營造物ノ地帯及第七條第二項ノ區域カ海軍防禦營造物ノ地帯及第七條第二項ノ區域ト相關聯スルカ或ハ軍港要港又ハ海軍用地ニ係ル場合竝陸軍用地カ海軍防禦營造物ノ地帯及第七條第二項ノ區域ト相關聯スル場合ニ於テハ陸軍大臣海軍大臣協議ノ上之ヲ定メ連署シテ告示ヲ爲スコトヲ要ス

第一區 基線ヨリ測リ二百五十間以内及基線ト防禦營造物間ノ區域

第二區 基線ヨリ測リ七百五十間以内

第三區 基線ヨリ測リ二千二百五十間以内

第四條 要塞司令官鎮守府司令官要港部司令官築城部本部長ハ要塞地帯ヲ劃スル爲其ノ他必要ト

認ムル場合ニ於テハ部下官僚ヲシテ要塞地帯内及第七條第二項ノ區域内何レノ地ヲ問ハス出入セシムルコトヲ得但シ陸海軍用地内ニ出入セシメントスルトキハ互ニ當該官廳ノ承認ヲ經ヘシ

第五條 陸軍防禦營造物ノ地帯及第七條第二項ノ區域ニ關聯セサル海軍防禦營造物ノ地帯及第七條

第二項ノ區域内ニ關シテハ此ノ法律ニ規定スル陸軍大臣ノ職務ハ海軍大臣之ヲ行ヒ要塞司令官ノ職務ハ鎮守府司令長官要港部司令官之ヲ行フ

第六條 此ノ法律ハ防禦營造物ノ設ナシト雖之ヲ設クルコトニ決定シタル箇所ニ於テ其ノ豫定防禦營造物ノ各突出部ヲ連結スル線ヲ基線トシ第二條第三條及第七條第二項ニ定メタル區域ニ付テ亦之ヲ適用ス但シ基線以内ノ區域ハ第一區ニ準ス

第一章 禁止及制限

第七條 何人ト雖要塞司令官ノ許可ヲ得ルニ非サレハ要塞地帯内水陸ノ形狀ヲ測量、撮影、模寫、錄取スルコトヲ得ス

前項ノ規定ハ要塞地帯外ト雖第三區ノ境界線ヨリ外方三千五百間以内ノ區域ニ於テ之ヲ適用ス

第八條 要塞司令官ハ要塞地帯内ニ入り兵備ノ狀況其ノ他地形等ヲ視察スル者ト認メタルトキハ之ヲ要塞地帯外ニ退去セシムルコトヲ得

第九條 要塞地帯ノ第一區ニ屬スル水面ニ在リテハ要塞司令官ノ許可ヲ得ルニ非サレハ漁獵、採藻及艦船ノ繫泊土砂ノ掘鑿ヲ爲スコトヲ得ス

第十條 第一區内ニ於テ新設スルコトヲ得サルモノ左ノ如シ

- 一 不燃質物ヲ以テ築造セル家屋及倉庫
- 二 害室及固定竈爐
- 三 不燃質物ヲ以テ築造セル高サ二尺ヲ超ユル諸般ノ築造物

第十一條 第一區内ニ於テ要塞司令官ノ許可ヲ得ルニ非サレハ新設スルコトヲ得サルモノ左ノ如シ

- 一 埋葬場
- 二 水車及風車
- 三 井
- 四 容易ニ他ニ移動スヘカラサル器械器具ヲ備フル家屋
- 五 生垣及木造ノ圍牆
- 六 第十條第一號ニ於テ禁セサル家屋及倉庫

第十二條 第二區内ニ於テ要塞司令官ノ許可ヲ得ルニ非サレハ新設スルコトヲ得サルモノ左ノ如シ

- 一 不燃質物ヲ以テ築造セル家屋及倉庫
- 二 埋葬地
- 三 不燃質物ヲ以テ築造セル高サ三尺ヲ超ユル諸般ノ築造物

第十三條 第一區第二區内ニ於テハ要塞司令官ノ許可ヲ得ルニ非サレハ屋内ト屋外トヲ問ハス累積スルコトヲ得サルモノ左ノ如シ

- 一 第一區内ニ於テハ高サ五尺第二區内ニ於テハ高サ八尺以上ニ累積スル不燃質物及石炭類
- 二 第一區内ニ於テハ高サ一丈三尺、第二區内ニ於テハ高サ一丈七尺以上ニ累積スル薪炭及竹木材

第十四條 第一區第二區内ニ於テハ要塞司令官ノ許可ヲ得ルニ非サレハ家屋倉庫及諸般ノ築造物ヲ改築増築スルコトヲ得ス

第十五條 各區内ニ於テ要塞司令官ノ許可ヲ得ルニ非サレハ新設若ハ變更スルコトヲ得サルモノ左ノ如シ

- 一 地表ノ高低ヲ永久ニ變更スル土工即チ堆土、開鑿等
- 二 溝渠、鹽田、排水及灌水
- 三 公園、育樹場、竹木林、果園及桑茶畑
- 四 耕作地

第十六條 各區内ニ於テ陸軍大臣ノ許可ヲ得ルニ非サレハ新設若ハ變更スルコトヲ得サルモノ左ノ如シ

堤塘、運河、道路、橋梁、鐵道、隧道、永久棧橋

第十七條 本章ノ禁止制限ニ違犯シ新設改築増築變更シタル家屋倉庫其ノ他ノ築造物又ハ累積物等ハ違背者ヲシテ期限ヲ定メテ之ヲ除去セシメ地形ノ變更ニ係ルモノハ之ヲ復舊セシメ期限内ニ除去復舊セサルトキ若ハ其期限内ニ終了スルノ見込ナキトキ又ハ其ノ方法宜シキヲ得サルトキハ官廳ニ於テ自ラ之ヲ執行シ又ハ第三者ヲシテ之ヲ執行セシメ其ノ費用ヲ義務者ヨリ徴收スルコトヲ得

前項義務者ニ於テ負擔スヘキ費用ハ國稅ノ滯納處分ニ關スル規定ニ依リ之ヲ徴收スルコトヲ得但シ政府國稅ニ次キ先取權ヲ有ス

本條ノ處分ハ第十六條ノ違背者ニ就テハ陸軍大臣之ヲ爲シ其ノ他ノ違背者ニ就テハ要塞司令官之ヲ爲スヘシ

第十八條 地帯ノ禁止制限ニ關シ官廳ノ處分ニ服セサル者ハ其ノ處分ニ就テノ告示又ハ通達ヲ受ケタル日ヨリ三十日以内ニ陸軍大臣ニ訴願スルコトヲ得但シ訴願中處分ノ執行ヲ妨ケス

第十九條 陸軍大臣ハ場合ニ依リ或區域内ニ限り特ニ本章禁止制限ノ全部若ハ一部ヲ解除スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ其ノ解除ノ事項及其ノ區域ヲ告示ス之ヲ變更スルトキ亦同シ

第二十條 本章ノ禁止及制限ハ陸海軍又ハ陸海軍官廳ノ行動又ハ施設ニ對シテハ之ヲ適用セス但シ陸軍防禦營造物ノ地帯及第七條第二項ノ區域ニシテ海軍防禦營造物ノ地帯及第七條第二項ノ區域ト相關聯スル場合若ハ軍港要港又ハ海軍用地ニ係ル場合並陸軍用地カ海軍防禦營造物ノ地帯及第七條第二項ノ區域ト相關聯スル場合ニ於テ當該陸軍官廳若ハ海軍官廳カ此ノ法律ニ掲クル許可又ハ承認ヲ爲シ若ハ第十九條ノ處分ヲ爲サントスルトキハ陸軍官廳ハ當該海軍官廳ニ海軍官廳ハ當該陸軍官廳ニ協議スルコトヲ要ス

第二十一條 陸海軍以外ノ官廳ニ於テ第七條第九條第十一條乃至第十五條ニ掲クル事項ヲ爲サントスルトキハ要塞司令官ノ承認第十六條ニ掲クル事項ヲ爲サントスルトキハ陸軍大臣ノ承認ヲ受クルコトヲ要ス

第三章 罰 則

第二十二條 第七條及第九條ノ禁ヲ犯シタル者ハ一年以上一年以下ノ重禁錮又ハ二圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス第八條ニ依リ要塞司令官ニ退去ヲ命セラレ其ノ命ニ從ハサル者亦同シ

第二十三條 第七條及第九條ノ罪ヲ犯サントシテ未タ遂ケサル者ハ未遂犯罪ノ例ニ照シテ處斷ス

第二十四條 第十條乃至第十三條第十五條及第十六條ニ違背シタル者ハ二圓以上四十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十五條 第十四條ニ違背シタル者ハ五錢以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

第二十六條 要塞地帯各區及第七條第二項ノ區域ヲ標示スル爲ニ設ケタル標石、標木、標札ノ類ヲ移轉シ又ハ之ヲ毀壞シタル者ハ十一日以上二月以下ノ重禁錮ニ處シ又ハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス其ノ過失ニ出テタル者ハ五錢以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

第四章 雜 則

第二十七條 要塞地帯創設告示ノ當時家屋倉庫築造物等ノ新設、變更、改築、増築中ニ係ルモノハ此ノ法律ノ禁止制限ヲ適用セス

第二十八條 要塞地帯各區及第七條第二項ノ區域ヲ標示スル標石、標木若ハ標札ノ類ヲ建設スル爲ニ要スル敷地ノ買収及使用ニ關シテハ明治二十三年法律第二十三號陸地測量標條例ノ規定ヲ準用ス

第二十九條 此ノ法律ノ施行ニ關シ必要ナル規定ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

附 則

第三十條 此ノ法律ハ軍港規則及要港規則ノ效力ヲ妨クルコトナシ

第三十一條 明治三十一年勅令第七十六號ハ此法律ニ依リ第三條又ハ第六條ノ告示ヲ爲シタル箇所ニ限リ其ノ效力ヲ失フ

○要塞地帯法施行規則ノ件

○陸軍省令第十四號 明治三十三年六月

要塞地帯法施行規則

第一條 要塞地帯法ニ於テ不燃質物ト稱スルハ金屬煉瓦石土及之ニ準スヘキモノヲ謂ヒ道路橋梁ト稱スルハ國道縣道及道幅三間以上ノ公共道路及此等ノ路線ニ架設スル橋梁ヲ謂フ

第二條 左ニ掲クル事項ハ許可ヲ受クルノ限リニ在ラス

一 港灣ニ出入スル艦船ノ航行ニ必要ナル錘測

二 土地ノ丈量但シ地目地類ノ變換土地分合境界査定家屋倉庫ノ新設變更並本項第三號乃至第十號ニ掲クル作業ニ要スルモノニ限ル

三 長サ百間ヲ超ヘサル生垣及木造ノ圍牆ノ新設變更

四 建坪三十坪ヲ超ヘサル平家ノ家屋倉庫ノ新設變更但シ不燃質物ヲ以テ築造セサルモノニ限ル

五 高低一尺面積百坪ヲ超エサル堆土開鑿等

六 宅地内ニ於テスル築山(高サ六尺以)泉水(深サ三尺ニ滿)等ノ新設變更

七 不可抗力ニ由リ變更シタル土地物件ヲ原狀ニ復スル作業

八 深サ二尺幅三尺ヲ超ヘサル溝渠及排水灌水ノ新設變更

九 竹木林ノ伐採

十 面積百坪ヲ超ヘサル育樹場果園桑茶畑鹽田及耕作地ノ新設變更

第三條 要塞地帯法第十條及第十六條ノ禁止ヲ解除シタル場合ニ於テハ尙要塞司令官ノ許可ヲ受クルコトヲ要ス(明治三十四年十月陸軍省令第十五號ヲ以テ改正)

第四條 要塞司令官ノ許可ヲ得ムトスル者ハ左ニ掲クル事項ヲ記シ其作業地ヲ管轄スル市町村長ノ

奧書ヲ得テ當該要塞司令官ニ願出ツヘシ

一 要塞地帯法第七條ニ掲クルモノニ在リテハ其目的區域及期限

二 要塞地帯法第九條ニ掲クルモノニ在リテハ漁獵採藻ノ區域及期限艦船繫泊ノ位置及期限土砂掘鑿ノ區域方法及期限

三 要塞地帯法第十條(解除シタル)乃至第十二條並第十五條及第十六條(解除シタル)ニ掲クルモノニ在リテハ其目的設計位置及落成期限但シ同法第十一條第四號ニ掲クルモノニ在リテハ其器械

器具設備ノ設計及其位置共(明治三十四年十月陸軍省令第十五號ヲ以テ改正)

四 要塞地帯法第十三條ニ掲クルモノニ在リテハ累積物ノ種類累積ノ目的位置高サ並期間

要塞地帯法第十四條ニ依リ許可ヲ得ムトスル者ハ前項ニ準ス

第五條 陸軍大臣ノ許可ヲ得ムトスル者ハ工事ノ種類設計及落成ノ期日ヲ記シ地方長官ノ證明ヲ受ケ當該要塞司令官ヲ經由シテ陸軍大臣ニ願出ツヘシ但シ本則第七條ノ場合ニハ地方長官ノ證明ヲ要セス

第六條 府縣郡市町村水利組合其他公共團體並社團法人ニ在リテハ其代表者ヨリ願出ツヘシ

第七條 許可ヲ受ケヘキ事項ニシテ別ニ法令ノ規定ニ依リ主務官廳ノ許可ヲ要スルモノハ先ツ其許可ヲ受ケ許可書ノ謄本ヲ添付スルコトヲ要ス

第八條 前數條ノ規定ハ許可ヲ得タル事項ヲ變更セントスル場合ニ之ヲ準用ス

第九條 許可ヲ與ヘタルトキハ許可證ヲ交付ス

第十條 許可證ハ作業ヲ實施スル者必携帶シ何時ニテモ憲兵衛戍服務ノ軍人及警察官吏ノ閱覽ニ供スヘシ

前項ノ場合ニ於テハ同時ニ最寄警察官署又ハ憲兵屯所ニ其旨ヲ届出テ作業ヲ繼續スルコトヲ得

第十一條 許可ヲ受ケタル作業ノ場所ニ許可濟ノ旨ヲ記シタル標札ノ類ヲ掲クヘシ但シ要塞地帯法第七條及第九條ニ掲クルモノニ在リテハ此限リニ在ラス

第十二條 許可ヲ受ケタル工事完成シタルトキ又ハ之ニ著手セス若ハ之ヲ中止シタルトキハ速ニ其旨ヲ作業地ヲ管轄スル市町村長ニ届出ツヘシ市町村長ハ之ヲ取纏メ毎月末日ヲ以テ當該要塞司令官ニ報告スヘシ

第十三條 許可證ヲ所持スヘキ者ニシテ當該官ノ閱覽ヲ拒ミタル者ハ一圓以上十圓以下ノ罰金ニ處ス

附 則

第十四條 本則ハ陸軍防禦營造物ノ地帯及要塞地帯法第七條第二項ノ區域ニ關聯セサル海軍防禦營造物ノ地帯及要塞地帯法第七條第二項ノ區域ヲ除キ總テノ要塞地帯及要塞地帯法第七條第二項ノ區域ニ關シテ之ヲ適用ス

第十五條 本則ハ明治三十三年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

○同 上 ノ 件

○海軍省令第十六號 明治三十三年六月

要塞地帯法施行規則

第一條 要塞地帯法ニ於テ不燃質物ト稱スルハ金屬煉瓦土石及之ニ準スヘキモノヲ謂ヒ道路ト稱スルハ國道縣道及道幅三間以上ノ公共道路ヲ謂ヒ橋梁ト稱スルハ道路ヲ交續スル爲メ架設スルモノヲ謂フ

第二條 左ニ掲クル事項ハ要塞地帯法ニ依リ許可ヲ受クルヲ要セス但シ海軍大臣ノ告示スル區域及事項ニ就テハ此ノ限ニアラス(三十四年十二月省令第十四號ヲ以テ改正)

一 港灣ニ出入スル艦船ノ航行ニ必要ナル錘測

二 土地ノ丈量但シ地目地類ノ變換土地分合境界査定家屋倉庫ノ新設變更並本項第三號乃至第十號ニ掲クル作業ニ要スルモノニ限ル

三 長サ百間ヲ超ヘサル生垣及木造ノ圍牆ノ新設變更

四 建坪三十坪ヲ超ヘサル平屋建ノ家屋倉庫ノ新設變更但シ不燃質物ヲ以テ築造スルモノヲ除ク

五 高低一尺面積百坪ヲ超ヘサル堆土開鑿等

六 宅地内ニ於テスル築山(高サ六尺以)泉水(深サ三尺ニ滿)ノ新設變更

七 不可抗力ニ由リ變更シタル土地物件ヲ原狀ニ復スル作業
 八 深サ二尺幅三尺ヲ超ヘサル溝渠排水及灌水ノ新設變更
 九 竹木林ノ伐採
 十 面積百坪ヲ超ヘサル育樹場果園桑茶畑鹽田及耕作地新設變更
 第三條 鎮守府司令長官若ハ要港部司令官ノ許可ヲ得ムトスル者ハ左ニ掲クル事項ヲ記シ其ノ作業地ヲ管轄スル市町村長ノ奥書ヲ得テ當該鎮守府司令長官若ハ要港部司令官ニ願出ツヘシ
 一 要塞地帯法第七條ニ掲クルモノハ其目的區域及期限
 二 同法第九條ニ掲クルモノハ漁獵採藻ノ區域及期限艦船繫船ノ位置及期限土砂掘鑿ノ區域方法及期限
 三 同法第十一條第十二條第十四條及第十五條ニ掲クルモノハ其ノ目的設計位置及落成期限但シ同法第十四條第四號ニ掲クルモノハ其ノ器械器具ノ位置及設計ヲモ詳記スルヲ要ス
 四 同法第十三條ニ掲クルモノハ累積物ノ種類累積ノ目的位置高サ並期間
 第四條 要塞地帯法第十條第十六條ノ事項ノ禁止ヲ解除シタル場合ニハ仍ホ本則第三條第五條ノ規定ヲ適用シ鎮守府司令長官若ハ要港部司令官ノ許可ヲ受クルコトヲ要ス(明治三十四年十月海軍省令第十號ヲ以テ改正)
 第五條 海軍大臣ノ許可ヲ得ントスルモノハ工事ノ種類設計及落成ノ期日ヲ記シ地方長官ノ證明ヲ受テ當該鎮守府司令長官若ハ要港部司令官ヲ經由シテ海軍大臣ニ願出ツヘシ但シ本則第七條ノ場合ニハ地方長官ノ證明ヲ要セス
 第六條 府縣郡市町村水利組合其ノ他公共團體並ニ社團法人ニ在テハ其ノ代表者ヨリ願出ツヘシ前項ノ場合又ハ要塞地帯法第七條中撮影模寫錄取ヲ出願スル場合若ハ本則第七條ノ場合ニハ本則第三條ノ奥書ヲ要セス

第七條 許可ヲ受クヘキ事項ニシテ別ニ法令ノ規定ニ依リ主務官廳ノ許可ヲ受クルヲ要スルモノハ先ツ其許可書ノ謄本ヲ添付スルコトヲ要ス
 第八條 前數條ノ規定ハ許可ヲ得タル事項ヲ變更セムトスル場合ニ之ヲ準用ス
 第九條 許可ヲ與ヘタルトキハ許可證ヲ交付ス
 許可證ハ作業ヲ實施スル者必ス之ヲ携帶シ其ノ地點ヲ警衛スル軍人軍屬憲兵及警察官吏ノ要求アルトキハ何時ニテモ其ノ閱覽ニ供スヘシ
 第十條 許可證ヲ失ヒタルトキハ速ニ其ノ再交付ヲ願出ツヘシ
 前項ノ場合ニ於テハ同時ニ其ノ旨ヲ最寄警察官吏又ハ憲兵ニ届出テ其ノ承認ヲ得テ作業ヲ繼續スルコトヲ得
 第十一條 許可ヲ受ケタル業者ハ作業ノ場所ニ許可濟ノ旨ヲ記シタル標札ノ類ヲ掛クヘシ但シ要塞地帯法第七條及第九條ニ掲クルモノハ此ノ限ニ在ラス
 第十二條 許可ヲ受ケタル工事完成シタルトキ又ハ之ニ著手セス若ハ之ヲ中止シタルトキハ速ニ其ノ旨ヲ作業地ヲ管轄スル市町村長ニ届出ツヘシ市町村長ハ之ヲ取纏毎月末日ヲ以テ當該鎮守府司令長官若ハ要港部司令官ニ報告スヘシ
 第十三條 許可證ヲ所持スヘキ者ニシテ當該官吏ノ閱覽ヲ拒ミタル者ハ二圓以上十圓以下ノ罰金ニ處ス
 第十四條 本則ハ海軍防禦營造物ノ地帯及要塞地帯法第七條第二項ノ區域ニノミ之ヲ適用ス
 第十五條 本則ハ明治三十三年七月一日ヨリ之ヲ施行ス
 ○要塞近傍水陸測量取締ノ件
 ○勅令第七十六號 明治三十一年七月

第一條 要塞ニ於ケル各防禦營造物ノ周圍ヨリ外方五千七百五十間以内ノ水陸ノ形狀ヲ測量摸寫撮影筆記セントスルモノハ豫メ當該要塞司令官ノ許可ヲ受クヘシ

前項ノ區域内ヲ明治二十二年法律第十九號土地收用法第五條若ハ第七條ニ依リ測量又ハ検査セムトスル者若ハ明治二十三年法律第八十七號鑛業條例第四十七條ニ依リ測量セムトスル者ハ豫メ當該要塞司令官ニ届出ヘシ

前二項ノ場合ニ於テ測量摸寫撮影筆記ヲ爲スノ方法區域ハ當該要塞司令官ノ指示ニ從フヘシ

第二條 官廳ニ於テ前條第一項ノ區域内ノ水陸ノ形狀ヲ測量摸寫撮影筆記セムトスルトキハ豫メ當該要塞司令官ノ承認ヲ受クヘシ

官廳ニ於テ前條第一項ノ區域内ヲ明治二十二年法律第十九號土地收用法第五條若ハ第七條ニ依リ測量又ハ検査セムトスルトキハ豫メ當該要塞司令官ニ通知スヘシ

前二項ノ場合ニ於テ測量摸寫撮影筆記ヲ爲スノ方法區域ハ當該要塞司令官ト協議シテ之ヲ定ムヘシ

第三條 前二條ノ規定ハ要塞ノ設ナシト雖之ヲ設クルコトニ決定シタル箇所ニ於テ其豫定各防禦營造物ノ周圍ヨリ外方五千七百五十間以内ノ水陸ノ形狀ヲ測量摸寫撮影筆記スル場合ニモ之ヲ適用ス

第四條 第一條第一項及第三條ノ區域ハ陸軍大臣之ヲ告示ス

第五條 第一條各項ニ違反シタル者ハ十一日以上一年以下ノ重禁錮又ハ二圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第三條ニ依リ第一條ヲ適用スル場合ニ於テ其各項ニ違反シタル者亦同シ

第六條 第一條第一項及第三條ノ區域ヲ表示スル爲ニ設ケタル標石標木若ハ標札ノ類ヲ移轉シ若ハ

毀壞シタル者ハ十一日以上二月以下ノ重禁錮又ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス其過失ニ出テタル者ハ五錢以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

附 則

第七條 第一條第二條第三條ノ規定ハ第四條ニ依リ陸軍大臣ノ告示シタル箇所ニ限り之ヲ適用ス

第八條 本令ニ規定スル要塞司令官ノ職務ハ警備隊ヲ置キタル箇所ニアリテハ警備隊司令官其他要塞司令官在ラサル箇所ニ在リテハ其地ノ衛戍司令官(衛戍司令官在ラサルトキハ築城部支部長)之ヲ行フ

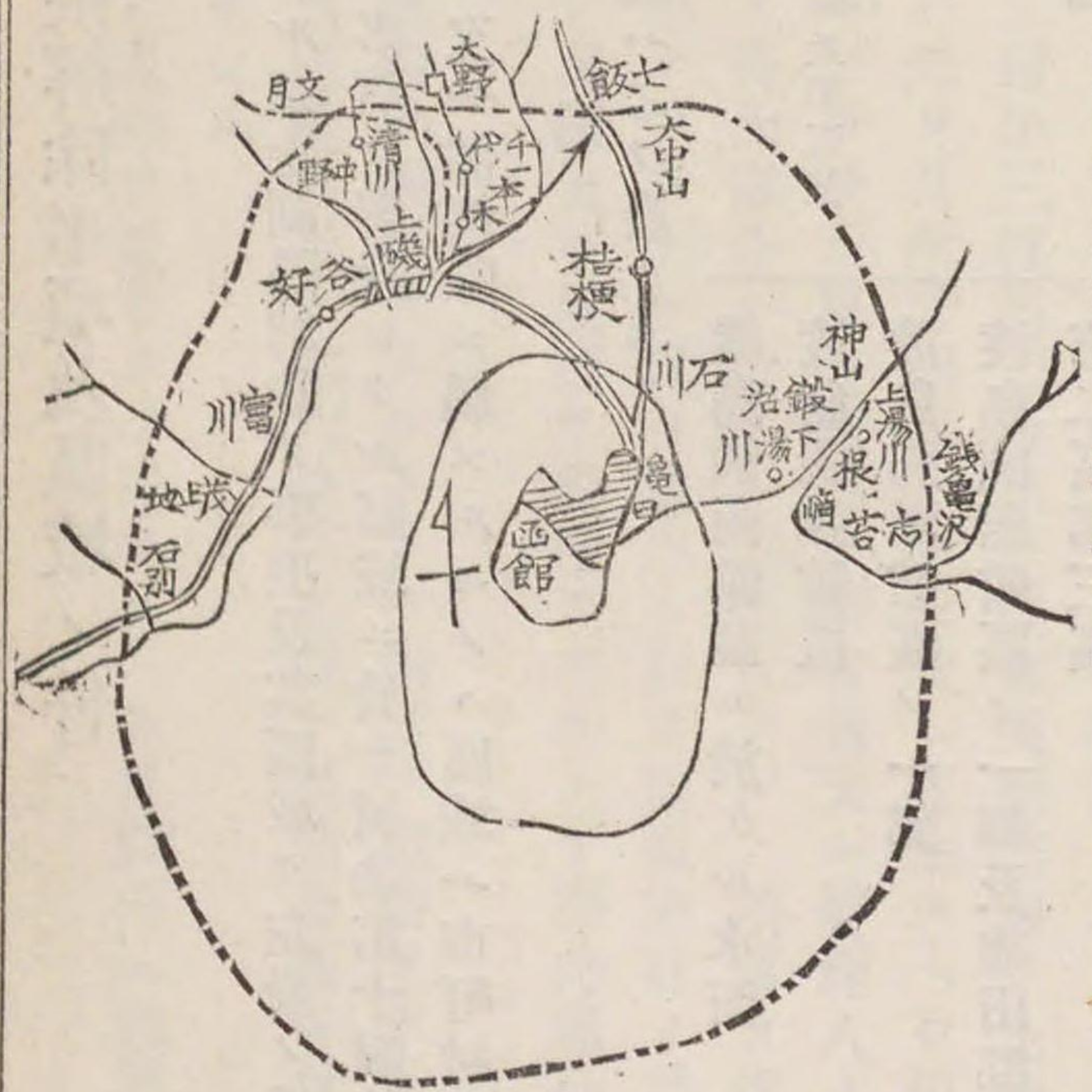
第九條 軍港要港規則ニ特ニ禁令アル事項ニ關シテハ本令ノ規定ヲ適用スルノ限ニ在ラス

第十條 本令ハ陸海軍官憲ニ於テ行フ測量摸寫撮影筆記ニ適用セス

○要塞地帯區域ノ件

○陸軍省告示第七號明治三十二年八月

要塞地帯法第三條及第六條ニ依リ下ノ關、函館、由良、鳴門及藝豫ニ於ケル陸軍防禦營造物ノ地帯各區ヲ左圖實線以内トシ同營造物ニ關スル本法第七條第二項ノ區域ヲ實線以外點線以内トシ各區域ハ實地ニ標識ヲ設ケテ之ヲ表示ス



○要塞地ニ於ケル禁止制限解除事項及區域ノ件

○陸軍省告示第九號 明治三十四年十月

要塞地帯法第十九條ニ依リ各要塞地ニ於ケル禁止制限解除ノ事項及其區域ヲ左表ノ通定ム
但シ同法第十一條及第十二條中ニ掲クル事項ヲ解除シタル區域ニ於テ同法第十四條中之ニ相當ス
ル事項モ亦之ヲ解除シ別ニ表中ニ掲ケス又一部解除ニ屬スルモノ、區域ハ市町村役場ニ備付ケタ
ル圖面ニ付テ見ルヘシ

明治三十二年陸軍省告示第八號同第十六號ハ之ヲ廢止ス

函 要塞地帯法第九條ニ掲クル事項

渡島國函館區ニ於ケル水面

同第十條ニ掲クル事項及第十一條第二號第三號及第五號

渡島國函館區ノ一部

同第十二條及第十三條中第二區ニ關スル事項

渡島國函館區ノ一部及龜田郡龜田村
第二區第三區

同第十五條第二號第三號及第四號

同第十六條中道路、橋梁、永久棧橋

○陸地測量

○法律第二十三號 明治二十三年九月

陸地測量條例

第一條 本條例中測量標ト稱スルモノハ三角點標石、水準點標石、規杭、標杭、測旗、假杭トス
第二條 陸地測量部ニ於テ宅地ニアラサル民有地ニ測量標ヲ設置スル爲メ敷地ヲ要スルトキハ所有
者之ヲ拒ムコトヲ得ス又官有地第三種第一項第五項第六項第七項第八項ノ土地ニ在テハ所管廳ニ

通知シテ之ヲ使用スルコトヲ得

官有地第二種第三種第二項第三項第四項第四種ノ土地及ヒ民有宅地内ト雖モ己ムヲ得サル場合ニ
於テハ測旗假杭ニ限リ前項ニ準シテ之ヲ設置スルコトヲ得

第三條 民有地ニ標石ヲ設置スルトキハ其敷地ヲ買上クヘシ但所有者ニ於テ其土地ヲ寄附シ又ハ借
地料ヲ要セス永遠賃地トナサンコトヲ望ムトキハ格別トス

第四條 民有地ニ規標及ヒ標杭ヲ設置シタルトキハ宅地ニ在テハ相當ノ借地料ヲ給シ田畑鹽田鑛泉
地ニ在テハ一箇年一坪ニ付金三錢其他ニ在テハ同一錢ノ割ヲ以テ借地料ヲ給ス但所有者ニ於テ其
土地ヲ寄附シ又ハ借地料ヲ要セス賃地トナサンコトヲ望ムトキハ格別トス

第五條 測量主任官測量ノ爲メ官有地第二種第三種第二項第三項第四項第四ノ土地及ヒ民有宅地内
若クハ牆垣籬柵ニ立入ラントスルトキハ先ツ其所管廳又ハ所有者ニ通知スヘシ但官有地第三種第
一項第五項第七項第八項ノ土地並宅地ニアラサル民有地及ヒ所有者又ハ管理人ノ所在遠隔スル田
畑等ノ垣柵内ニ在テハ直ニ立入ルコトヲ得此場合ニ於テハ主任官タルノ標票ヲ携帶スヘシ

第六條 官有地第三種第一項ノ土地及宅地ニアラサル民有地内ニ於テ測量施行ノ爲メ障礙トナル竹
木ハ己ムヲ得サルモノニ限リ之ヲ伐除シ又樹上ニ規標ヲ設置スルコトヲ得此場合ニ於テハ相當ノ
補償ヲナスヘシ

第七條 測量施行ノ爲メ牆垣籬柵等又ハ植物ヲ毀損シタルトキハ相當ノ補償ヲナスヘシ

第八條 第三條ノ敷地買上料第四條ノ宅地借地料及ヒ第六條第七條ノ補償金額ニ付所有者ト協議調
ハサルトキハ市町村長ヲシテ之ヲ評定セシム
市町村長ノ評定ニ服セサル者ハ其評定ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ一ヶ月以内ニ裁判所ニ出訴スルコ
トヲ得

第九條 標石ハ諸測量ノ基準點トシテ官民共ニ使用スルコトヲ得
 第十條 標示ヲ移轉シ若クハ毀壞シタルモノハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ又ハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第十一條 規標及ヒ標杭ヲ移轉シ若クハ毀壞シタル者ハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス
 第十二條 測旗及ヒ假杭ヲ移轉シ若クハ毀壞シタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス
 第十三條 過誤ニ由リ測量標ヲ毀壞シ又ハ之ニ瓦礫其他ノ雜物ヲ擲チ獸類ヲ繫キ繩索ノ類ヲ懸ケ或ハ貼紙シ或ハ戲書シ其他惡戯ヲ爲シタル者ハ五錢以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス
 第十四條 本條例施行ノ細則ハ陸軍大臣之ヲ定ム

附 則

第十五條 本條例中市制町村制ノ實施ニ至ラサル地方ニ在テハ市町村長ノ職務ハ區戸長ヲシテ之ヲ行ハシム

○陸地測量標條例施行細則

改正 明治三十二年九月 明治四十一年十二月 明治四十四年一月
 省令第二十四號 省令第二十三號 省令第一號

○陸軍省令第十七號 明治二十八年 八月

陸地測量標條例施行細則

第一條 陸地測量ハ三角測量水準測量及地形測量ノ三トス

第二條 陸地測量部ハ各測量ヲ施行セントスルトキ豫メ之ヲ所轄ノ道廳府縣廳ニ通知シ該廳ハ之ヲ其地區ニ告示スヘシ

第三條 陸地測量部ハ地形測量ノ完成シタルトキハ之ヲ所轄道廳府縣廳ニ通知スヘシ

第四條 陸地測量部ハ道廳府縣廳若クハ島司郡市町村長ニ照會シ測量上必要ノ調査ヲ求ムルコトヲ得

第五條 但事宜ニ依リ出張測量官ヲシテ直ニ之ヲ爲サシムルコトヲ得
 本條例第五條ニ依リ測量主任官ノ携帶スル證票左ノ如シ

表	第何號	裏	陸地測量部「何科」「何」
面	陸地測量證	面	官 氏 名

第六條 標石及海岸水準點規標ハ永遠ニ保存スヘキモノニシテ其種類左ノ如シ

- 一等三角點標石 (第一圖)
- 二等或ハ三等三角點標石 (第二圖)

水準點標石 (第三圖) (市街内ニ在リテハ)

海岸水準點規標 (地形ニ應シ建設スルヲ) (以テ其形狀一定セス)

第七條 規標(海岸水準點規標ヲ除ク)標杭ハ地形測量ヲ終ル迄假杭ハ三角點規標或ハ水準點標石ヲ設置スル迄保存スヘキモノニシテ其種類左ノ如シ

- 三角點標杭 (第四第五第六第七第八第九圖)
- 四等三角點標杭 (第十圖)
- 三角點或ハ一等水準假杭 (第十一圖)
- 二等水準點標杭 (第十二圖)
- 地形圖根規標 (第九圖)

地形圖根點標杭
地形水準點標杭

(第十三圖)
(第十四圖)

第八條 測量主任官測量標ヲ建設セントスルトキ御料地内ニ在テハ該地所屬ノ區別ニ依リ豫メ御料局或ハ同支廳又ハ支廳出張所ニ通知スヘシ但事業ノ急施ヲ要シ其場所御料地所轄廳ト遠隔セルトキハ建設ノ後之ヲ通知スルコトヲ得

官有地第一種第二項神地(伊勢神宮並ニ山陵ヲ除ク)ニ在テハ其神社及所管廳ト協議シ官有地第二種第三種第二項第三項第四項第四種ノ土地及民有社寺地同宅地ニ在テハ測旗假杭建設ノ外ハ其所管廳又ハ所有者ニ協議スヘシ

第九條 測量主任官ハ測量標(地形測量ニ際シニ時假設)ヲ建設セルトキ其種類位置及坪數等ノ記載シタル書類ヲ市長又ハ町村長ニ交付シ該敷地ニ係ル調査ヲ求ムルコトヲ得此場合ニ於テ市町村長ハ其位置ノ國郡(市)町(村)字地目番地及官有ニ在テハ所轄廳名民有ニ在テハ所有者ノ住所氏名竝ニ本條例第三條及第四條ノ規定ニ關シ敷地所有者ノ志望等ヲ調査シ取調書(第一)(第二)號書式(或ハ建標請書(第二號書式)又ハ寄附願書(第四號書式))ヲ徵シ別ニ其謄本一通ヲ添ヘ二週間内ニ測量主任官ニ送致スヘシ

第十條 測量主任官ハ前條ノ正本ヲ添ヘ官有地ニ係ルモノハ其所轄廳ニ民有地ニ係ルモノハ該地所轄ノ道廳府縣廳ニ通知スヘシ

陸地測量部ハ民有地ニ係ルモノノ中買上ヲ要スルモノニ在テハ賣買契約書借上ヲ要スルモノ(規標ヲ除ク)ニ在テハ貸借契約書ヲ調査シ道廳府縣廳ニ送付スヘキモノトス

第十一條 道廳府縣廳ハ敷地ノ所有者ヲシテ前條契約書ニ記名調印セシメ尙同所有者ヨリ地所ノ權利ニ關スル登記濟證並其買上又ハ寄附ニ係ルモノニ在テハ所有權移轉ノ登記承諾書借上ニ係ルモノ

ノニ在テハ地上權又ハ賃借權ノ登記承諾書ヲ徵シ之ヲ陸地測量部ニ送付シ陸地測量部ハ敷地ノ所有權地上權又ハ賃借權ニ關スル登記ヲ登記所ニ囑託スヘシ

第十二條 陸地測量部ニ於テ測量諸標ヲ建設シタルトキハ該諸標及敷地ノ明細書ヲ調製シ道廳府縣廳(東京府下ニ在テハ別ニ警視廳)ニ通知シ其保管ヲ求ムヘシ但シ敷地ノ民有地ナル場合ニハ前條ノ登記ヲ了シタルトキ其旨ヲ道廳府縣廳ニ通知スヘキモノトス

道廳府縣廳(東京府下ニ在テハ別ニ警視廳)ニ於テハ適宜保管ノ方法ヲ設ケ各地方警察署長分署長又ハ市町村長ヲシテ測量諸標及同敷地ヲ監守セシメ若シ亡失毀損其他異狀アルトキハ事由ヲ附シ之ヲ届出シメ其旨陸地測量部ニ通知スヘシ

陸地測量部ハ測量諸標ヲ移轉若クハ撤去シタルトキハ道廳府縣廳(東京府下ニ在テハ別ニ警視廳)ニ通知シ官有地ニ係ルモノハ猶其所轄廳ニ通知スヘシ

第十三條 陸地測量部ニ於テ前條ノ通知ヲ受ケタルトキハ其必要ニ應シテ修理又ハ改設ヲ執行シ更ニ道廳府縣廳(東京府下ニ在テハ別ニ警視廳)ニ通報スヘシ

第十四條 標石敷地ハ方一坪ニシテ標石ヲ以テ其中心ヲ領セシム但地坪ハ地形ニ應シ本條ニ依リ難キトキハ格別トス

第十五條 規標、標杭、假杭ノ敷地ハ地形ト建標ノ種類ニ依リ異同アルヲ以テ豫メ一定セス

第十六條 標石敷地内ニ土砂塵埃其他雜物等ヲ堆積スルヲ許サス

第十七條 敷地買上代ハ其都度之ヲ支拂ヒ借地料ハ會計年度末ニ於テ之ヲ支拂フヘシ但借地料ハ其土地使用ノ當日ヨリ起算シ其一箇年ニ滿タサルモノハ月割ヲ以テ支拂フヘシ

第十八條 敷地買上代ハ本人ニリ地方廳ニ請求書(第五號書式)ヲ差出シ該廳ハ審査ノ上之ヲ陸地測量部ニ回付スヘシ

敷地借地料ハ本人ヨリ請求ノ手續ヲ爲スヲ要セス陸地測量部ヨリ送金ス

第十九條 官有ニ係ル竹木ヲ伐除シ又ハ樹上ニ規標ヲ設置シタルトキハ測量主任官ハ其明細書ヲ作リ所轄廳ニ報告シ所轄廳補償ヲ要スルトキハ相當ノ額ヲ定メ陸地測量部ニ請求スヘシ

第二十條 市町村又ハ人民ニ對スル補償金ノ支拂ハ出張測量官ニ於テ之ヲ取扱フモノトス

第二十一條 本條例第六條掲記外ノ土地ニ在テハ己ムヲ得サルトキト雖モ其所轄廳或ハ所有者ノ承諾ヲ得ルニ非レハ障礙竹木ヲ伐除シ又ハ樹上ニ規標ヲ設置スルコトヲ得ス此場合ニ於テハ前二條ヲ適用ス

第二十二條 標石規標ハ陸地測量部ノ認可ヲ得ルニ非レハ使用スルコトヲ得ス

前項ノ認可ヲ得ントスル者ハ豫メ標石ノ種類番號位置竝ニ使用ノ日數及其事由ヲ詳記シ其本籍地又ハ寄留地市町村長ノ與書證印ヲ受ケ測量標所在地ノ道廳府縣廳ヲ經テ陸地測量部ニ申請スヘシ
第二十三條 標石使用ノ爲メ新ニ要スル標旗標枕其他規標等ハ種石ヲ離ル、コト二尺以内ノ地ニ建設スルヲ許サス

第二十四條 標石規標枕ノ周圍ニ於テ之ヲ毀損スルノ虞アルカ又ハ其効用ヲ妨クヘキ事業ヲ爲サントスルトキハ事由ヲ具シ設計圖ヲ添ヘ其移轉ヲ道廳府縣廳ニ請求スヘシ

第二十五條 道廳府縣廳前條ノ請求ヲ受ケタルトキハ之ヲ審査シ意見ヲ附シ之ヲ陸地測量部長ニ移牒スヘシ但移轉ノ爲メニ要スル費用ハ其請求者ノ負擔トス

第二十六條 陸地測量部長前條ノ移牒ヲ受ケ移轉ノ必要ヲ認ムルトキハ其移轉ニ要スル費用ノ概算額ヲ定メ地方廳ヲ經テ之ヲ請求シ移轉執行ノ上ハ其決算ヲ爲シ證憑書類ヲ附シ該廳ニ送致スヘシ

第二十七條 道廳府縣廳ハ前條ノ費用ヲ請求者ヨリ受取リ陸地測量部ニ回付シ其決算書類ハ之ヲ其請求者ニ送致スヘシ

第二十八條 標旗假枕ノ移轉ヲ要スヘキ事由アルトキハ出張測量主任官ニ請求シテ其承諾ヲ經ヘシ但測量官ノ出張シアルトキハ第二十四條第二十五條ニ準スヘシ

第二十九條 測量標敷地所在ノ町村名其他ニ關シ異動ヲ生シタルトキハ道廳府縣廳ヨリ陸地測量部ニ通知スヘシ

第三十條 本則第十六條第二十二條第二十三條及第二十四條ヲ犯シタル者ハ十一日以上二十五日以下ノ輕禁錮又ハ二圓以上二十五圓以下ノ罰金ニ處ス

附 則

第三十一條 市制町村制ヲ實施セサル地方ニ在テハ本則中市町村長ノ爲スヘキ事務ハ區戸長若クハ之ニ準スル吏員ニ於テ之ヲ行フヘシ

第三十二條 本則ハ明治二十八年九月一日ヨリ施行ス

(第一號書式乃至第五號書式)及(第一圖乃至第十四圖)畧ス(第五號其一ヲ第五號ニ改メ測量標敷地借地料請求書式ヲ削除)

○測量諸標保管規程

○北海道廳訓令第四十一號 明治三十年八月四日

明治二十八年ハ陸軍省令第十七號陸地測量標條例施行細則第十二條ニ依リ測量諸標保管規程左ノ通り定ム

陸地測量諸標保管規程

第一條 郡區役所警察署又ハ警察分署ニ於テ北海道廳ヨリ陸地測量諸標建設ノ通知ヲ受ケタルトキハ特ニ實地ニ就キ其建設位置及測量標ノ種類ヲ照査シ且之カ亡失毀損等ナキ様同敷地共常ニ監守スヘシ

第二條 前條ノ測量諸標ニシテ亡失毀損若クハ異狀アルトキハ其所在地名及測量標ノ種類並其事由ヲ詳記シ即時之ヲ北海道廳ニ報告スヘシ

第三條 郡區役所警察署又ハ警察分署ニ於テハ第一條ノ通知書ヲ別冊ニ編綴シテ陸地測量諸標臺帳ト爲シ記載事項ノ異動アル毎ニ之ヲ詳記スヘシ

○陸地測量標敷地トシテ民有地寄附取扱方ノ件

○内務省訓令第六二四號 明治二十八年八月二十日

陸地測量標敷地ニ供スル爲メ民有地ヲ寄附セントスルモノアルトキハ其應限リ之カ受納ノ手續ヲ爲スヘシ

前項寄附地並ニ本年ハ陸軍省令第十七號第十一條ニ依リ買上タル地所ノ地種目變換モ其應限リ處分スヘシ

○同上ノ件

○北海道廳訓第二百四十九號 明治二十八年八月二十九日

陸地測量標敷地ニ供スル爲メ民有地ヲ寄附セントスルモノアルトキハ當廳ニ於テ受納ノ手續ヲ爲スヘキ旨其筋ヨリ訓令相成候條其旨心得ヘシ

○陸地測量標敷地登記ニ關スル件

○陸地測量標敷地取扱方ニ付陸地測量部長照會 明治二十八年十月六日 丙第一六四號

陸地測量標敷地ニ關シ本年ハ陸軍省令第十七號陸地測量條例施行細則第十條ニ依リ測量主任官ヨリ貴廳へ通知ヲ爲シタルトキハ敷地寄附受納ノ請求及該願書之處理方並ニ寄附地買入地ノ登記方ト

モ同時ニ照會ニ及ヒタルモノト御承知可然御取計相成度此段豫メ及御照會置候也

○同上ノ件

○内務部長ヨリ各郡區長へ通牒 明治二十八年十月十二日

陸地測量標敷地ニ關シ本年ハ陸軍省令第十七號陸地測量條例施行細則第十條ニヨリ測量主任官ヨリ當廳へ通知ヲ爲シタルトキハ敷地寄附受納ノ請求及該願書ノ處理方並ニ寄附地買入地ノ登記方トモ同時ニ照會ニ及ヒタルモノト承知可然取計度旨陸地測量部長ヨリ照會有之候ニ付御心得迄此段及通牒候也

第十四類

○鐵道

○私設鐵道法

○法律第六十四號

明治三十三年三月

私設鐵道法

第一條 本法ハ軌道條例其他特別ノ法令ニ規定スルモノヲ除クノ外一般運送ノ用ニ供スル私設鐵道ニ之レヲ適用ス

私設鐵道株式會社カ運送營業ノ爲ニ支線ヲ敷設スルトキハ現ニ一般運送ノ用ニ供セサル場合ト雖モ本法ヲ適用ス

第二條 私設鐵道株式會社ヲ發起セムトスル者ハ左ノ書類圖面ヲ具シ主務大臣ニ假免許ヲ申請スヘシ

- 一 起業目論見書
 - 二 假定款
 - 三 起業カ公共ノ利益タルコトヲ證スル調書
 - 四 線路豫測圖及説明書
 - 五 敷設費用ノ概算書
 - 六 運送營業上ノ收支概算書及説明書
- 起業目論見書ニハ發起人各自署名捺印スルコトヲ要ス

第三條 主務大臣ハ前條書類圖面ノ外審査ニ必要ト認ムル書類圖面ノ呈出ヲ命スルコトヲ得

第四條 主務大臣ハ假免許ノ申請ヲ審査シ起業ノ大體ニ於テ不都合ナシト認ムルトキハ假免許狀ヲ下付スヘシ

第五條 假免許ニハ本免許申請ノ期限ヲ附ス

前項期限内ニ本免許ノ申請ヲ爲ササルトキハ假免許ハ其効ヲ失シ但シ正當ノ事由アリテ延期ノ許可ヲ受ケタルトキハ此ノ限りニ在ラス

第六條 主務大臣ハ公益上必要ト認ムルトキハ申請事項ヲ變更セシメ又ハ假免許ニ條件ヲ付スルコトヲ得

假免許ニ付シタル條件ニ違反シタルトキハ假免許ハ其効ヲ失フ

第七條 發起人假免許狀ノ下付ヲ受ケタルトキハ定款ヲ作り起業目論見書ヲ公告シテ株主ヲ募集スルコトヲ得

定款ハ假定款ニ準シ之ヲ作ルコトヲ要ス

第一項ノ公告ニハ本法ニ依リ假免許狀ヲ受ケタル旨及假免許ノ年月日ト各株主申込人ニ假免許狀竝ニ定款ヲ展閱セシムル旨トヲ記載スルコトヲ要ス

第八條 發起人總員ハ少クモ總株式ノ十分ノ二ヲ引受クルコトヲ要ス

第九條 株式ハ金錢ヲ以テスルノ外之ヲ引受クルコトヲ得ス

株金ノ第一回拂込金額ハ株金ノ十分一迄下ルコトヲ得

第十條 發起人カ株式ノ總數ヲ引受ケタルトキ又ハ設立總會終結シタルトキハ取締役ハ左ノ書類圖面ヲ具シ主務大臣ニ本免許ヲ申請スヘシ

一 定款

二 工事ノ方法書

三 線路實測圖

四 工費豫算書

前項ノ申請ニハ左ノ書類ヲ添付スヘシ

一 起業目論見書ノ謄本

二 假免許狀ノ謄本

三 發起人ニ於テ株式ノ總數ヲ引受ケタルトキハ検査役カ裁判所ニ爲シタル報告書ノ謄本及裁判所カ検査役ノ報告ヲ聽キ爲シタル決定書ノ謄本

四 株主ヲ募集シタルトキハ株式申込書ノ謄本發起人取締役監查役又ハ検査役ヨリ創立總會ニ爲シタル報告ノ要領及創立總會ノ議事及決議ノ要領

第十一條 鐵道延長ノ假免許及本免許ノ申請ハ定款ノ變更ト同一ノ方法ニ依リ株主總會ノ決議ヲ經ルニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス

前項本免許ノ申請ハ定款變更ノ決議認可ノ申請ト共ニ之ヲ爲スコトヲ要ス

第十二條 創立總會ニ於テ設立ノ廢止ノ決議ヲ爲シタルトキハ主務大臣ニ假免許狀ヲ返納スヘシ

第十三條 主務大臣ハ第十條ノ書類圖面ヲ審査シ妥當ト認ムルトキハ本免許狀ヲ下付スヘシ

本免許ニハ工事竣工ノ期限ヲ付ス工事竣工ノ期限ハ工區ヲ分チテ之ヲ付スルコトヲ得公益上必要ト認ムルトキハ主務大臣ハ本免許ニ條件ヲ付スルコトヲ得

前項ノ規定ハ許可又ハ認可ノ場合ニ之ヲ準用ス

第十四條 會社ノ設立ノ登記ニハ商法ニ規定スル事項ノ外本免許ノ年月日ヲ記載スルコトヲ要ス設立ノ登記ノ期間ハ本免許ヲ受ケタル日ヨリ之ヲ起算ス

第十五條 本法及商法ニ依リ登記ヲ爲シタルトキハ主務大臣ニ届出ツヘシ

第十六條 本免許ヲ受ケタル後六箇月内ニ設立ノ登記ヲ爲ササルトキハ免許ハ其効ヲ失フ

第十七條 會社ハ主任技術者ヲ置キ技術ニ關スル事項ヲ擔任セシムヘシ

主任技術者ヲ不適任ト認ムルトキハ主務大臣ハ其ノ解任ヲ命スルコトヲ得

第十八條 主務大臣ハ監督上必要ト認ムルトキハ所部ノ官吏ニ命シ會社ノ取締役會議又ハ株主總會ニ臨監セシムルコトヲ得

第十九條 主務大臣ハ監督上必要ト認ムルトキハ所部ノ官吏ニ命シ會社ノ會計及財産ノ實況ヲ検査セシムルコトヲ得

検査官吏ハ會社ノ金庫財産現在高帳簿及總テノ書類ヲ検査シ取締役其他ノ役員又ハ使用人ニ説明ヲ求ムルコトヲ得

第二十條 主務大臣ハ會社ノ會計ニ關スル準則ヲ設クルコトヲ得

第二十一條 定款變更ノ決議ハ主務大臣ノ認可ヲ受クルニ非サレハ其ノ効ヲ生セス

定款ハ本免許ニ付セラレタル條件ニ違反スルコトヲ得ス

第二十二條 定款變更ニ依リ登記事項ニ變更ヲ生シ登記ヲ爲ストキハ定款變更認可ノ年月日ヲ併セテ記載スルコトヲ要ス

第二十三條 會社ハ株金全額拂込前ト雖モ主務大臣ノ認可ヲ受ケ線路ノ延長又ハ改良ノ費用ニ充ツル爲其ノ資本ヲ増加スルコトヲ得

第二十四條 會社ハ主務大臣ノ認可ヲ受クルニ非サレハ他ノ業務ヲ營ムコトヲ得ス

第二十五條 會社ハ主務大臣ノ認可ヲ受クルニ非サレハ他ノ會社ノ株式ヲ取得シ又ハ質權ヲ目的トシテ之ヲ受クルコトヲ得ス

第二十六條 會社ハ株主總會ノ決議ヲ經主務大臣ノ認可ヲ受クルニ非サレハ鐵道ノ貸借又ハ營業ノ管理委託ヲ爲スコトヲ得ス

前項ノ決議ハ定款變更ト同一ノ方法ニ依ルニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス

營業ノ管理委託ヲ受ケタル會社ハ其ノ管理ニ付監督官廳ニ對シ其責ニ任ス

第二十七條 會社ノ取締役其他ノ役員又ハ使用人ハ監督官廳ノ呼出ニ應シ説明ヲ爲スノ義務ヲ負フ

第二十八條 會社ハ鐵道臺帳ヲ調製シ之ヲ備置クコトヲ要ス

鐵道臺帳ニ關スル規定ハ命令ヲ以テ之レヲ定ム

第二十九條 會社カ社債ヲ募集セントスルトキハ主務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

社債募集ノ公告ニハ商法ニ規定スル事項ノ外其認可ノ年月日ヲ併セテ記載スルコトヲ要ス

第三十條 會社ハ主務大臣ノ認可ヲ受クルニアラサレハ鐵道及之レニ屬スル物件ヲ抵當トシテ負債ヲ爲スコトヲ得ス

前項ノ負債ハ定款變更ト同一ノ方法ノ決議ニ依ルニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス

第三十一條 前二條ノ債務ノ額ハ合セテ總株金拂込額ヲ超ユルコトヲ得ス

第三十二條 會社ハ每營業年度中ニ支拂フヘキ社債及負債ノ元利金ヲ控除シタル後ニ非サレハ利益ノ配當ヲ爲スコトヲ得ス

第三十三條 鐵道及之ニ屬スル物件ハ質權ノ目的トナスコトヲ得ス

第三十四條 鐵道ニ屬スル物件ノ貸渡又ハ讓渡ハ主務大臣ノ定ムル規定ニ依リ認可ヲ受クヘシ

第三十五條 會社ハ主務大臣ノ認可ヲ受クルニ非サレハ合併ヲ爲スコトヲ得ス

合併後存続スル會社又ハ合併ニ因リ設立シタル會社ハ合併ニ因リ消滅シタル會社ノ免許ニ屬スル

權利及義務ヲ承繼ス但シ主務大臣ニ於テ之ヲ變更スルノ條件ヲ付シタルトキハ此ノ限リニ在ラス
會社合併ノ登記ニハ商法ニ規定スル事項ノ外合併ノ認可ヲ受ケタル年月日ヲ合セテ記載スルコト
ヲ要ス

第三十六條 工事方法ノ變更及假設ノ工事ハ主務大臣ノ認可ヲ受クルニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得
ス

第三十七條 工費豫算ノ變更ハ主務大臣ノ定ムル規定ニ依リ認可ヲ受クヘシ

第三十八條 鐵道ノ建設設計等ニ關スル法令ノ制定變更ニ因リ工事方法ハ變更ヲ受ク

第三十九條 會社ハ設立登記ノ日ヨリ六箇月内ニ鐵道ノ敷設ニ着手シ本免許ニ附シタル期間内ニ之
ヲ竣功スヘシ

前項ノ著手期限ハ鐵道延長ノ場合ニ在リテハ其本免許狀下付ノ日ヨリ之ヲ起算ス

天災其他避クヘカラサル事變ノ爲期限内ニ敷設ニ著手シ又ハ竣功スルコト能ハサルトキハ會社ハ
期限ノ伸長ヲ申請スルコトヲ得

前項ノ申請ハ天災事變ノ止ミタル日ヨリ一箇月内ニ之ヲ爲スコトヲ要ス

自己ノ過失ニ歸セサル正當ノ事由ニ因リ期限内ニ敷設ニ著手シ又ハ竣功シ難キトキハ期限經過前
ニ延期ヲ申請スヘシ延期ノ期間ハ通シテ原期間ノ半ヲ超ユルコトヲ得ス

法令ノ結果ニ因リ工事方法ニ變更ヲ生シ又ハ主務大臣ノ命令ニ依リ若ハ其認可ヲ受ケ工事方法ヲ
變更シタルトキハ更ニ期限ノ指定ヲ申請スルコトヲ得

前項ノ申請ハ法令ノ結果ニ因ルモノハ其施行ノ日ヨリ一箇月内ニ主務大臣ノ命令ニ依ルモノハ其
命令ヲ受ケタル日ヨリ一箇月内ニ又認可ヲ受クヘキモノハ其認可ノ申請ト同時ニ之ヲ爲スコトヲ
要ス

第四十條 軌間ハ特許ヲ得タルモノヲ除クノ外三呎六吋トス

第四十一條 左ニ掲クルモノヲ以テ鐵道用地トス

一 線路用地

二 停車場信號所及車庫貨物庫等ノ建設ニ要スル土地

三 鐵道構内ニ職務上常住ヲ要スル鐵道員ノ社宅及運輸保線ニ從事スル鐵道員ノ駐在所等ノ建設
ニ要スル土地

四 鐵道ニ要スル車輛器具ヲ修理製作スル工場及其資財器具ヲ貯藏スル倉庫ノ建設ニ要スル線路
ニ沿ヒタル土地

線路用地ノ幅員ハ築堤切取架橋等工事ノ必要ニ應シ工事方法書ニ依リ之ヲ定ム

第四十二條 道路橋梁河川溝渠ニ關スル工事ノ施設ハ所管官廳ノ認可ヲ受クヘシ

第四十三條 線路ノ道路ヲ横斷スル場所ニハ橋梁ヲ架設シ又ハ地下道若クハ踏切道ヲ設クヘシ其他
危険防止ノ爲必要ナル箇所ニハ牆柵門戶堤塘溝渠ヲ設ケ又ハ番人ヲ配付スル等充分ノ設備ヲ爲ス
コトヲ要ス

第四十四條 主務大臣ハ監査員ヲ派遣シ工事ヲ監視セシムルコトヲ得
工事カ工事方法書又ハ法令若クハ法令ニ基キテ發スル命令ニ違ヒタルトキハ主務大臣ハ其改築ヲ
命シ又ハ之ヲ停止スルコトヲ得

第四十五條 會社ハ主務大臣ニ申請シ其許可ヲ得タル後ニ非サレハ運輸ヲ開始スルコトヲ得ス

第四十六條 運輸開始ノ申請アリタルトキハ主務大臣ハ監査員ヲ派遣シ鐵道ノ設備ヲ監査セシメ運
輸ヲ開始スルニ適當ト認ムルトキハ其許可ヲ與フヘシ若シ不適當ト認ムルトキハ其改良ヲ命シ其
竣功ノ後更ニ運輸開始ノ申請ヲ爲サシムヘシ

第四十七條 前二項ノ規定ハ新設又ハ變更シタル建設物ヲ運輸ノ用ニ供スル場合ニ準用ス
第四十八條 主務大臣ハ監査員ヲ派遣シ鐵道ノ設備又ハ運輸保線ノ方法ヲ監査セシメ不適當ト認ムルトキハ何時ニテモ必要ナル施設ヲ命スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ危險ナリト認ムルトキハ其施設ヲ終ル迄運輸又ハ使用ヲ停止スルコトヲ得

第四十九條 第四十四條第二項第四十八條ノ規定ニ依リ改築又ハ必要ナル施設ヲ命セラレタルトキハ會社ハ之ヲ終リタル後主務大臣ニ申請シテ監査ヲ受クヘシ

第五十條 監査員ハ監査上必要ト認ムルトキハ取締役其他會社ノ役員又ハ使用人ニ説明ヲ求メ及書類圖面ヲ檢閲スルコトヲ得

第五十一條 主務大臣ハ鐵道ノ設備カ運輸ノ必要ニ適セサルモノト認ムルトキハ之ニ適スヘキ設備ヲ命スルコトヲ得

第五十二條 主務大臣ハ公衆ノ安全ノ爲メ官設鐵道ニ實施スル事物ヲ會社ニ命シテ施設セシメ其他官設鐵道ニ實施スル規則ヲ私設鐵道ニ適用スルコトヲ得

第五十三條 政府又ハ政府ノ許可ヲ受ケタル者ニ於テ會社ノ鐵道ニ接續シ若ハ之ヲ橫斷シテ鐵道ヲ敷設シ又ハ會社ノ鐵道ニ接近シ若ハ之ヲ橫斷シテ道路橋梁溝渠若ハ運河ヲ造設スルトキハ會社ハ之ヲ拒ムコトヲ得ス

前項ノ場合ニ於テ公益上必要ト認ムルトキハ主務大臣ハ會社ニ命シ接續橫斷ノ場所ニ於ケル設備ヲ共用ニ供セシメ又ハ之ヲ變更セシムルコトヲ得

第五十四條 前條ノ場合ニ於テ設備ノ公用又ハ變更ニ要スル費用ノ負擔ニ付雙方ノ協議調ハサルトキハ申請ニ因リ主務大臣之ヲ裁定ス

前項ノ裁定ハ終局トス

第五十五條 農工商業者カ其ノ產物商品運送ノ爲メ敷設スル鐵道ヲ會社ノ鐵道ニ接續セシムルコトヲ求メタルトキハ會社ハ正當ノ事由ナクシテ之ヲ拒ムコトヲ得ス

前項ノ場合ニ於テ雙方ノ協議調ハサルトキハ申請ニ因リ主務大臣之ヲ裁定ス

前項ノ裁定ハ終局トス

第五十六條 會社ハ運輸ニ關スル規定ヲ定メ主務大臣ノ認可ヲ受クヘシ之ヲ變更スルトキ亦同シ

第五十七條 會社ハ旅客及荷物ノ運賃ヲ定メ主務大臣ノ認可ヲ受クヘシ之ヲ變更スルトキ亦同シ

主務大臣ハ公益上必要ト認ムルトキハ運賃ノ變更ヲ命スルコトヲ得

第五十八條 下等旅客運賃額ハ線路ノ距離一哩ニ付金二錢ノ割合ヲ超過スルコトヲ得ス但二哩未満ノ哩數ニ對シテハ其ノ一人ノ運賃額ヲ金四錢迄ニ定ムルコトヲ得

本法ノ規定ニ依リ運賃ヲ半減スルトキ又ハ哩數ニ應シテ運賃額ヲ定ムルトキ生スル厘位ノ金額ハ之ヲ錢位ニ切リ上クルコトヲ得

第五十九條 會社ハ運賃ノ割引ニ付テハ豫メ一定ノ準則ヲ定メ主務大臣ノ認可ヲ受クヘシ之ヲ變更スルトキ亦同シ

準則ニ依ラサル運賃ノ割引ハ各場合ニ付認可ヲ受クヘシ

第六十條 主務大臣ハ運賃ノ算法荷物ノ等級運賃表ノ様式及公告ノ方法等ニ關シ規定ヲ設クルコトヲ得

第六十一條 會社ハ主務大臣ノ認可ヲ受クルニ非サレハ鐵道運送ニ對シ何等ノ名義ヲ問ハス運賃以外ノ料金ヲ請求スルコトヲ得ス

第六十二條 會社ハ列車ノ發著時間及度數ヲ定メ主務大臣ノ定ムル規定ニ依リ認可ヲ受クヘシ之ヲ

變更スルトキ亦同シ

主務大臣ハ公益上必要ト認ムルトキハ列車ノ種類發著時間及度數ヲ定メ其施行ヲ會社ニ命スルコトヲ得

第六十三條 主務大臣ハ會社ニ他ノ鐵道トノ連絡運輸又ハ直通運輸ヲ命スルコトヲ得

第六十四條 二箇以上ノ私設鐵道カ連絡運輸又ハ直通運輸ヲ爲ス場合ニ於テ設備ノ變更交互運輸ノ手續運賃ノ割合其他費用ノ負擔ニ付會社間ニ協議調ハサルトキハ申請ニ因リ主務大臣之ヲ裁定ス前項ノ裁定ハ終局トス

官設鐵道ト私設鐵道ト連絡運輸又ハ直通運輸ヲ爲ス場合ニ於テ協議調ハサルトキハ主務大臣之ヲ定ム

第六十五條 會社ハ主務大臣ノ定ムル規定ニ依リ事故ノ届出ヲ爲スヘシ

主務大臣ハ監査員ヲ派遣シ事故ノ審査ヲ行ハシムルコトヲ得

事故審査ノ爲必要ト認ムルトキハ會社ニ命シ現狀ヲ存置セシムルコトヲ得

監査員ハ取締役其他ノ役員使用人及關係人ヲ呼出訊問シ其他事故ノ審査ニ必要ナル審理手續ヲ爲スコトヲ得

第六十六條 會社ハ營業年度毎ニ營業報告書ヲ調製シ定時總會後一週間内ニ主務大臣ニ差出スヘシ

第六十七條 會社ハ主務大臣ノ定ムル規定ニ依リ鐵道統計ヲ調製シ之ヲ差出スヘシ

第六十八條 鐵道事務ニ關シ往復スル吏員ニシテ監督官廳ヨリ發スル乗車證ヲ携帯スル者ハ無料ニテ乗車セシムヘシ

第六十九條 公務ヲ以テ往復スル陸海軍軍人軍屬及警察官吏又ハ軍馬銃砲彈藥糧食被服陣具工鐵兵器具天幕等ニシテ公用タルコトヲ證スル通券アルモノハ半額ヲ以テ輸送スヘシ

第七十條 囚徒及監守官吏ハ半額ヲ以テ乗車セシムヘシ

第七十一條 會社ハ法令ノ定ムル所ニ依リ平時戰時ニ於テ鐵道ヲ軍用ニ供スルノ義務ヲ負フ

第七十二條 政府ハ本免許狀下付ノ日ヨリ滿二十五箇年ノ後鐵道及附屬物件ヲ買上クルノ權ヲ保有ス

合併其他ノ方法ニ依リ會社カ他會社ノ鐵道ヲ引受ケタルトキハ其鐵道ニ對スル前項ノ期限ハ舊會社ニ本免許狀ヲ下付シタル日ヨリ之ヲ起算ス

第七十三條 前條ニ依リ鐵道及附屬物件ヲ買上クルトキハ前五箇年ノ株券價格ヲ平均シテ買上價格ヲ定ム

前項ノ價格カ會社ニ於テ前五ケ年間ニ株主ニ支拂ヒタル純益金ノ配當平均額ノ二十倍ノ金額ヲ超ユルトキハ該金額ヲ以テ買上價格ト爲スヘシ

第七十四條 鐵道及附屬物件ノ狀態不完全ナルトキハ其補修ニ要スル費額ヲ前條ノ金額ヨリ控除シタルモノヲ以テ買上價格ト爲スヘシ

前項補修ニ要スル費額ニ付協議調ハサルトキハ鑑定人ノ意見ヲ聽キ政府之ヲ定ム

第七十五條 前三條ノ規定ハ法令又ハ免許許可若クハ認可ニ付シタル條件ノ効力ヲ妨ケス

第七十六條 會社カ第三十九條ノ期限内ニ鐵道ノ敷設ニ著手セス又ハ之ヲ竣功セサルトキハ免許ハ其ノ效ヲ失フ

第七十七條 會社カ第四十五條ノ規定ニ違反シテ運輸ヲ開始シ若クハ第四十七條ノ規定ニ違反シテ建設物ヲ運輸ノ用ニ供シ又ハ第四十八條第二項ノ停止ノ命令ニ違反シタルトキハ其違反ノ行爲ニ因リ得タル收入金ヲ沒收ス收入金ト區別シ難キ他ノ收入アルトキハ併セテ之ヲ沒收ス

第七十八條 會社カ法令ノ規定又ハ免許許可若クハ認可ニ付シタル條件ニ依リ命セラレタル施設ヲ爲ササルトキハ政府ニ於テ之ヲ施行シ會社ヲシテ其費用ヲ辨償セシムルコトヲ得

第七十九條 第七十七條ノ沒收金及第七十八條ノ費用ハ監督官廳ニ於テ國稅滯納處分ノ例ニ依リ之ヲ徵收ス但シ其ノ先取特權ハ公課ニ付キ之ヲ行フ

第八十條 會社カ法令ノ規定又ハ免許許可若クハ認可ニ付シタル條件ニ違反シ又ハ法令ニ基キ發スル命令ヲ遵守セス其他公益ヲ害スヘキ行爲ヲ爲シタルトキハ主務大臣ハ左ノ處分ヲ爲スコトヲ得

- 一 取締役其他ノ役ヲ解任スルコト
- 二 官設鐵道又ハ他ノ會社ヲシテ會社ノ計算ヲ以テ運輸ヲ爲サシムルコト
- 三 免許ノ一部又ハ全部ヲ取消スコト

前項ノ規定ニ依リ解任セラレタル取締役其ノ他ノ役員ハ再任セラレルコトヲ得ス

第八十一條 免許ノ失効又ハ取消ノ場合ニ於テ主務大臣ハ其鐵道及附屬物件ヲ公賣ニ付シ買受人ヲシテ之ヲ竣功セシムルコトヲ得

買受人ハ原免許ニ屬スル權利及義務ヲ承繼ス但主務大臣ハ更ニ著手又ハ竣功ノ期限ヲ指定スルコトヲ得二回ノ公賣ヲ行フモ買受人ナキトキハ鐵道及附屬物件ヲ箇々ノ物件トシテ之ヲ處分セシム公賣ニ關スル規定ハ勅令ヲ以テ之レヲ定ム

第八十二條 鐵道延長免許ノ失効又ハ取消ニ因リ前條ノ公賣ヲ爲ス場合ニ於テ鐵道ノ連絡上必要アルトキハ本線ノ免許ノ一部又ハ全部ヲ取消シ併セテ其鐵道及附屬物件ヲ公賣ニ付スルコトヲ得

第八十三條 會社ハ免許ノ全部失効又ハ全部取消ニ因リテ解散ス其本免許ノ申請ヲ却下セラレタルトキ亦同シ

第八十四條 假免許ヲ受ケスシテ會社設立ノ行爲ヲ爲シタル者又ハ免許ヲ受ケスシテ工事ニ著手シタルモノハ百圓以上二千圓以下ノ罰金ニ處ス

第八十五條 事故審査ノ場合ニ於テ正當ノ事由ナクシテ現狀存置ノ命令ニ違反シ又ハ呼出訊問ニ應セス若クハ虛偽ノ陳述ヲ爲シタル者ハ五百圓以上五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第八十六條 第四十五條ノ規定ニ違反シテ運輸ヲ開始シ若クハ第四十七條ノ規定ニ違反シテ建築物ヲ運輸ノ用ニ供シ又ハ第四十四條第二項第四十八條第二項ノ規定ニ依ル停止ノ命令ニ違反シタルトキハ取締役ヲ百圓以上二千圓以下ノ罰金ニ處ス

第八十七條 第十九條第二項第二十七條第五十條ノ場合ニ於テ呼出ニ應セス又ハ説明ヲ拒ミ若クハ虛偽ノ陳述ヲ爲シタル者ハ五百圓以下ノ過料ニ處ス

第八十八條 左ノ場合ニ於テハ發起人取締役ヲ五百圓以上五百圓以下ノ過料ニ處ス

- 一 本法ニ定メタル登記事項ノ登記ヲ怠リタルトキ

- 二 第七條第二十九條第二項第五十七條第三項ノ公告中ニ記載スヘキ事項ヲ記載セス又ハ不正ノ記載ヲ爲シタルトキ

- 三 鐵道臺帳ノ調製備置ヲ怠リ之ニ記載スヘキ事項ヲ記載セス又ハ不正ノ記載ヲ爲シタルトキ
- 四 本法ニ定メタル營業報告統計書事故其ノ他ノ届出及法令ニ基キテ監督官廳ノ命シタル報告届出ノ呈出ヲ怠リ又ハ故意ニ不正ノ報告届出ヲ爲シタルトキ

- 五 法令ノ規定若ハ法令ニ基キテ發シタル命令又ハ免許許可若クハ認可ニ付シタル條件ニ基キテ發シタル命令ニ違反シタルトキ

第八十九條 左ノ場合ニ於テハ取締役ヲ十圓以上十圓以下ノ過料ニ處ス

- 一 本法ノ規定ニ依リ認可ヲ受クヘキ事項ニ關シ之ヲ受ケスシテ施行シタルトキ
- 二 第二十五條ノ規定ニ違反シ株式ヲ取得シ又ハ質權ノ目的トシテ之ヲ受ケタルトキ

三 第三十二條ノ規定ニ違反シテ配當ヲ爲シタルトキ
 四 本法ニ定メタル主務大臣ノ裁定ヲ遵守セサルトキ
 第九十條 過料ノ徵收ニ關シテハ非訟事件手續法ヲ適用ス

補則

第九十一條 一箇人又ハ一會社ニ於テ箇人ノ專用ニ供スル爲敷設スル鐵道ニ關スル規定ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム
 第九十二條 第十六條ニ定メタル期間ハ舊商法ノ規定ニ從ヒ會社ノ設立ヲ爲ス場合ニハ免許ヲ受ケタル日ヨリ一箇年トス
 第九十三條 第二十五條ノ規定ハ本法施行前ニ取得シ又ハ質權ノ目的トシテ受ケタル株式ニ付テハ之ヲ適用セス
 第九十四條 第三十一條ノ規定ハ本法施行前ニ生シタル債務ニ付テハ之ヲ適用セス
 第九十五條 第三十三條ノ規定ハ本法施行前ニ設定シタル質權ノ效力ヲ妨ケス
 第九十六條 第七十三條第二項第七十四條ノ規走ハ本法施行前ニ免許ヲ受ケタル鐵道ニ付テハ會社ト協議ヲ經タル上ニ非サレハ之ヲ適用セス
 第九十七條 私設鐵道株式會社ニハ本法施行ノ日ヨリ本法ニ特別ノ規定アルモノヲ除クノ外商法及其附屬法令中株式會社ニ關スル規定ヲ適用ス
 第九十八條 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
 私設鐵道條例及明治二十八年法律第四號ハ之ヲ廢止ス

○私設鐵道條例中政府ノ意義解釋ノ件

○閣令第十四號 明治二十年五月

勅令第十二號私設鐵道條例中政府トアル場合ニ於テ事務ノ關涉ハ内閣ヲ指ス儀ト心得ヘシ

○鐵道ニ關スル土地取扱方ノ件

○內務省訓令第七九五號 明治二十二年十月二十八日

鐵道ノ事業タルヤ公共ノ利便ヲ助ケルモノナルヲ以テ從前私設會社ニ於テ工事ヲ起ストキト雖モ時ニ其ノ用地ヲ官ニ買上更ニ之ヲ會社ニ拂下クル旨ヲ勅令ニ於テ規定セラレシナリ然ルニ土地收用法ノ發布ニ際シ土地ノ授受ヲ人民直接ノ協議ニ委ヌルノ精神ヲ以テ右鐵道用地ノ買上及拂下ヲ廢止セラルヽニ至レリ然レトモ地方公共ノ事業ヲ保護スルハ地方官當務ナルカ故ニ地方關係人ヲシテ速ニ會社ノ求ニ應シ協議ヲ盡サシムル事ニ注意シ鐵道事業ヲシテ遲滯セシメサル様相當ノ幫助ヲ與ヘラルヘシ

○鐵道停車場線路敷地地種組替方ノ件

○內務省訓令第四四八號 明治二十七年六月十五日

遞信省所管固定資本ニ屬スル鐵道停車場及鐵道線路敷地等賣拂買入交換ノ處分ヲ爲シタルトキハ同省ヨリノ通牒ニ依リ其應限リ地種組換ヲ爲スヘシ

○私設鐵道敷地等無料貸下ノ件

○私設鐵道敷地無料貸下疑義長官伺 明治二十年十月十二日

當廳下釧路國川上郡跡佐登硫黃鑛附屬運搬用私設鐵道敷地並停車場敷地貸下出願ノ處右等鐵道ノ儀ハ許多ノ資本ヲ費シ新開セシモノニシテ其業實ニ容易ナラス且ツ當道拓地殖産上可成勸獎致度ニ付

該敷地當應限り無料貸下差許處分濟内務報告例ニ據り報告候様特ニ御認可相成度此段相伺候也
○内務農商務兩大臣指令
伺之趣聞届ク

○公用ヲ廢シタル地所鐵道會社へ拂下方ノ件

○三重縣伺 明治二十六年九月十一日
内二進第三二八號

鐵道用地ノ爲メ廢シタル道溝敷等ハ假令之レニ代フル新道溝等ノ築設費用ヲ鐵道會社ニ於テ支辨セシ場合ト雖モ官有地特別處分規則第三條ニ據リ從來修理保存費ヲ負擔セシモノハ總テ無代下付スヘキヤノ件ニ付疑義ヲ生シ去ル二十四年八月二十七日内進第三四三號ヲ以テ相伺タルニ同年九月九日甲第一六三號ヲ以テ該廢溝廢道等ハ其公用ヲ廢スルモ修理保存費負擔者ニ於テ二十三年勅令第三百十五號ニ據リ無代下付ヲ欲セサルモノハ私設鐵道條例第十五條ニ據リ拂下クヘキ旨御指令有之候處抑勅令第三百十五號第三條ニ所謂直接公用ヲ廢スルトキハ廢道廢溝ソノモノニ必要ノ目的ナク全ク無用ニ歸シタルモノヲ指ス儀ニテ本伺ニ云フ如ク鐵道用地ニ必要ナルカ爲メ鐵道會社ニ於テ其拂下ヲ希望シ之レニ代ルヘキ道溝ノ築設費用マテ支辨スルモノ、如キハ最初ヨリ私設鐵道條例第十五條ニ依ルヘクシテ勅令第三百十五號ノ關スル所ニアラサルヘク否レハ私設鐵道條例第十五條ハ遂ニ無効ニ歸スルニ至ルヘクト被存候最モ最前ノ伺ハ文意盡サ、ル所モ有之ニ付更ニ相伺候條至急何分ノ御指揮仰キ候也

○内務省指令甲第一一五號 明治二十六年
十月十日

○北海道鐵道敷設法 (明治三十五年二月)
(明治四十二年三月)
(法律第六號ヲ以テ改正) (法律第二三號ヲ以テ追加)

○法律第九十三號 明治二十九年
五月十三日

北海道鐵道敷設法

- 第一條 政府ハ北海道ニ必要ナル鐵道ヲ完成スル爲漸次豫定ノ線路ヲ調査シ及敷設ス
- 第二條 北海道豫定鐵道線路ハ左ノ如シ
 - 一 石狩國旭川ヨリ十勝國十勝太及釧路國厚岸ヲ經テ北見國網走ニ至ル鐵道
 - 一 石狩國砂川近傍ヨリ下富良野ニ至ル鐵道
 - 一 十勝國利別ヨリ北見國相ノ内ニ釧路國厚岸ヨリ根室國根室ニ至ル鐵道
 - 一 石狩國旭川ヨリ北見國宗谷ニ至ル鐵道
 - 一 石狩國雨龍原野ヨリ天鹽國増毛ニ至ル鐵道
 - 一 天鹽國奈與呂ヨリ北見國網走ニ至ル鐵道
 - 一 後志國小樽ヨリ渡島國函館ニ至ル鐵道
- 第三條 北海道鐵道工事ハ實地ノ緩急ニ應シ各線ヲ數區ニ分チ每區ノ工事ヲ繼續事業トス
- 第四條 北海道鐵道事業ニ要スル費用ハ公債ヲ募集シ之ニ充ツ但シ財政ノ都合ニ依リ他ノ歳入ヲ以テ之レニ充ツルコトヲ得
- 第五條 北海道鐵道公債ノ利子ハ一箇年百分ノ五以下トス
- 第六條 北海道鐵道公債ニ關シ本法ニ規定ナキモノハ總テ明治十九年勅令第六十六號整理公債條例ニ據ル
- 第七條 北海道鐵道敷設ノ費用ニ充ツル爲金三千三百萬圓ヲ限り明治三十年度ヨリ工事ノ緩急ト財政ノ都合ヲ圖リ漸次公債ヲ募集スルコトヲ得
- 第八條 政府ハ鐵道線路ヲ實測シ每區ノ工費豫算ヲ定メ帝國議會ノ協贊ヲ求ムヘシ

第九條 明治二十五年法律第四號鐵道敷設法第十四條第十五條ハ本法ニ適用ス

○官設鐵道用地充用方ノ件

○長官ヨリ拓殖務大臣へ上申 明治二十九年十一月四日 内地第三二一九號

官設鐵道用地中線路敷地ハ明治二十四年内務省訓令第十四號第一條第一號ニ依リ當應限リ充用可致筈之處之ニ附帶シテ必要ナル停車場敷地又ハ工場及倉庫敷地等充用ノ儀モ特ニ當應限リ處分ノ儀差向キ御認可相成度尤差懸ノ儀モ有之候ニ付電信ヲ以テ何分之御指揮相仰度此段及上申候也

○北部局長回答 明治二十九年十一月十六日

本月四日付内地第三二一九號上申官設鐵道用地ハ凡テ明治二十四年内務省訓令第十四號第一條ニ準據シ處理相成可然命ニ依リ通牒ス

○專用鐵道規則適用圍範ノ件

○遞信省鐵道局長ヨリ通牒 明治三十四年六月十五日 鐵道乙第九二四號

明治三十三年八月遞信省令第二十八號專用鐵道規則適用ノ範圍ニ付テハ質疑ノ向モ有之候處當省ニ於テハ右規則ハ左記ノ場合ニ適用不致事ニ扱居候條御心得迄ニ此段及通牒候也
工作場構内鑛區内等ノ使用ニ供スル地區内ニ敷設スル專用鐵道ニシテ公共運送ノ用ニ供スル鐵道ト接續セサルトキ
前項以外ノ專用鐵道ト雖トモ人力又ハ牛馬等ニ依ル專用鐵道ニシテ公共運送ノ用ニ供スル鐵道ト接續セサルトキ

○直接公用地ヲ鐵道用地ニ拂下ノ件

○長官ヨリ内務大臣へ伺 明治三十五年七月十日

鐵道用地ニ必要ノ爲メ官有道路、溝渠、墓地等ノ拂下ヲ願出テ其新道溝ノ築設費及改葬費等ヲ會社ニテ負擔シ之ニ拂下クル目的ニテ其公用ヲ廢シタルモノハ二十三年勅令百二十五號三條ニ依ラス同令一條一號ニ依リ會社ニ拂下ケ可然ヤ二十六年十月三重縣伺ニ對スル貴省指令ノ次第モアレトモ尙ホ電信ニテ御指揮ヲ請フ
○内務大臣電報指令 明治三十五年七月十六日
鐵道用地ニ必要ノ爲メ公用ヲ廢シタル土地拂下ノ件伺ノ通り又新舊道敷等ヲ取扱規則八條ニ依リ交換スルモ支ナシ

○遞信省所管鐵道用地取扱ニ關スル件

○本廳決議 明治三十八年十月二十日

遞信省所管鐵道用地ノ賣拂、買入、交換ノ場合ニハ當應限リ地種組替ヲ爲スヘキ旨明治二十七年六月訓令第四四八號ヲ以テ内務大臣ヨリ訓令相成候へ共右訓令中「寄附」ノ字句ナキヲ以テ民有地ヲ寄附セントスル場合ニハ内務大臣ノ令達ヲ待ツテ寄附受納地種組換ヲ爲スヘキモノト信シ曩ニ上申相成候處一寄附モ右訓令中ニ包含スルモノナルカ故ニ當應限リ地種組換ヲ爲スヘキモノト寄附受納ハ遞信大臣ニ於テ聽許セラル、モノナル旨別紙内務大臣官房地理課長ヨリ通牒有之候是ニ於テ左ノ疑問ヲ生シ候

一、明治二十七年六月訓令第四四八號ニハ賣拂買入交換ノ處分ヲ爲シタルトキハ云々トアリテ「寄附」ノ字句ナシ然ルニ寄附ノ場合モ包含スルトハ解釋シ難キノミナラス「處分ヲ爲シタルトキ」トアルハ遞信省ニ於テ處分シタルトキノ意ナラン然ルニ遞信省ハ土地ノ交換（賣拂買入ヲ別トシ）ヲ處分スヘキモノニアラス官有地取扱規則ニ依リ内務大臣ノ處理スヘキモノニ屬ス故ニ本訓令ハ右規則ニ牴觸スルニアラサルカ

(參照)
官設鐵道會計
法ハ明治四十
二年三月二十
日法律第六十
號ヲ以テ帝國
鐵道會計法ト改
メラル

二、寄附ノ受納ハ官有地取扱規則第六條ニ依リ内務大臣之ヲ受納スヘキモノニシテ願書ニ對スル指
令等ハ同規則第二條ニ依リ地方長官之ヲ取扱フヘキモノナルカ故ニ寄附受納ハ遞信大臣ニ於テ
聽許セラル、モノナリト云フハ是亦右規則ニ抵觸スルニアラサルカ
依テ考究スルニ明治二十七年六月訓令第四四八號ニ遞信省所管「固定資本」ニ屬スル云々トアルヨリ
見レハ鐵道用地ハ普通ノ官用地(官廳所用ノ土地ヲ云フ)ト趣ヲ異ニスルモノニシテ特別ノ法令アル
カ爲メ官有地取扱規則ノ例外トシテ取扱フヲ要シ特ニ此ノ訓令ヲ發セラレタルモノニアラサルカ種
々取調フルニ明治二十三年法律第二十號官設鐵道會計法第一條ニ固定資本、据居運轉資本ノ區別ヲ
定メラレ尙明治二十三年勅令第三十三號作業及鐵道會計規則ノ規定アルヲ以テ官設鐵道ノ收支損益
ハ特別會計ヲ以テスルモノナルコト所管大臣ニ於テ之ヲ掌ルモノナルコト明瞭ナルカ故ニ
一、鐵道用地等ノ賣拂買入交換ハ遞信大臣ノ取扱ニ屬シ其處分ヲ爲シタルトキハ之ヲ地方廳ニ通知
スルヲ以テ地方廳ハ直チニ地種組換ヲ爲スヘキ旨訓令セラレタルモノニシテ明治二十七年六月
内務省訓令第四四八號ハ官有地取扱規則ニ抵觸セルモノニアラス又右訓令中「寄附」ノ字句ナシ
トスルモ鐵道用地等ノ賣拂買入交換ノ處分ヲ遞信省ニ於テ爲ス以上ハ寄附受納ノ如キハ當然爲
スコトヲ得ヘキモノニシテ寄附ノ場合モ包含スルモノト解釋スルヲ相當トス
二、前項ニ述フルカ如ク賣拂買入交換ノ行爲及寄附ノ受納モ遞信省ノ處理スヘキモノナリトセハ「
遞信大臣ニ於テ聽許云々」モ亦官有地取扱規則ニ抵觸スルモノニアラス
以上ノ通りニ付官設鐵道用地ノ處分ハ(國有地ヲ所用スル場合ヲ除ク)遞信省ニ於テ取扱ヒ其通知ニ
基キ當廳ハ地種組換ノ手續ヲ爲スモノト解釋シ自今右ニ依リ取扱可然此段相伺候也
追テ本文御決裁ノ上ハ別紙津田開墾合資會社寄附願ハ當廳ニ於テ更ニ許可ノ指令ヲ爲スヲ要セス
候ニ付其旨ヲ以テ作業局出張所へ返戻地種組換方取計ヲ見込ニ有之候

(參照)

○北甲第一一三號

貴管下十勝國中川郡洞寒村所在民有地鐵道用地トシテ寄附受納並ニ地種目組換ノ件ニ付本月二十日五地第一一三六號ヲ以テ稟
申有之候處右ハ明治二十七年六月十五日内務省訓令第四四八號ニ包含致居候義ニ付本件ハ遞信省ヨリノ通牒ニ依リ貴廳限リ地
種組換相成可然筋ニ有之候條稟申ニ對シ別ニ指令ニ及レヌ候此段及通牒候也
明治三十八年九月二十七日

内務大臣官房地理課長

北海道廳長官宛

追テ鐵道用地ニ土地寄附受納ノ義ハ遞信大臣ニ於テ聽許相成候義ニ付爲念申添候也

○免租地タル鐵道用地ヲ有租地ニ變更ノ場合ニ於ケル取扱方ノ件

○第五部長ヨリ函館、壽都、岩内、室蘭、小樽各支廳長へ通牒 明治四十年三月二十八日
五地第一一五〇五號

從來地租條例第十一條ニ依リ免租地タル私設鐵道用地ヲ有租地ニ變更出願ノ場合ニハ支障ナキ限リ
ハ該願書ニ依リ直チニ許可相成候處私設鐵道法第三十六條ニ依レハ「工事方法ノ變更及假設ノ工事
ハ主務大臣ノ認可ヲ受クルニアラサレハ爲スコトヲ得サル」ニ付爾今免租地ヲ有租地ニ變更出願ニ
際シ右條項ニ該當スル場合ニハ更ニ進ンテ主務大臣ノ認可ヲ得タルヤ否ヤヲ調査スル爲メ認可書ヲ
徵シ處理スル事ニ致候條右ニ御了知有之度此段及通牒候也

○鐵道用地寄附願書取扱方ノ件

○第五部長ヨリ各支廳長へ通牒 明治四十年十月二十一日
五拓第四七六三號

鐵道用地買收ニ當リ土地又ハ貸付地ノ開墾料ヲ無償寄附方出願スル篤志者有之右ニ對シテハ從來鐵
道廳ニ於テ直接受理致來リ候處爾後寄附者ヨリ町村役場及貴廳ヲ經テ本廳ニ願書提出セシムヘキニ

付調査ノ上回送方北海道建設事務所長ヨリ照會有之候條爾後右ニ依リ御取扱相成度依命此段通牒及候也

○買收ニ係ル鐵道用地地種組替省畧ノ件

○長官ヨリ遞送省經理局長へ照會 明治四十年九月十五日 五拓 第四七九〇號

九月十六日付經營甲第二四〇九號ヲ以テ今般買收ニ係ル鐵道用地地種組替方通牒省畧之件御照會之趣了承買收毎ニ一々御通牒相成ルニ及ハス候得共買收地ノ通知ヲ全然省畧セラル、ニ於テハ當廳備付ノ官用地臺帳ニ登載ノ途ナク將來執務上差支有之候ニ付買收濟之上ハ所在地名所用地目及買收價格ト共ニ一括シテ御報導相成候様致度此段回答ヲ兼テ及照會候也

(參考)

○遞信省經理局長ヨリ長官へ照會 明治四十年九月十六日 經營甲第二四〇九號

當省主管鐵道用地トシテ買收地種組替ニ付テハ所有權取得登記濟ノ上本官ヨリ貴官へ及通牒所轄稅務署ニ於テハ登記所ヨリ登記濟ノ通知及貴廳ヨリ地種組替濟ノ通知ニ依リ土地臺帳登錄方取計居ル趣ニ有之候今般鐵道國有法ニ據リ既ニ買收シタル鐵道用地ハ約十數萬筆ニ上リ近キ將來ニ於テ買收スヘキ分亦數萬筆ヲ超ユヘキ見込有之此等ニ對シ所有權取得登記ノ上更ニ地種組替方及通牒候ハ其煩ニ堪ヘサル義ニ付鐵道國有法ニ據リ買收シタル土地ニ限リ登記所ヨリ登記濟ノ通知ノミニ依リ土地臺帳登錄方所理差支ノ有無其筋へ及協議候處差支無之趣ニ付貴廳ニ於テ差支無之候ハ、右買收鐵道用地ニ限リ地種組替方通牒省畧致居候ニ付何分ノ貴答煩度候也

○同上通牒ノ件

○內務大臣官房地理課長ヨリ通牒 明治四十年十二月十六日 內務省遞甲第一九九號ノ内

鐵道國有法ニ依リ國有ニ歸シタル鐵道用地ハ頗ル多數ナルヲ以テ本件ニ限リ地種目組替方省畧ノ義本日別紙之通訓令相成候處官有地籍ノ調査又ハ統計上等ニ付該地ノ地目反別等必要ナル場合ハ直接帝國鐵道廳ニ照會シ其材料ヲ需メラレ可然義ニ有之候條依命此段及通牒候也

○同上ノ件

○內務省訓第一一〇二號 明治四十年十二月十六日

鐵道國有法ニ依リ國有ニ歸シタル鐵道用地ノ地種目組替ニ限リ明治二十七年六月當省訓令第四四八號ニ依ル遞信省ノ通牒ハ省略ニ付地種目組替ニ及ハス右訓令ス

○同上通牒ノ件

○第五部長ヨリ各支廳長へ通牒 明治四十一年四月二十七日 五拓 第二〇九四號

鐵道國有法ニ依リ國有ニ歸シタル鐵道用地ノ地種目組替方省略ノ義ニ關シ今般左記ノ通主務大臣ヨリ訓令及大臣官房地理課長ヨリ依命通牒有之候ニ付爲念此段及通牒候也

記

- 一、明治四十年十二月十六日 內務省訓第一一〇二號
- 二、明治四十年十二月十六日 內務省遞甲第一九九號ノ内務大臣官房地理課長ヨリ通牒

(省 畧)

○鐵道用地地種目ニ關スル件

○內務大臣官房地理課長ヨリ長官へ通牒 明治四十二年七月五日 內務省閣甲 第三七號
鐵道用地地種組替ノ義ニ關シ鐵道院副總裁ヨリ內務次官宛甲號ノ通照會ニ付乙號ノ如ク回答相成候

條爲御心得此段及通牒候也

甲號

○鐵道院副總裁ヨリ内務次官へ照會

明治四十二年六月二十一日
運第 二二四 五號

官有鐵道用地へ地種改正ノ件ニ關シ本年一月運第二三四號ヲ以テ當院總裁ヨリ貴省大臣へ照會ノ次第モ有之候處地所名稱區別中改正ノ儀ハ容易ニ行ハレ兼候哉ノ趣然ルニ從來停車場敷地ヲ第二種ニ編入セラレタルハ停車場構内ニ官舎及事務所ノ設置アリシト又停車場ヲ以テ應舎ト看做シタルトニ由リ他官廳所用地ト等シク官有地トシテ取扱タルモノニ有之候得共元來停車場ハ旅客及貨物運搬ノ用ニ供シ其又停車場構内ニ於ケル官舎及事務所ト雖モ現業ヲ執ルニ缺クヘカラサル機關ニシテ全ク鐵道線路トハ離ルヘカラサル關係ヲ有シ殊ニ鐵道用地ハ固定財産ニ屬スルモノナルニ依リ一般官舎應舎ト敷地同一視スヘキモノニ無之則チ最前照會ノ如ク事實ヲ履行シ難キ事情ニヨリ且鐵道國有後ハ急劇ノ膨脹ニテ停車場ノ新設擴張等益多キヲ加ヘ一層整理難ヲ感セル折柄ニ付別ニ差支無之候ハ、停車場構外及停車場ニ接續シテ多數若ハ重要ナル官舎及應舎アリテ其敷地區域カ停車場ノ設備ト判然區別シ得ヘキモノニ限り第二種官有地トシ其他ノ土地一切ハ停車場敷地線路敷地ノ如ク其區別ヲ爲サス總テ第二種鐵道用地トシテ便宜取扱フコトニ致度右ハ處理上ノ都合モ有之候ニ付至急御回答相煩ハシ度

乙號

○内務次官ヨリ鐵道院副總裁へ回答

明治四十二年
七月五日

本年六月二十一日運第二二四五號ヲ以テ鐵道停車場敷地ヲ第三種鐵道線路敷地ニ包含セシメ取扱方ノ義ニ付照會ノ趣了承右ハ御來意ノ通取計差支無之モ地目ハ猶鐵道線路敷地トスル方可然ト存候此段及回答候也

○鐵道用地ニ關スル件

○本廳決議

大正三年
六月六日

近來鐵道用地トシテ管理換ヲ要求シ來ルモノ、内ニハ其性質上使用ノ承認ヲナセハ管理換ノ必要ナキカ如ク認メラル、モノモ有之候ニ付今後左ノ通鐵道用地處理ノ標準ヲ定メ取扱可然哉

記

一、左ニ該當スルモノハ實地支障ナキニ於テハ管理換ノ要求ニ應スルコト

(イ) 鐵道應舎並官舎敷地

(ロ) 鐵道停車場敷地

(ハ) 鐵道線路敷地

(ニ) 鐵道工場其他附屬建物敷地

(ホ) 鐵道療養場敷地

但以上ノ各地目ニ該當スルモノ一時限リノモノハ使用ヲ承認シ管理換ヲナサ、ルコト

二、第一項ニ掲クル地目外ノモノハ土地ニ對スル支障ノ有無ト共ニ土地管理上其他管理換ノ可否ヲモ調査シ必要ト認メタル場合ニ限り管理換ノ要求ニ應シ其他ハ使用ヲ承認スルコト

○輕便鐵道法

○法律第五十七號

明治四十三年
三月二十日

輕便鐵道法

第一條 輕便鐵道ヲ敷設シ一般運送ノ用ニ供セムトスル者ハ左ノ書類及圖面ヲ提出シ主務大臣ノ免許ヲ受クヘシ

- 一 起業日論見書
 - 二 線路豫測圖
 - 三 敷設費用ノ概算書
 - 四 運送營業上ノ收支概算書
 - 第二條 主務大臣ハ公益上必要ト認ムルトキハ免許ニ條件ヲ附スルコトヲ得
 - 第三條 免許ヲ受ケタル者ハ免許ニ指定シタル期間内ニ線路實測圖、工事方法書及工費豫算書ヲ提出シ主務大臣ノ認可ヲ受クヘシ但シ會社ニ在リテハ定款ヲ添附スルコトヲ要ス
 - 第四條 線路ハ之ヲ道路上ニ敷設スルコトヲ得ス但シ必要ナル場合ニ於テ主務大臣ノ許可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラス
 - 第五條 私設鐵道法第二十條、第四十一條、第四十二條、第五十三條乃至第五十五條及第八十條ノ規定ハ輕便鐵道ニ之ヲ準用ス
 - 第六條 鐵道營業法ハ輕便鐵道ニ之ヲ準用ス
 - 第七條 明治四十二年法律第二十八號ハ輕便鐵道ノ抵當ニ之ヲ準用ス
 - 第八條 本法ニ依リ運送ノ業ヲ爲ス者ニ對シテハ命令ノ定ムル所ニ依リ鐵道船舶郵便法ヲ準用ス
- 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
本法施行前免許又ハ特許ヲ受ケタル鐵道及軌道ニシテ將來本法ニ依ラシムヘキモノハ主務大臣之ヲ指定ス

附則

○水道

○水道條例

○法律第九號

明治二十三年

（明治四十四年三月法律第四三號ヲ以テ改正）

水道條例

- 第一條 水道トハ市町村ノ住民ノ需用ニ應シ給水ノ目的ヲ以テ布設スル水道ヲ云ヒ水道用地トハ水源、貯水地、濾水場、唧水場及水道線路ニ要スル地ヲ云フ
- 第二條 水道ハ市町村其公費ヲ以テスルニ非サレハ之ヲ布設スルコトヲ得ス但土地開發ノ爲メ町村内ニ水道ヲ布設スル必要アル場合ニ限リ當該町村其資力ニ堪ヘサルトキハ元資償却ヲ目途トスル市町村以外ノ企業者ニ之ヲ許可スルコトアルヘシ
- 前項ノ元資トハ布設費及其利子ヲ云フ但利子ハ年五分以内トス
- 第三條 市町村ニ於テ水道ヲ布設セントスルトキハ其目論見書ニ左ノ事項ヲ詳記シ地方長官ヲ經テ内務大臣ノ認可ヲ受クヘシ
- 第一 水道事務所ノ所在地
- 第二 水源ノ位置河川池湖又ハ掘井別其周圍ノ概況及其水量ノ概算但シ圖面及水質ノ分析表ヲ添フヘシ
- 第三 水道線路及ヒ水道線路ニ沿フタル地名貯水地、濾水場、唧水場ノ位置但シ圖面ヲ添フヘシ
- 第四 給水ノ區域其人口及其一人一日ニ對スル平均給水量
- 第五 人口増殖及多量ノ水ヲ用フル製造場等ニ對スル給水量増加ノ見込
- 第六 水壓ノ概算
- 第七 工事方法

- 第八 起工竣竣工期限
- 第九 工費ノ總額其收入支出ノ方法及其豫算
- 第十 水料ノ等級、價格、水料徴收ノ方法及經常收支ノ概算
- 市町村ニ非サル企業者ニ在リテハ前掲各號ノ外企業ノ組織、資本ノ總額、元資償却ノ方法及許可年限ヲ記載スヘシ
- 第四條 內務大臣ハ前條ノ圖面書類ヲ審査シ不都合ナシト認ムルトキハ水道布設ノ認可狀又ハ許可書ヲ與フヘシ
- 市町村ニ非サル企業者ノ出願ニ對シテハ內務大臣ハ必要ト認ムル事項ヲ許可書ニ附シテ命令スルコトヲ得
- 第五條 水道用地ハ國稅其他ノ公課ヲ免除ス
- 第六條 官有ノ土地ニシテ水道用地ニ必要ナルモノハ之ヲ拂下ケ又ハ貸付スヘシ
- 第七條 水管ヲ官有地又ハ公道ノ地下ニ布設セントスルトキハ當該官廳ノ許可ヲ受クヘシ
- 第八條 地方長官ハ隨時當該官吏又ハ技術官ヲ派遣シテ水道工事及水質水量ヲ検査セシメ其改築修理ヲ要シ又ハ水質不良水量不足ナリト認ムルトキハ地方衛生會ノ議定ヲ經相當ノ猶豫期日ヲ定メテ之カ改良ヲ市町村ニ命スヘシ
- 第九條 市町村ハ工事落成又ハ改築修理ヲ了リタルトキハ地方官廳ニ届出監査ヲ受クヘシ
- 第十條 水道ノ給水ヲ受クル者ハ水質水量ノ検査ヲ市町村長ニ請求スルコトヲ得
- 第十一條 家屋内ノ給水用具及本支水管ヨリ之ニ接続スル細管ハ市町村ノ所定ニ從ヒ之ヲ設置シ其費用ハ水道ノ給水ヲ受クル家主ノ負擔トス
- 第十二條 市町村ノ水道掛ハ午前八時ヨリ午後五時迄ノ内ニ於テ家屋内ノ給水用具ヲ検査スルコトヲ得但シ水道掛ハ其證票ヲ携帶スヘシ

- 第十三條 市町村長ハ水道掛ノ報告ニ依リ家屋内ノ給水用具不完全ナリト認ムルトキハ相當ノ猶豫期日ヲ定メテ之カ修繕ヲ爲サシムヘシ
- 家主若シ其修繕ヲ怠ルトキハ市町村ニ於テ之ヲ修繕シ其費用ヲ徴收スルコトヲ得
- 第十四條 家主ハ家屋内給水用具ノ設置又ハ其修繕ヲ了リタルトキハ市町村ノ水道掛ニ届出スヘシ
- 水道掛ハ速ニ之ヲ検査スヘシ
- 第十五條 市町村ハ一家専用ノ給水用具ヲ設クル能ハサルモノ、爲メニ共用給水器ヲ設クヘシ
- 第十六條 市町村ハ消防用ノ爲メニ消火栓ヲ設置スヘシ消防用ニ消費シタル水ハ水料ヲ徴收スヘカラス
- 第十七條 市町村ニ非サル企業者ノ布設シタル水道ニシテ許可年限滿了シタルトキ又ハ許可年限内ニ元資ノ償却ヲ了リタルトキハ其水道及水道經營ニ必要ナル一切ノ土地物件ハ無償ニテ關係市町村有ニ歸ス
- 第十八條 市町村ニ非サル企業者ノ布設シタル水道ニシテ關係市町村ニ於テ必要ト認ムルトキハ元資未償却金額又ハ水道布設費ヲ許可年限ニテ除シ之ニ殘餘ノ年限ヲ乘シタル金額ヲ以テ之ヲ買收スルコトヲ得

附 則

第八條乃至第十六條ニ於テ市町村及市町村長トアルハ市町村以外ノ企業ニ係ル場合ニハ其ノ企業者ニ之ヲ準用ス

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○個人用水道布設ニ關スル件

○内務省衛生局長ヨリ通牒 明治三十六年七月二十一日 衛甲第四八八號

個人用水道布設之件ニ付左記之通り福岡縣ト照覆致候間爲御參考此段及通牒候也

○福岡縣知事照會 明治三十六年六月十三日 發二第一七〇號

一人若ハ數人共同シ自家ノ飲料水ニ供シ若シ自家飲料ニ餘剩アルトキハ之ヲ他ニ供給スルノ目的ヲ以テ溪川等ヲ水源トシ鐵管ヲ埋設シテ引水シ貯水池濾水場等ヲ設置致度旨出願スルモノアリテ其水質ヲ試験スルニ良水ニシテ飲料水ニ適シ衛生上其他障礙無之トキハ本縣限リ處分シ可然歟御見込ノ程承知致度此段及照會候也

○衛生局長回答 明治三十六年 七月二十一日

本年六月十三日付發二第一七〇號御承會ノ水道布設ノ義ハ自家用ノ外一般人民ニ供給スルノ目的ヲ以テ鐵管ヲ布設シ貯水池濾水場等ヲ設置スルニ於テハ自然水道條例ニ抵觸スルノ嫌有之且ツ他日市町村ニ於テ條例ニ基キ完全ナル水道ヲ經營セントスルニ當リ其ノ障害ト可相成ニ付右等ノ企畫ハ御差止相成様致度依命此段及回答候也

○水道用地處分ノ件

○本廳決議 明治四十一年 七月二十九日

水道用地トシテ必要ナル土地ニシテ官有地ナルトキハ官有地特別處分規則第一條第一號ニ依リ處分シ國有未開地ナルトキハ國有未開地處分法第四條ニ依リ處分スルコト 追テ本議御決定ノ上ハ他ノ箇所ニ於テ水道布設ノ爲メ要スル土地ニ對シテモ同様取扱可然哉併テ相伺候也

○下水道法

○法律第三十二號 明治三十三年 三月

下水道法

第一條 本法ニ於テ下水道ト稱スルハ土地ノ清潔ヲ保持スル爲汚水雨水疏通ノ目的ヲ以テ布設スル排水管其他ノ排水線路裝置ヲ謂フ

本法ニ於テ築造ト稱スルハ新築改築ヲ及増築ヲ包含ス

第二條 市ニ於テ下水道ヲ築造セムトキハ其設計工費ノ收支豫算及起工竣竣工ノ期限ヲ定メ内務大臣ノ認可ヲ受クヘシ但シ命令ヲ以テ定ムル種類ノ改築又ハ増築工事ニ關シテハ此ノ限リニ在ラス

第三條 下水道ヲ設ケタル地ニ於テハ命令ノ定ムル所ニ依リ市又ハ土地ノ所有者使用者若ハ占有者ハ汚水雨水ヲ下水道ニ疏通スル爲必要ナル施設ヲ爲シ及之ヲ管理スル義務ヲ負フ

市ニ於テ前項ノ施設ヲ爲シ及之ヲ管理スル場合ニ於テハ市條例ノ定ムル所ニ依リ其費用ヲ土地ノ所有者使用者又ハ占有者ヨリ徵收スルコトヲ得

第四條 前條ノ場合ニ於テ甲地ノ汚水雨水ヲ疏通スル爲必要アルトキハ乙地ニ汚水雨水ヲ通過セシメ又ハ乙地ノ汚水雨水ヲ通過セシムル爲設ケタル工作物ヲ使用スルコトヲ得但シ乙地ノ爲ニ損害最少キ場所及方法ヲ選ムヘシ

前項ニ依リ他人ノ工作物ヲ使用スル者ハ其利益ヲ受クル割合ニ應シテ工作物ノ施設及管理ノ費用ヲ負擔スヘシ

第五條 下水道ヲ築造シ若ハ之ヲ管理シ又ハ第三條ノ施設ヲ爲シ若ハ之ヲ管理スル爲必要アルトキハ他人ノ土地ヲ使用スルコトヲ得但シ之カ爲他人ノ受ケタル損害ニ對シ償金ヲ拂フコトヲ要ス

第六條 當該吏員ハ下水道又ハ第三條ノ施設ノ實況ヲ監視スル爲其ノ事由ヲ告知シテ私人ノ土地ニ

立入ルコトヲ得

第七條 下水道ノ用地ニ必要ナル國有ノ土地ハ市ニ讓與シ又ハ無償ニテ使用セシムルコトヲ得
 第八條 本法又ハ本法ニ基ツキテ發スル命令ニ依リ私人ニ於テ履行スヘキ事項ヲ履行セス又ハ之ヲ履行スルモ充分ナラスト認ムルトキハ當該吏員ニ於テ之ヲ履行シ其費用ハ市ニ於テ之ヲ支辨スヘシ前項ノ處分ハ豫メ履行期間ヲ指定シテ戒告スルニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス但シ必要ノ時限内ニ履行シ得スト認ムルトキハ此ノ限リニ在ラス
 第九條 前條ノ處分ヲ爲シタルトキハ市ハ市税ノ例ニ依リ其ノ費用ヲ義務者ヨリ徵收スルコトヲ得
 第十條 市ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ町村ノ委託ヲ受ケ町村ノ全部又ハ一部ノ爲ニ其下水道ヲ築造スルコトヲ得

附 則

第十一條 內務大臣ハ必要ト認ムルトキハ下水道ノ築造ヲ市ニ命スルコトヲ得
 第十二條 本法ハ明治三十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス
 第十三條 本法ハ東京市區改正ニ關スル規定ノ效力ヲ妨ケス
 第十四條 本法ノ規定ハ之ヲ區町村ニ準用ス

○下水道法施行規則

○內務省令第二十一號

明治三十四年七月

下水道法施行規則

第一條 土地ノ所有者使用者又ハ占有者ハ左ノ區分ニ依リ下水道法第三條ノ施設ヲ爲シ及之ヲ管理スルノ義務ヲ負フ但シ本則第二條ノ場合ニ於テハ此ノ限リニ在ラス

一 建物アル土地ニ在リテハ之カ築造及修繕ハ其ノ建物ノ所有者
 二 建物ナキ土地ニアリテハ之カ築造及修繕ハ其ノ土地ノ所有者
 三 建物ノ有無ニ拘ハラズ之カ掃除及浚渫ハ土地ノ占有者
 第二條 市ハ下水道法第三條ノ施設ニシテ公道ニ屬スル部分ヲ築造シ及之ヲ管理スルノ義務ヲ負フ市ハ土地ノ狀況ニ依リ下水道法第三條ノ施設ニシテ公道以外ニ屬スル部分ヲ築造シ又ハ之ヲ管理スルコトヲ得

第三條 市ハ下水道ノ改築又ハ増築工事ニシテ工費壹萬圓未滿ノモノニ關シテハ下水道法第二條ノ認可ヲ受クルコトヲ要セス

第四條 當該吏員下水道法第六條ニ依リ私人ノ土地ニ立入ル場合ニ關シテハ汚物掃除法施行規則第十二條ノ規定ヲ準用ス

第五條 下水道法第八條第二項ノ戒告及第九條ノ費用徵收ニ關シテハ汚物掃除法施行規則第十三條及第十四條ノ規定ヲ準用ス

第六條 下水道ニ關シテハ汚物掃除法施行規則第四條第三項及第七條ノ規定ヲ準用ス
 下水道及下水道法第三條ノ施設ニ關シテハ汚物掃除法施行規則第十五條ノ規定ヲ準用ス
 第七條 東京市ニ在リテハ地方長官ノ職務ハ警視總監及東京府知事之ヲ行フ

○下水道築造認可申請ノ件

○內務省訓令第十一號

明治三十四年七月

下水道法第二條ニ依リ下水道築造ノ認可ヲ申請セムトスルトキハ左ノ規定ニ從ヒ圖面及書類ヲ調製添付セシムヘシ

- 第一條 申請書ニ添付スヘキ圖面及書類ハ左ノ如シ
 - 一 實測平面圖 縮尺二千五百分一以上
 - 二 實測縱斷面圖 縮尺長二千五百分一以上 縮尺五分一以上
 - 三 排水管及排水渠ノ斷面圖 縮尺五分一以上
 - 四 人孔、燈孔、通風器、防臭瓣裝置、排水唧筒、沈澱池、濾過池ノ構造ニ關スル圖面其ノ他必要ナル細分圖 縮尺五分一以上
 - 五 一位代價表
 - 六 工費計算書

○軌道

○軌道條例

○法律第七十一號 明治二十二年八月

軌道條例

- 第一條 一般運輸交通ノ便ニ供スル馬車鐵道及其他之ニ準スヘキ軌道ハ起業者ニ於テ内務大臣ノ特許ヲ受ケ之ヲ公共道路上ニ布設スルコトヲ得
- 第二條 馬車鐵道及其他之ニ準スヘキ軌道布設ノ爲起業者ノ負擔ヲ以テ在來ノ道路ヲ取擴メ又ハ更正シ若ハ新ニ軌道敷ヲ設クルノ必要アルトキハ之ニ要スル土地ハ起業者ニ於テ土地收用法ノ規定ニ依リ内閣ノ認定ヲ經テ之ヲ收用スルコトヲ得
- 第三條 在來ノ道路ヲ取擴メ又ハ更正シタル部分及新設シタル軌道敷ハ俱ニ道路敷ニ編入ス

○軌道條例取扱方ノ件

(明治四十一年十月訓令第一號ヲ以テ改正)

○内務省訓令第十七號 明治三十四年十月

明治二十三年法律第七十一號軌道條例取扱方自今左ノ通り心得ヘシ但シ明治二十三年内務省訓令第六二號及明治二十七年訓令第六四號訓令ハ之ヲ廢ス

- 第一條 願書ニハ起業目論見書、工事方法概要書並圖面、線路豫測圖(縮尺二萬分ノ一以上)、工費概算書及營業上ノ收支概算書ヲ添付セシムルコトヲ要ス
- 第二條 地方長官ハ軌道ヲ敷設スヘキ公共道路ノ維持費ヲ負擔スル府縣郡市町村其ノ他公共團體ノ議會若ハ之ニ準スヘキ議會ノ意見ヲ聞クコトヲ要ス但シ軌道力單ニ道路ヲ橫斷スルニ止マルトキハ此ノ限リニ在ラス
- 府縣制又ハ郡制實施ノ地方ニ於テ府縣郡會ノ招集ノ時期ニアラサル場合ニ出願アリタルトキハ其ノ府縣郡參事會ノ意見ヲ以テ前項府縣郡會ニ代フルコトヲ得
- 第三條 地方長官ハ意見書ヲ作り別記命令書案雛形ニ準シ土地ノ狀況ヲ斟酌シテ命令書案ヲ調製シ之ニ添付スヘシ
- 電氣以外ノ原動力ノ場合ニ於テハ其ノ原動力ノ種類ニ應シ命令書案ヲ調製スルコトヲ要ス
- 命令書案第一條ニ記載スヘキ軌道敷設線路ノ發著點ニハ市區町村字名並地番若ハ地先地番ヲ掲記シ其ノ經過線路ハ成ルヘク細別シ國縣里道若ハ新設軌道敷ノ種類ニ應シ經過線路ノ順序ニ從テ列記スヘシ
- 第四條 命令書案雛形第五條第一項第四號及第五號中ニ規定セル幅員ハ最少限ヲ示セルモノナレハ命令書案調製ニ當リテ地方長官ハ交通上ノ關係ハ勿論其ノ他軌道敷設ノ爲生スヘキ利害ヲ比較シ

テ周到ナル審査ヲ爲シ單ニ現在ノ利害ノミナラス將來交通上ノ得失ヲ參酌シ適當ナル制限ヲ設クルコトヲ要ス

第五條 命令書案雜形第五條第一項第十號ノ屈曲ノ半徑ニ關スル規定ハ車體ノ構造ニ依リ相當變更スルヲ妨ケス

第六條 保證金ハ工事著手前ニ差出サシムヘシ

第七條 車輛進行ノ速度ハ一時間八哩以內ニ於テ命令書案中ニ相當制限スルコトヲ妨ケス

第八條 地方長官ニ於テ交通ノ狀況及車體ノ構造ニヨリテハ二車ニ限リ聯結進行セシムルモ支障ナシト認ムルトキハ命令書案雜形第十四條ヲ變更スルコトヲ得但シ此場合ニ於テハ其ノ事由ヲ副申スヘシ

第九條 地方長官ハ運輸開始許可ノ申請アリタルトキハ工事方法書ニ違反セルコトナキヤ又ハ軌道ノ設備力運輸ヲ開始スルニ不適當ナルコトナキヤ否ヤ嚴正検査スヘシ

第十條 特許狀並命令書ヲ交付シタルトキハ請書ヲ徵シ之ヲ進達スヘシ
特許狀並命令書ヲ交付ノ時日ハ之ヲ報告スヘシ
(別記省略)

○關係議會ニ諮問方ノ件

○土木局長通牒 明治三十三年十月二十七日 土甲 第六三號

明治二十三年十月訓令第三十六號同年同月訓令第六六二號訓令及明治三十年二月訓令第一七二號訓令ニ依リ關係議會ノ意見ヲ徵セラルル場合ニ於テ其出願人ノ氏名ヲ表示セラレシテ單ニ出願事項ノミヲ諮問ニ付セラルルモ差支無之就テハ數人競願ノ場合等ニ於テ設計組同一ナルトキハ唯其設計ヲ以テ

諮問相成可然儀ニ候條右様御承知有之度依命此段及通牒候也

○諮問ニ際シ議會不成立ノ場合ニ於ケル取扱方ノ件

○土木局長通牒 明治三十三年十一月十二日 土甲 第一號

明治二十三年訓令第三十六號同年同月訓令第六六二號訓令及明治三十年二月訓令第一七二號訓令等ニ依リ關係議會ノ意見ヲ徵セラルル場合ニ於テ其ノ議會招集ニ應セス若ハ成立セサルトキ又ハ期間ヲ付シテ諮問シタル場合ニ其期間內ニ意見ヲ呈出セサルトキハ當該行政廳ヲシテ意見ヲ附セシメ御提出相成可然依命此段及通牒候也

○公有水面埋立竝ニ軌道布設ニ關スル件

○内務部長ヨリ各支廳長ヘ通牒 明治三十三年四月九日 内土 第五一號

公有水面埋立又ハ軌道布設ニ關シ關係議會又ハ總代人會ノ意見ヲ徵スル場合ニ於テ其議會又ハ總代人會招集ニ應セス若ハ成立セサルトキ又ハ期間ヲ付シテ諮問シタル場合ニ其ノ期間內ニ意見ヲ呈出セサルトキハ當該行政廳ニ於テ意見ヲ付シ提出セラルヘシ又近來公有水面埋立ニ關シ往々他人ノ埋立工事ノ竣工ニ先チ其前面ニ於テ更ニ區域ヲ畫シテ埋立ヲ出願スルモノアリ此ノ如キハ漫リニ他人ノ起業ヲ妨害スルモノニシテ既許可ノ事業成功ニ至リ其處分ヲ了スルニ非サレハ更ニ其前面ノ埋立起業ヲ許可スルヲ得サルハ勿論ノ義ニ付此種ノ出願アルトキハ願書ニ詳細其事由ヲ具シ副申相成度依命此段通牒候也

○軌道敷設事業認定申請書進達方ノ件

○内務省土木局長ヨリ長官ヘ通牒 大正二年三月十八日 發 第五九號

軌道條例ニ依ル軌道敷設事業認定申請書進達方ニ付テハ明治四十一年四月發第四五號土木局長通牒ニ基キ夫々御取扱可相成筈ノ處往々工事施行認可申請以前ニ事業認定申請書ヲ進達セラルル向有之候右ハ整理上無益ノ手數ヲ要スルノミナラス此等事業ノ工事ハ工事施行認可ヲ得初メテ實地設計確定スルモノナレハ調査ノ結果其設計ヲ變更スル場合ハ事業認定ノ計畫ニモ同様ノ變更ヲ及ホシ一旦提出セシ圖書モ更ニ訂正再出セシムルカ如キ再度ノ手數ヲ釀スヘキ義ニ付爾今右申請書ハ工事施行ノ認可アリタル後認可年月日ヲ記入セシメ御進達相成度尙電氣機瓦斯燈及輕便鐵道法ニ依ル事業ノ事業認定申請ニ關シテモ右同様御取計相成度

參考

○内務省土木局長ヨリ長官へ通牒 明治四十一年四月十五日 發 第四五號

軌道條例ニ依レル軌道敷設事業ノ義ハ特許命令書按第五條ニ依リ工事ノ施行認可ヲ得初メテ實地設計確定スルモノニ付土地收用法第十三條ニ依ル事業認定申請書ヲ工事施行認可申請前ニ提出シタル場合ニ於テハ右施行認可ノ申請ヲ待テ同時ニ御進達相成度尙電氣軌道ニ在テハ電氣ニ關スル事項ニ付特許命令書案第四條ニ依リ出願ヲ爲シ其許可ヲ得タル後ニ於テ工事施行ノ認可ヲ申請スヘキ義ニ候條右様御承知相成度爲念此段及通牒候也

○軌道布設ニ關スル件

○土木部長ヨリ各支廳長各區長へ通牒 明治三十五年五月二十一日 土 監 第三一號

明治三十三年四月十二日附ヲ以テ軌道條例ニ依リ軌道布設ヲ出願シタル者有之節願書進達ノ際調査方通牒ニ及置候處今後左記事項ニ基キ御調査相成進達ノ際申出ラレ度依命此段及通牒候也

一、起業ハ成業ノ見込アルヤ否ヤ

二、沿道市區町村ニ及ホスヘキ影響

三、既成鐵道又ハ軌道ニ及ホスヘキ影響

四、既成鐵道又ハ軌道ヲ横過シテ軌道ヲ敷設スヘキ場合ニ於テハ其ノ横過ノ方法並ニ其方法ニ付協議濟ナルヤ否ヤ若シ協議濟トセハ其事項ノ概要

五、願人ノ信用資産ニ關スル件

六、願書並ニ關係書類ニ押捺セル印影ノ確否

七、願書ニ並關係書類中ニ代理人トシテ記名捺印セルモノアル場合ニ於テハ其ノ代理委任ハ正確ナルヤ否ヤ

○軌道敷設願取扱方ノ件

○北海道廳令第百十一號 明治三十五年 八月十日

軌道條例又ハ專用鐵道規則ニ據ラサルモノニシテ道路堤塘上ニ軌道ヲ布設セントスルモノハ願書ニ起業目論見書工事方法書工費概算書及敷地ノ關係設計概要ヲ知ルニ足ルヘキ實測圖(平面圖、縱斷面圖、橫斷面圖)及設計圖ヲ添へ所轄町村戸長役場及支廳區役所ヲ經由シ出願スヘシ

○同上ノ件

○北海道廳訓令第九十八號 明治三十五年 八月十日 支廳 區役所 町村役場 戸長役場

北海道廳令第百十一號ニ依リ軌道布設ノ出願ヲナスモノアルトキハ意見ヲ付シ其道路堤塘ノ費用ヲ區町村ニ於テ負擔スルモノナルトキハ當該區町村會又ハ總代人會ノ意見ヲ徵シ本長官ニ進達スヘシ

○同上ノ件

○土木部長ヨリ各支廳長各區長へ通牒 明治三十五年八月十二日 土監 第四八〇號
 本年八月十日北海道廳令第百一十一號同北海道廳訓令第九十八號御發令相成候處從來軌道布設ヲ出願
 スルモノニシテ道路堤塘等ノ使用許可ヲ受ケ直ニ軌道布設ヲナスモノ往々有之趣ノ處爾後是等出願
 ヲナスモノアルトキハ本廳令本訓令ニ據リ御取扱相成度依命此段及通牒候也

○軌道敷設取扱方ノ件

○殖民部長ヨリ各支廳長へ通牒(釧路支廳ヲ除ク) 明治三十七年四月八日 殖拓第六一六二號
 軌道條例及專用鐵道規則ニ依ラサル軌道ヲ道路竝ニ堤塘ニ敷設セムトスル場合ハ明治三十五年廳令
 第一一號ニ依リ出願スヘキハ勿論ニ候得共元來軌道ハ其法概シテ公安ニ關スル工事ナルヲ以テ是
 等ニ對シ保護檢束ヲ要スルノ必要之アリ候ニ付同廳令以外ノ土地ト雖モ同令ニ準シ其敷設ヲ出願セ
 シメ之ニ保護檢束ヲ要スル命令書ヲ下付シテ許可スヘキコトニ廳議相決候條此段及通牒候也

○道 路

○道路掃除方ノ件

○太政官布告第三百二十五號 明治五年 十月

近來道路掃除ノ儀多クハ等閑ニ相成甚以不相濟事ニ候條各地方官ニ於テ厚ク注意シ追テ道路ノ制被
 相立候マテハ從前掃除請持有之道筋ハ勿論持場無之場所ハ最寄町村へ公平ニ割渡左ノ條目ノ通掃除
 可爲致事

第一條

一 總テ掃除請持丁場ハ風雨等ノ障リ有無ニ不拘必ス三箇月中一度ツツ掃除可致事

第二條

一 風雨ノ後ハ必ス其持場ヲ掃除シ溜水ハ左右溝へ導キ水溜ノ場所相減候様可致事

第三條

一 並木根返リ風折雪折等ハ追テ其廳ヨリ處分有之ト雖モ不取敢通路妨ナキ様取片付置可申事

第四條

一 左右ニ溝渠無之道路ハ可成丈ケ路ノ兩緣ヲ低下ニシ雨水ノ捌方宜敷様可致事

第五條

一 掃除丁場標杭往々等閑ニ致シ置候向モ有之右ハ必ス其請持丁場境ニ從是東或ハ南北何百何十
 何丁何郡何村掃除丁場ト誌シ標杭可相建事

第六條

一 路鉗往々田畑ニ切添候ヨリ並木根サシヲ失シ之カ爲メ根返ニ及ヒ易ク以ノ外ノ事ニ候以來決
 シテ右等ノ所業致ス間敷事
 右之通堅可相守候若シ等閑ニ差置ニ於テハ掛リ官員巡回ノ節屹度可申付事

○道路敷地貸渡禁止ノ件

○内務省達乙第百六十五號 明治八年 十二月
 從來ノ因襲ヲ以テ是迄道路ノ敷地ヲ貸渡住居差許置候分モ有之候處自今從來障害ノ有無ニ拘ハラヌ
 新タニ貸渡候儀難相成候條爲心得此旨相達候事

○道路分類等級ノ件

○太政官達第六十號 明治九年 六月

明治六年八月大藏省ヨリ相達候道路ノ等級ヲ廢シ更ニ別紙ノ通相定候條右分類等級各管内限詳細取調内務省へ可伺出此旨相達候事

但シ費用ノ儀ハ追テ一般布告候迄從前ノ通相心得可シ

國道

(等級ハ十八年一月太政官布達第一號ヲ以テ廢止ス)

縣道

一等 各縣ヲ接續シ及各鎮臺ヨリ各分營ニ達スルモノ

二等 各府縣本廳ヨリ其支廳ニ達スルモノ

三等 著名ノ區ヨリ都府ニ達シ或ハ其區ニ往還スヘキ便宜ノ開港等ニ達スルモノ

里道

一等 彼此ノ數區ヲ貫通シ或ハ甲區ヨリ乙區ニ達スルモノ

二等 用水堤防牧畜坑山製造所等ノタメ該區人民ノ協議ニ依テ別段ニ設クルモノ

三等 神社佛閣及田畑耕耘ノ爲ニ設クルモノ

右ノ内一道ニシテ各種ヲ兼ルモノハ其類ノ重キモノニ從テ國道並縣道ノ道幅其土地ノ景況ニ據テ各地名殊ナルモノナレハ今遽ニ之ヲ一定シ實地ニ施行スヘカラスト雖モ豫メ一般ノ法則ナキ時ハ道路ヨリ生スル百般ノ事件其準據ヲ失フノ患アリ仍テ左ノ定ヲ以テ一般ノ法則ト爲シ且將來新設スル所ノ道路ハ其土地ノ便宜ニヨリ此道幅ヲ保タシムヘシ

國道

(幅員ハ同上法令ニ依リテ定ム)

縣道 道幅四間乃至五間

里道ニ至テハ要スルニ該區ノ利便ヲ達スルニ在テ其關係スル所隨テ小ナレハ必ス之ヲ一定スルヲ要セス

橋梁ハ即チ線路ヲ互續スルモノナルヲ以テ道路ノ種類ニ隨フヲ至當トス然レトモ其幅ノ如キハ必スシモ道幅ニ隨フヲ要セス

○道路副員ノ件

○太政官布達第一號 明治十八年八月

今般國道ノ等級ヲ廢シ其幅員ハ道敷四間以上並木敷濕拔敷ヲ合セテ三間以上總テ七間ヨリ狭少ナラサルモノトス

但シ國道線路ハ内務卿ヨリ告示スヘシ

○道路堤塘ニ軌道條例ニ依ラサル軌道敷設願取扱方ノ件

○内務大臣訓令 明治三十三年七月三日 訓第七三七號

北海道廳

軌道條例ニ依ラサルモノニシテ道路又ハ堤塘上ニ軌道ヲ布設センコトヲ出願シタルモノアルトキハ其保護及檢束ヲ要スヘキ事項ニ付テハ命令書按ヲ付シ若シ其道路堤塘ノ費用ヲ區町村等ニ於テ負擔スルモノナルトキハ當該區町村會又ハ總代人會ノ意見ヲ聞キタル後本大臣ニ稟伺スヘシ

○同上處分方ニ關スル件

○土木局長通牒 明治三十三年七月三日 土甲第四九號ノ内

本日訓第七三七號ヲ以テ道路堤塘上ニ軌道布設ノ件ニ付訓令相成候處一時軌道ヲ假定スル場合又ハ單ニ道路堤塘ヲ橫斷スル場合ハ貴官限リ御處分相成可然儀ニ有之候又客年十月二十七日土甲第六三

號及本年一月十二日土甲第一號本官依命通牒ハ本訓令ニ依ル處分上御準據有之度依命此段及通牒候也

○官林内道路開鑿鐵道敷設ニ關スル件

○殖民、内務、鐵道部長ヨリ各支廳長へ通牒 明治三十四年四月十六日 殖林第三九八號

官廳起工ニ係ル道路開鑿又ハ鐵道敷設工事ニシテ其ノ官林内ヲ通過スル場合ニハ之カ開鑿又ハ敷設ニ著手スル以前ニ於テ主務部課ヨリ其實測圖ヲ添ヘ土地使用ノコト及ヒ之ニ存在セル樹木土石等ノ處分方ヲ當局部課(殖民部)ニ照會シ然ル後ニ起工ニ著手スル事又道路ニ在リテハ其ノ開鑿了レタルトキ鐵道ニ在リテハ線路確定後直ニ地目變換ノ手續了シ候事ニ今回長官御決裁相成候條爾今右様場合ニハ左ノ手續ニ依リ御取扱相成度

- 一 本廳直營工事ニ在リテハ道路敷地所在ノ伐倒木ハ悉皆土木課ニ於テ一定ノ極印ヲ押捺シ鐵道敷設地所在ノ伐倒木ハ悉皆鐵道部ニ於テ一定ノ極印ヲ押捺シ工事竣功ノ後直ニ之ヲ所轄支廳ニ引渡ス事
- 但シ該伐倒木ノ中ニ於テ相當手續ヲ經テ直接當該工事ニ使用シタルモノアルトキハ其殘伐倒木ノ引渡ヲ爲ス事
- 二 支廳ニ於テ施行スル土木工事ニ在テハ伐倒木ノ全部ニ(北)ノ極印ヲ押捺スル事
- 三 前二項ハ專ラ官林内起工ノ場合ヲ指定シタルモノナレト國有未開地内起工ノ場合ニ於テモ同

○道路使用願ハ警察署ノ意見ヲ具申スヘキ件

長官命ニ依リ此段及通牒候也

○殖民部長ヨリ札幌、小區長へ通牒 明治三十四年四月五日 殖拓第一八一六號

區費修繕ニ係ル道路使用許可處分方長官へ御稟請ノ際ハ所轄警察署長ノ意見ヲ聽キ其意見ノ要領ヲ具シ稟請相成度依命此段及通牒候也

○拓殖費支辨ニ屬スル道路敷地及樹木處分手續

○北海道廳訓第七十四號 明治三十六年 十二月三日 (明治三十九年五月十一日訓第三百七十八號ヲ以テ第五條第二項改正)

拓殖費支辨ニ屬スル道路敷地及樹木處分手續

- 第一條 道路線測量及工事施行ニ際シ道路敷地及樹木ニ關スル處分ハ此手續ニ據ルモノトス
- 第二條 道路敷地ノ幅員ハ道路標準規程ニ據ルモノトス
- 第三條 道路線測量ニ際シ故障樹木ノ伐採ハ豫メ土木部ヨリ經過スヘキ線路ヲ記入シタル五万分一ノ地形圖ヲ關係官廳又ハ部課へ送付シ處分ヲ經タル後着手シ作業中ハ左ノ各項ニ據ルヘシ
 - 一 伐採樹木ニハ必ス一定ノ極印ヲ押捺スヘシ
 - 二 官有森林原野ノ樹木ハ殖民部林務課派出所ニ引渡シ其他ハ各主管者又ハ所有者ニ引渡スヘシ
- 第四條 民有地及貸付地内ノ樹木ハ豫メ土木部測量員ヨリ所有者ノ承諾ヲ求メ又ハ貸付人ニ通達シタル後伐採スヘシ但樹木ナキ土地ニ立入測量スル場合モ之ニ準ス
- 第五條 道路敷地ハ工事施行前豫メ土木部ヨリ左ノ圖面及關係書類ヲ添ヘ支廳ニ照會シ處分ヲ了シタル上工事ニ着手スルモノトス
 - 但急施ヲ要スルモノニ付テハ承諾書徵收濟ノ分ニ限リ特ニ經伺ノ上直チニ工事ニ着手スルコトヲ得(明治三十九年五月十一日訓第三百七十八號ヲ以テ改正)
- 一 道路線ヲ明確ニ記入シタル地形圖(殖民區畫地ハ二万五千分一區畫地以外ハ五万分一地形圖)

二 道路敷巾界線ヲ記入シタル縮尺六百分一乃至三千分一平面圖竝ニ道路敷巾ヲ記載シタル調書
三 民有地及貸付地ハ一筆毎ニ其地目位置坪數所有者又ハ貸付ヲ受ケタル者ノ氏名ヲ記入シタル
前項縮尺ノ平面及承諾ノ有無ヲ詳記セル調書

殖民部取扱外ノ官有地ニアリテハ前各項ノ圖面ヲ添ヘ土木部ヨリ殖民部ニ移牒シ處分ヲ了シタル
上着手スルモノトス

第六條 支廳ハ前條第一項ノ通牒ヲ受ケタルトキハ速ニ左ノ手續ヲ了シ地種目變換方ノ上申ヲ爲ス
ヘシ

一 民有地ニアリテハ所有者若クハ代理人ヨリ登記承諾書ヲ徵シ登記ノ手續ヲ履行スルモノトス
二 貸付地ニアリテハ貸付ヲ受ケタルモノ若クハ代理人ヨリ無償返還ノ出願ヲナサシムルモノト
ス

第七條 各派出所ハ貸付地又ハ民有地ニシテ無償返還若クハ寄附ノ勸誘ニ應セサルトキハ詳細其理
由竝ニ要求金額及評價書ヲ添付シ土木部ニ進達シ指揮ヲ受クルモノトス

第八條 既設道路敷地中處分未濟ニ係ル潰地及樹木ニ關シテハ此手續ニ準シ處分スルモノトス
六年十二月十五日ヨリ施行

附 則
第六部ヨリ網走土木派出所へ回答 明治四十二年一月十七日 (網走土木派出所照會畧ス)
六甲第一四二號
客年十二月二十一日網走第一六六二號ヲ以テ道路敷地處分ニ要スル求積圖ノ件申出相成候處土地調
査心得ノ求積法ハ原則トシテ三斜法ニヨルヘキモノナルモ屈折迂曲ナクシテ一定ノ幅員ナル場合ニ

○道路敷地求積ニ關スル件

ハ中心ノ距離ニ幅員ヲ乘シ求積セラレ差支ナキ旨第五部トモ交渉濟ニ付右ニ了知相成度及回答候也

○同上ノ件

○第六部ヨリ網走土木派出所へ回答 明治四十二年二月一日 (網走土木派出所照會畧ス)
六甲第一四二號
客月二十二日付網走第一六六二號ヲ以テ道路敷地處分ニ要スル求積圖ノ件重テ照會相成了承右ハ假
令屈折迂曲アルモ一定ノ幅員ニシテ路線ニ支障ナク併行セル場合ハ中心ノ距離ニ幅員ヲ乘シ求積シ
差支無之即チ雛形圖ノ通ニ有之第五部トモ交渉濟ニ付右ニ了知相成度及回答候也

○道路敷地ニ關スル件

○本廳決議 明治四十二年九月四日決裁
防堤敷地ニ係ル道路敷地ノ地種組換方第六部ヨリ照會有之候場合ハ使用地ニ係ルモノニアラサルヤ
將實地支障ナキヤ支廳ヲシテ調査セシメ然ル後組換ノ御處分相成居候ヘ共道路敷地處分手續ニ依
レハ貸付地若クハ民有地ニ係ル分ハ第六部ヨリ支廳ヘ照會シ支廳ヨリ更ニ地種組換ノ上申可有之而シ
テ第六部ヨリ當部ニ直接照會シ來ルモノハ貸付地以外ノ分ニシテ此ノ貸付ナル文字ノ中ニハ堤防地
等ノ使用ヲモ包含セラル、モノト被認且ツ實地ハ主管ノ第六部ニ於テ道路トナスモ支障ナキヲ認メ
地種組換ヲ要求シ來ルモノニ有之候ヘハ更ニ支廳ヲシテ調査セシムル必要モ無之直ニ地種組換ヲナ
シ何等差支ナキ様被認候ニ付堤防敷地ノ分ハ今後支廳ニ照會セス直ニ處分ノコトニ御決定相成可然
哉此段相伺候也

○排水道路敷地地種組替ノ件

○第五部回答 明治四十三年二月十八日
拓第七六號
本月七日工發第二三號ヲ以テ排水道路敷地組替處分方ノ義ニ付御照會相成候處自今排水道路敷地ト

シテ組替ノ事ニ御決定相成候條此段及回答候也

○第六部ヨリ第五部へ照會 明治四十三年二月七日
工發 第二三號

從來排水道路敷地處分ニ關シ當部ヨリ地種組替方要求ノ場合ニハ溝渠ニ組替相成候向モ有之斯クテハ實地ニ適合セス穩當ナラサル嫌有之候條自今排水道路敷地トシテ地種目組替相成候様致度此段及照會候也

○土木事業執行規程

○北海道廳訓令第八十一號 明治四十三年
九月一日

土木事業執行規程

(抄録)

四 土地 處分

第八十三條 道路線測量及工事施行ニ際シ其ノ敷地及樹木等ニ關スル處分ハ本規程ニ依ルモノトス

第八十四條 道路線測量ニ著手セムトスルトキハ土木派出所長ハ豫メ地元區町村長又ハ戸長ニ通知スヘシ

第八十五條 道路敷地ノ幅員ハ道路種別及其ノ築造方法ノ標準ニ依ルモノトス

第八十六條 官有地(未開地及御料地ヲ含ム)内ニ於テ道路線ノ測量ヲ要スル場合ニ於テ其ノ土地カ他官廳ノ所管ニ屬スルトキハ土木派出所長ハ其ノ豫定線ヲ示シタル五万分ノ一地形圖ヲ添付シ左ノ事項ニ付當該官廳ノ承諾ヲ求ムヘシ

- 一 實測ノ爲必要ニ應シ豫定線及其ノ比較線ノ線路區域ニ立入ルコト
- 二 施業上支障アル樹木ハ隨時伐採スルコト但シ其ノ樹木ニ付テハ一定ノ極印ヲ押捺シ其ノ種類

及數量ヲ取調引渡ヲ爲スコト

三 樹木以外ノ障碍物ハ必要ニ應シ協議ノ上除却スルコト

本廳所管ニ屬スル官有地ニ在リテハ前項ノ例ニ依リ關係官署ニ對シ各必要ノ事項ヲ記シ通知ヲ爲スヘシ

第八十七條 民有地貸付地及使用地ニ立入り測量ヲ要スルトキハ前條第一項各號ノ事項ニ付測量員ヨリ豫メ權利者ノ承諾ヲ求ムヘシ

第八十八條 第八十六條第一項第三號ノ場合ニ於テ其ノ除却スヘキ物件カ工作物其ノ他特種物件ナルトキ若クハ多額ノ經費ヲ要スルトキハ障碍物ノ位置ヲ示シタル圖面ヲ添へ其ノ必要ナル事由、除却方法及費用等ヲ詳記シ土木部長ニ稟議スヘシ

第八十九條 道路線ノ測量ヲ了シタルトキハ引續キ測量員ニ於テ其ノ道路敷地ニ要スル潰地ニ關シ左ノ事項ヲ調査シ其ノ調査(第二十九號書式)及圖面(平面求積圖及地形圖)ヲ作成スヘシ

- 一 官有地、民有地又ハ貸付地、使用地ノ區分
 - 二 所管官廳名又ハ所有者、受貸付者並使用者ノ住所氏名
 - 三 每筆ノ地目、境界及地積
 - 四 潰地及殘地ノ境界及地積但シ官有地貸付地及使用地ノ殘地ニ付テハ此限ニ在ラス
 - 五 抵當權其ノ他該土地ニ付登記シタル權利ノ有無
 - 六 其ノ他敷地處分上特ニ必要アリト認ムル事項
- 前項ニ依リ作成スヘキ圖面ノ縮尺ハ六百分千二百分若クハ三千分ノ一トス但シ地積十方坪以上ノモノニ限り尺度五千分ノ一迄縮少スルコトヲ得

第九十條 前條ノ調査ヲ了シタルトキハ直ニ左ノ手續ヲ爲スヘシ

一 民有地ニ在リテハ所有者ヨリ左ノ書類ヲ徴シ分筆ノ手續ヲ爲シ其ノ寄附ニ係ルモノハ所轄支應ニ移牒シ許可ノ通牒アリタルトキハ遲滞ナク登記ノ手續ヲ爲スコト

(一)分筆届(第三十號書式)

(二)寄附願(第三十一號書式)又ハ賣渡承諾書(第三十二號書式)

(三)登記承諾書(第三十三號書式)

二 貸付又ハ使用地ニ在リテハ無償返還ノ願書(第三十四號書式)ヲ徴スルコト

三 他官廳所管ノ官有地ニ在リテハ左ノ圖面ヲ添ヘ土地ノ所管換又ハ使用ニ付當該官廳ノ承諾ヲ求ムルコト

(一)道路線ヲ明確ニ記入シタル地形圖(殖民區劃地ハ二万五千分ノ一區劃地以外ハ五万分ノ一)

(二)道路敷地ノ境界線ヲ記入シタル平面求積圖(縮尺ハ第八十九條第二項ノ例ニ準ス)

四 本廳所管ノ官有地ニ付テハ前號ノ圖面ヲ添ヘ關係官署ニ通知ヲ爲スコト但シ私人ニ對シ其ノ使用ヲ許可セル土地ニシテ無償返還ヲ承諾セサルモノアルトキハ其ノ必要ナル部分ニ付併セテ其ノ取消ヲ求ムルコトヲ要ス

前項第一號ノ場合ニ於テ抵當權其ノ他登記シタル權利アルトキハ併セテ其ノ權利者ヨリ權利抹消ニ關スル登記承諾書(第二十五號書式)ヲ徴スルコトヲ要ス

前二項ノ承諾書又ハ願書ヲ得ルコト能ハサルトキハ遲滞ナク其ノ事由ヲ詳記シ土木部長ニ稟議スヘシ但シ第一項第四號但書ノ場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラス

土木部長前項ノ稟議ヲ受ケタル場合ニ於テ返地命令若クハ收用ノ處分ヲ要スルトキハ遲滞ナク其ノ手續ヲ爲スヘシ

第九十一條 貸付地又ハ使用地ニ對シ無償返還ノ願書ヲ徴シタルトキハ該書面及圖面ヲ主務部又ハ所轄支應ニ回付シ返地ノ手續ヲ要求スヘシ

第九十二條 主務部又ハ所轄支應ニ於テ第九十條第一項第一號第四號及第九十一條ノ要求ヲ受ケタルトキハ直ニ其ノ處分ヲ了シ遲滞ナク其ノ結果ヲ土木部又ハ土木派出所長ニ通知スヘシ

第九十三條 工事施行ニ當リ其路線又ハ設計ヲ變更シタル爲新ニ敷地ヲ要スルトキハ其ノ部分ニ付遲滞ナク第八十六條乃至第九十二條ノ手續ヲ爲スヘシ

第九十四條 測量濟ノ敷地ニシテ線路又ハ設計ノ變更若ハ施行廢止等ノ爲不用トナリタルトキハ遲滞ナク主務部又ハ所轄支應ニ通知スヘシ

前項ノ通知ヲ受ケタルトキハ其ノ不用ト爲リタル部分ニ付主務部又ハ所轄支應ニ於テ左ノ手續ヲ爲スヘシ

一、解除條件ヲ付シタル寄附地ニ在リテハ登記抹消ノ手續ヲ爲スコト

二、買戻權ヲ留保シタル民有地ニ在リテハ元所有者ヨリ買戻ノ願書ヲ提出セシメ若ハ買戻權ヲ拋棄セシムルコト但シ民法第五百八十條ノ期間ヲ經過シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

三、他官廳所管ノ官有地ニ在リテハ其ノ所管換ヲ爲シタルモノ又ハ使用ノ承諾アリタルモノニ對シ返地ノ手續ヲ爲スコト

四、本廳所管ノ官有地ニ在リテハ關係官署ニ對シ返地ノ通知ヲ爲シ貸付地及使用地ニ在リテハ必要ニ應ジ返還ノ取消ヲ出願セシムルコト

前項第二號ノ場合ニ於テハ買戻又ハ拋棄アリタル後直ニ登記ヲ爲スコトヲ要ス

第九十五條 工事竣功シタルトキハ左ノ土地ニ付第八十九條ノ圖面ヲ添付シ地種目ノ變換ヲ所轄支應長ニ要求スヘシ

第三十一號書式

分 筆 届

何國何郡區町村大字何々

字何々何番地

△一畑貳反十步

△此地價(若ハ免租地) 金五圓六拾七錢

△印ハ朱書

此分筆

同上本番ノ壹

一 壹反九畝貳拾八步

此地價金五圓五拾六錢

同上本番ノ貳

一 拾貳步

此地價金拾壹錢

右分筆仕度ニ付別紙圖面相添へ此段及御届候也

明治 年 月 日

何國何郡何區町村大字何々

氏

名

印

何々稅務署長

稅務署屬

殿

備考

一、据置地反別ハ元反別ヨリ分筆ノ地總反別ヲ減シタル殘反別ヲ記載スルモノトス
二、分筆ニハ必ス三斜法ヲ用キ其ノ個所一以上ナル場合ハ便宜(一)(二)(三)等ノ符號ヲ付シ各別ニ其ノ坪數ヲ計算スルモノトス
第三十一號書式甲號

土地寄附願

何國何郡區町村大字何々

字何々番地

一 畑壹反步

此地價金何圓何拾錢

內何番地ノ壹

五畝步

据置地

何番地ノ貳

五畝步

道路敷地トシテ寄附ノ分

右ノ通令般(施行箇所ノ名稱記入ヲ要ス)道路敷地トシテ左ノ條件ヲ付シ寄附致度候間御許可被成
下度別紙圖面相添此段相願候也

明治 年 月 日

住

所

氏

名

印

北海道廳長官宛

記

- 一、工事施行ノ結果不用トナリタル箇所ニ付テハ、二十箇年以内ニ還付ヲ請フコト
- 二、起工ノ際伐採セラレタル樹木ハ引渡ヲ受タルコト

備考

一、本願ニ添付スヘキ(圖面ハ分筆届ニ添付ノ圖面ニ準シ作成スルモノトス)

二、(明治四十三年十二月二十四日訓令第四百十五號ヲ以テ削除)

第三十一號書式乙號

土地寄附願

(免租地ノ場合)

何國何郡區町村大字何々

字何々何番地

一 畑貳反拾步

明治二十二年法律第十八號ニ依リ自明治至同十年貳拾箇年除租又ハ明治四十一年四月法律第五十七號

ニ依リ自明治至同十年拾箇年免租

何番ノ壹(是レハ分筆濟ノ上記載スヘキモノ)

畑壹反九畝貳拾八步 据置 地

何番ノ貳

畑拾貳步

道路敷地トシテ寄附ノ分

(以下前記載例ニ依ル)

第三十二號書式

印紙

土地賣渡承諾書

何郡區何町村番地

一 地種目反別

此賣渡代金何程 但シ一坪ニ付金何程ノ割

右土地拙者所有ノ處今般道路敷地トシテ前記價格ヲ以テ賣渡ノ義異議無之候間左記事項ヲ併セ承諾仕候

- 一、前記土地ニ對シ故障相生シ候節ハ拙者ニ於テ處理可致候
- 二、前記土地ニ設定シアル凡テノ物權及賃貸借權ハ拙者ニ於テ之ヲ消滅シタル上御引渡可申候
- 三、所有權移轉ノ登記完了前ニ於テハ租稅其ノ他ノ公課ハ拙者ニ於テ負擔可致候
- 四、所有權移轉ニ關スル一切ノ手續ハ拙者ノ費用ヲ以テ處理可致候
- 五、賣渡代金ハ所有權移轉登記濟ノ上請求可致候
- 六、所有權移轉ノ手續前ニ工事施行相成候トモ異存無之候

右圖面壹葉添付承諾書提出仕候也

明治 年 月 日

住 所 (又ハ居所)

賣 渡 人 氏

名 印

北海道廳長官宛

第三十三號書式

登記承諾書

何國何郡區町村大字何々

字何々何番ノ貳

一 畑

明治四十年 月 日 北海道廳

右所有權移轉登記ノ義承諾候也

號道路敷地寄附許可ノ分

明治四十年 月 日

住 所 氏

名 印

第三十四號書式甲號

貸付地返還願

何國何郡何村字何々何番

一 貸付地何町何反何畝歩

畑目的

但明治何年何月何日指令第 號ヲ以テ許可ノ分

右土地北海道國有未開地處分法第三條ニ依リ貸付相成候處今般道路開鑿工事御施行ノ線路ニ當リ同敷地トシテ無償返還致度候尤モ本地ハ未タ何等ノ着手不致候此段相願候也

明治 年 月 日

住 所 (又ハ居所) 氏

名 印

北海道廳長官(又ハ支廳長)殿

第三十四號書式乙號

使用地返還願

何國何郡何村字何々何番

一 官有地何町何反何畝何歩

何目的

但明治何年何月何日指令第 號ヲ以テ許可ノ分

右土地使用許可相成居候處今般道路開鑿工事御施行ノ線路ニ當リ無償返地致度此段相願候也

明治 年 月 日

住 所 (又ハ居所) 氏

名 印

北海道廳長官(又ハ支廳長)殿

第三十五號書式

登記承諾書

何國何郡區何町村番地

一 地種目 反 別

右ハ何郡區何町村番地何某ノ所有地ニシテ今般道路敷地トシテ寄附ノ爲分割ヲ爲シ竝ニ分割ヲ爲シタル何番ノ二(又ハ三)ニ對スル抵當權消滅ノ登記承諾致候也

明治 年 月 日

住 所 (又ハ居所) 氏

抵當權利者 氏

名 印

北海道廳長官宛

○道路敷地ニ充用スヘキ貸付地部分返還ニ關スル件

○訓第九百八十一號

明治四十三年 十月 八日

土木事業執行規程第九十二條ノ處分ヲナスニ當リ貸付地部分返還ノ場合ニハ主務部又ハ所轄支廳ニ於テ左ノ手續ヲ爲スヘシ

- 一、土木事業執行規程第九十一條ニ依リ貸付地部分返還願ノ送付ヲ受ケタルトキハ直ニ許可ノ手續ヲナシ指令書ヲ本人ニ交付スヘシ
- 二、起業方法書ハ更ニ本人ヨリ提出セシメ貸付臺帳ヲ更正スヘシ

○土木事業執行規程中取扱方ノ件

○土木部長ヨリ土木派出所長 石狩川治水事務所長 築港事務所長明治四十三年十月十四日 通達 土工第二六三六號

土木事業執行規程中取扱方左記ノ通り了知有之度此段及通達候也

記

- 一、規程第九十條第一項第二號ニ依リ徵收スヘキ貸付地返還ノ願書ハ其部分返還ニ係ル場合ニハ返還地ト殘存地トヲ區分シ返還スヘキ區域中ニ着手又ハ成功シタル個所アルトキ之ヲ區別スルヲ要ス此場合ニハ測量ノ際所轄支廳備付ノ貸付圖ニ依ルヘキハ勿論ナルモ併セテ貸付臺帳ニ照合スルヲ要ス
- 一、部分返還願ニハ明治四十一年六月二十四日北海道廳令第六十四號國有未開地處分法施行細則書式第一號ノ七ニ倣ヒ圖面ヲ添付スヘキコト勿論トス
- 一、測量濟ノ敷地ニシテ路線又ハ設計變更若クハ施行廢止等ノ爲メ不用トナリタルトキハ直ニ其旨主務部ニ通知スヘシ
- 一、但新ニ敷地ヲ要スルモノノ外圖面添付ヲ要セス
- 一、工事施行ニ就テハ規程第九十九條ノ要件ヲ具備スヘキハ勿論民有地ニ在リテハ第九十條ニ依

リ測量後直ニ登記ヲ爲シ起工上支障ナカラシムルコトヲ要ス

(規程第五百五十八條參照)

- 一、民有地ニシテ寄附ニ係ルモノハ官有地成ノ登記完了次第直ニ明治四十一年三月三十日當省訓令第廿二號別紙様式ニ依リ其都度主務部長ヘ報告スルコトヲ要ス(別紙様式添付)
- 一、前項寄附ニ係ル民有地ニ付テハ所長ニ於テ豫メ一定ノ評價委員三名(事業手ハ取扱主任一名ニ限ル)ヲ選任シ其價格ヲ評價セシムヘシ
- 一、但シ評價委員ノ氏名ハ選任ノ都度當部ニ報告スルヲ要ス
- 一、評價ノ標準左ノ如シ
 - 民有地ニ對シテハ附近類似地ノ賣買實例(年月日人名坪數價格)ヲ掲ケ之ヲ參酌シ評定スルコト賣買實例ナキトキハ類似地ノ賃貸料又ハ小作料ト土地ノ價格ヲ算定スルコト(此場合ニモ賃貸借年月日人名坪數料金ヲ掲記スルコト)
- 一、路線ノ撰定ニ當リテハ特ニ敷地ノ撰定ニ注意ヲ要ス
 - (イ) 敷地ノ撰定ニ就テハ民有地貸付地(成功地)ハ幾分ノ勞力ト費用トヲ要セシモノナレハ出來得ル限り之ヲ避ケ一面煩雜ナル手數ヲ省クコトニ努メラレタシ
 - (ロ) 他官廳所管ノ土地ニ對シテハ其官廳ノ事業經營上不利ヲ來スカ若クハ支障ナキ様最モ撰定ニ留意シ敷地ノ關係上設計變更ナカラシメンコトヲ期スヘシ

以上

様式

土地	寄附	登記	族籍	位記	氏	名	摘	要
所在地	目	年月日	學位	官職				
地番	地目	反別	單價	價格				

備考 摘要欄ニハ起工年度道路種別並ニ道路名ヲ記入スルヲ要ス

○道路敷地處理方ノ件

○殖民部長ヨリ各支廳長へ通牒 明治三十八年一月九日 殖拓第五三一號
殖民區畫地及市街豫定地トシテ當廳ニ於テ告示相成候モノハ其區畫内ニ施設シタル路線ハ既ニ道路敷地ト決定相成候ニ付別段地目變換ノ訓令不相成義ニ候處往々誤解ノ向モ有之候ニ付此段及通牒候也

追テ市街地豫定地ニシテ三十二年二月以前ニ於テ支廳長限リ告示相成候モノモ有之候ハ、本文同様ニ付此際其圖面ヲ取纏メ告示寫ヲ添へ御送付相成度是等ノ事實無之トキハ其旨申報有之度候

○土木事業執行規程改正ニ關スル件

○土木部長ヨリ各支廳長へ通牒 明治四十五年八月五日 各土木派出所長へ通牒 土工第一六一號
本月十一日廳令第八十七號ヲ以テ民有地寄付受納及地種目變換ニ關スル件ハ支廳長へ委任相成候ニ付テハ自然土木事業執行規程ヲモ改正可相成儀ニ候得共該改正ノ發表ニ至ルマテノ間ハ同現程第九十條第一項第一號第九十一條第九十二條第九十四條第九十五條第一項及第九十六條ニ依リ本廳又ハ主務部ニ於テ行フヘキ手續ハ支廳長ニ於テ又土木派出所長カ本廳又ハ主務部ニ對シテ爲スヘキ手續ハ支廳長ニ對シテ爲スヘキ義ト承知相成度此段及通牒候也

○公共用地又ハ共有地ヲ道路敷地ニ地種組替ノ件

○土木部長ヨリ釧路支廳長へ回答 大正元年八月十五日 土工第四四號
本月二十四日釧路第一四六號ヲ以テ道路敷地處分ニ關シ御照會有之候處右ハ去ル三十三年十一月二十七日殖拓第七〇八七號殖民部長通牒及ヒ三十八年八月二十六日五地第一三四八號第五部長通牒ノ次第モ有之候ニ付テハ之カ道路敷地トシテ處分スルニ當リテモ先以テ長官ノ指揮ヲ受ケ然ル後處理相成ルヘキ義ニ候條此段及回答候也

○公共用地又ハ共有地ヲ道路敷地ニ地種組替ノ件

○土木部長ヨリ各支廳長(除釧路)へ通牒 大正元年八月十五日 土工第四四號
別紙釧路支廳長ノ照會ニ對シ回答致置候條了知相成度爲念此段及通牒候也

釧路第一四六號

道路敷地處分ニ關スル件

本月十六日土工第二二九四號ヲ以テ道路敷地處分ニ關スル件ニ付御通牒ノ次第モ有之候處殖民區畫地内ニ設定セラレタル公共用豫定地又ハ共有豫定地ノ一部ヲ道路敷地トシテ地種目變換ノ場合ハ右豫定地解除ノ御指揮ヲ受ケ處理スヘキ義ニ有之候哉何分ノ御回報相煩シ度此段及照會候也
明治四十五年七月二十四日

釧路支廳長 前 田 正 義

土木部長事務官西村保吉殿

土工第四四號

道路敷地處分ニ關スル件

(釧路支廳長へ回答ノ通り)

○道路潰地圖書送附ノ際豫定道路控除ノ件

○拓殖部長ヨリ各支廳長へ通牒 明治四十五年三月十九日 拓殖第三五五號
 土木事業執行規程第九十條第一項第四號ニ依リ土木派出所ヨリ灌地調書及圖面送付アリタルトキハ其時々圖書回送可致候條其路線ニ該當スル部分ハ他日土地處分ニ際シ豫定道路敷地トシテ之ヲ除地シ置キ道路開鑿上支障ヲ生スルコトナキ様御取扱相成度爲念此段及通牒候也

○私費工事許可ノ場合敷地確定ノ件

○拓殖部長ヨリ土木部長ニ照會 大正二年十一月二十六日 殖第一〇一三三號
 土木工事取締規則ニ依リ民有地内ニ於ケル私費工事ヲ許可セラル、場合ニ於テ該敷地ヲ將來國有ニ屬セシムルノ必要アルモノニ對シテハ豫メ所有權移轉並ニ登記ノ手續ヲ完了セシメ後日支障ヲ來サ、ル様取扱相成候様致度此段特ニ申進候也
 追而本件ニ關スル御意見及御處置ノ大要御回報ヲ得度申添候也

○土木部長ヨリ拓殖部長ニ回答 大正二年十二月十五日 庶丙 第四〇五二號

客月二十六日付殖第一〇一三號ヲ以テ民有地内ニ於ケル私費工事施行許可ノ場合敷地確定方ノ件ニ關シ御申越相成候處追書御照會ノ廉ニ關シテハ左記ノ通ニ有之候條御了知相成度此段及回答候也

記

一民有地内ニ於ケル私費工事施行許可ノ場合將來該工事ノ敷地ヲ國有ト爲スノ必要アルモノニ對シ許可前豫メ所有權移轉並ニ登記ヲ完了スルコトハ許可後ニ於テ工事ノ變更其他許可ノ失効等敷地ニ關シ著シキ變動ヲ生スルコトナキヲ保セサルヲ以テ工事竣功後之ヲ爲サシムルコト、シ該工事施行ノ許可ニ際シテハ敷地ニ關シ後日支障ヲ來サ、ル様調査ヲ遂クルコト從前ノ通取扱度候而シテ既ニ工事ノ施行ヲ許可セシモノニシテ敷地ニ關スル手續未済ノモノ若シ有之ニ於テハ此際相當

處理ノ見込ニ有之候

○運 河

○運 河 法

○法律第十六號 大正二年 四月八日

運 河 法

第一條 一般運送ノ用ニ供スル目的ヲ以テ運河ヲ開設セムトスル者ハ内務大臣ノ免許ヲ受クヘシ
 第二條 免許ヲ受ケタル者ハ内務大臣ノ指定シタル期限内ニ工事設計ノ認可ヲ地方長官ニ申請スヘシ
 第三條 國、公共團體又ハ行政廳ノ許可ヲ受ケタル者ニ於テ運河ニ接續若ハ接近シ又ハ之ヲ橫斷シテ河川、溝渠、道路、橋梁、鐵道、軌道其ノ他公共ノ用ニ供スルモノヲ造設スルモ免許ヲ受ケタル者ハ運河ノ効用ニ妨ナキ限り之ヲ拒ムコトヲ得ス
 前項ノ場合ニ於テ内務大臣又ハ地方長官ハ公益上必要ト認ムルトキハ免許ヲ受ケタル者ニ命シ接續シ橫斷ノ場所ニ於ケル設備ヲ共用ニ供セシメ又ハ之ヲ變更セシムルコトヲ得
 第四條 前條第一項ノ場合ニ於テ運河ノ効用ニ妨アリヤ否ニ付爭アルトキ又ハ同條第二項ノ場合ニ於テ設備ノ共用若ハ變更ニ要スル費用ノ負擔ニ付協議調ハサルトキハ地方長官之ヲ決定ス其決定ニ不服アル者ハ内務大臣ニ訴願スルコトヲ得
 第五條 工事カ其ノ設計又ハ免許、許可若ハ認可ノ條件ニ違反スルトキハ地方長官ハ其ノ改築除却又ハ停止ヲ命スルコトヲ得
 第六條 工事ノ全部又ハ一部竣功シ運送ヲ開始セムトスルトキハ地方長官ノ許可ヲ受クヘシ

第七條 免許ヲ受ケタル者ハ通航料其ノ他運河使用ニ關スル規程ヲ定メ地方長官ノ認可ヲ受クハシ
地方長官ニ於テ公益上必要ト認ムルトキハ前項ノ規程ノ變更ヲ命スルコトヲ得

第八條 内務大臣又ハ地方長官ハ免許ヲ受ケタル者ヨリ事業ノ報告ヲ徴シ又ハ其ノ狀況ヲ検査スル
コトヲ得

第九條 内務大臣又ハ地方長官ハ免許ヲ受ケタル者ニ對シ運河及附屬物件ノ維持修繕ヲ命シ其ノ他
公益上必要ナル處分ヲ爲スコトヲ得

第十條 運河及附屬物件ハ免許ノ効力存續スル間及其ノ効力消滅後一年間ハ内務大臣ノ許可ヲ受ク
ルニ非サレハ之ヲ讓渡シ又ハ擔保ニ供スルコトヲ得ス

第十一條 株式會社又ハ株式合資會社カ事業經營者タル場合ニ於テハ株式ノ第一回拂込金額ハ株金
ノ十分ノ一迄下ルコトヲ得

第十二條 左ニ掲クルモノヲ以テ運河用地トス
一 水路用地及運河ニ屬スル道路、橋梁、堤防、護岸、物揚場、繫船場ノ築設ニ要スル土地

二 運河用通信、信號ニ要スル土地

三 上屋、倉庫等ノ建設スル土地

四 運河ニ要スル船舶、器具、機械ヲ修理製作スル工場ノ建設ニ要スル土地

五 職務上常住ヲ要スル運河從事員ノ舍宅及從事員ノ駐在所等ノ建設ニ要スル土地

前項第三號乃至第五號ニ掲クル土地ハ運河ニ沿ヒタルモノニ限ル

第十三條 明治四十二年法律第二十八號ハ運河ノ抵當ニ之ヲ準用ス

第十四條 運河財團ハ左ニ掲クルモノニシテ運河財團ノ所有者ニ屬スルモノヲ以テ之ヲ組成ス
一 水路其ノ他ノ運河用地及其ノ上ニ存スル工作物並之ニ屬スル器具機械

二 工場、上屋、倉庫、事務所、舍宅及其ノ敷地並之ニ屬スル器具機械

三 運河用通信、信號ニ要スル工作物及其ノ敷地並之ニ屬スル器具機械

四 前三號ニ掲クル工作物ヲ所有シ又ハ使用スル爲他人ノ不動産ノ上ニ存スル地上權登記シタル
賃借權及前三號ニ掲クル土地ノ爲ニ存スル地役權

五 運河ニ要スル船舶並之ニ屬スル器具、機械

六 運河ノ維持修繕ニ要スル材料及器具、機械

第十五條 國又ハ公共團體ハ免許ノ効力消滅シタル後運河開設ニ要シタル費用ヲ支拂ヒ其ノ運河及
附屬物件ニシテ開設當時ニ比シ價格ヲ減損シタルモノアルトキハ開設ニ要シタル費用ヨリ之ヲ控
除ス

前項費用ノ範圍及金額ニ付協議調ハサルトキハ地方長官之ヲ決定ス其ノ決定ニ不服アル者ハ内務
大臣ニ訴願スルコトヲ得

第十六條 國又ハ公共團體ニ於テ必要ト認ムルトキハ免許年限ノ滿了前ト雖運河及附屬物件ヲ買收
スルコトヲ得

前項ノ買收價格ニ付協議調ハサルトキハ鑑定人ノ意見ヲ徴シ地方長官之ヲ決定ス其ノ決定ニ不服
アルモノハ内務大臣ニ訴願スルコトヲ得

第十七條 左ニ掲クル場合ニ於テハ免許ヲ取消スコトヲ得
一 法令又ハ法令ニ基キテ爲ス處分ニ違反シタルトキ

二 免許許可若ハ認可ノ條件ニ違反シタルトキ

第十八條 工事竣功前免許ノ効力消滅シタル場合ニ於テハ地方長官ハ免許ヲ受ケタル者ニ對シ原狀
ノ回復其ノ他必要ナル措置ヲ命スルコトヲ得

第十九條 前二條ノ場合ニ於テ同一線路ニ當リ運河ノ開設ヲ免許セラレタル者ハ運河及附屬物件ヲ買收スルコトヲ得
前項ノ買收價格ニ付協議調ハサルトキハ第十六條第二項ノ規定ニ依ル
本條ノ規定ハ運河財團ニ屬スルモノニハ之ヲ適用セス

附 則

第二十條 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十二條 本法施行前免許ヲ受ケタル運河ニ關シ本法ヲ適用スヘキ範圍ハ内務大臣之ヲ定ム

○電 氣

○電 氣 事 業 法

○法律第五十五號

明治四十四年
三月二十九日

第一條 本法ニ於テ電氣事業ト稱スルハ左ニ掲クルモノヲ謂フ

- 一、一般ノ需用ニ應ジ電氣ヲ供給スル事業
- 二、一般運送ノ用ニ供スル鐵道又ハ軌道ノ動力ニ電氣ヲ使用スル事業

第二條 本法ニ於テ電氣工作物ト稱スルハ電氣ノ供給又ハ使用ノ爲施設スル水路、貯水池、器具機械電線路及其ノ他ノ工作物ニシテ電氣事業ノ用ニ供スルモノヲ謂フ

前項ニ於テ電線路ト稱スルハ電氣ノ傳送ニ用キル電氣導体及之ヲ支持シ又ハ保藏スル工作物ヲ謂フ

第三條 電氣事業ヲ營マムトスル者ハ勅令ニ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外主務大臣ノ許可ヲ受ク

ヘシ

第四條 電氣事業者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ行政官廳ノ認可ヲ受ケタル後ニ非サレハ工事ニ着手シ又ハ電氣工作物ノ使用ヲ爲スコトヲ得ス

第五條 電氣事業者ハ主務大臣ノ指定スル期間内ニ其ノ事業ヲ開始スヘシ
主務大臣ハ正當ノ事由アリト認ムル場合ニ限り前項期間ノ伸長ヲ許可スルコトヲ得

第六條 主務大臣ハ公益上必要ナリト認メタルトキハ電氣事業者ニ對シ料金ノ制限其ノ他電氣供給ノ條件ニ關シ必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得

第七條 電氣事業者ハ電氣工作物ノ施行ニ關スル測量又ハ工事ノ爲必要アルトキハ他人ノ土地ニ立入ルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ豫メ行政官廳ノ許可ヲ受ケ且少クトモ五日前ニ市町村長ニ通知シ

市町村長ハ之ヲ告示シ又ハ其ノ旨土地ノ占有者ニ通知スヘシ

電氣事業者ハ電氣工作物ノ修理又ハ巡視ノ爲必要アルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ工作物ヲ施設セル他人ノ土地又ハ建造物ニ立入ルコトヲ得但シ日没ヨリ日出迄ノ間ニ於テハ危險急迫ノ場合ニ非サレハ占有者ノ意ニ反シテ邸宅其ノ他建造物ニ立入ルコトヲ得ス

第八條 電氣事業者ハ電線路ノ施設及保守ニ障害ヲ及スヘキ竹木其ノ他ノ植物ヲ伐除又ハ移植スルノ要アル場合ニ於テ其ノ所有者ト協議調ハス又ハ協議ヲ爲スコト能ハサルハ行政官廳ノ許可ヲ受ケ之ヲ伐除シ又ハ移植スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ電氣事業者ハ豫メ其ノ旨所有者ニ通知スヘシ

危險急迫ノ場合ニ於テハ電氣事業者ハ前項ノ規定ニ拘ラス直ニ竹木其ノ他ノ植物ヲ伐除又ハ移植スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ遲滞ナク其旨行政官廳ニ届出テ且其ノ所有者ニ之ヲ通知スヘシ

第九條 電氣事業者ハ河川橋梁、溝渠、道路、堤防其ノ他公共ノ用ニ供セラレタル土地ノ地上又ハ地中ニ電線路ヲ施設スル必要アルトキハ其ノ効用ヲ妨ケサル限度ニ於テ管理者ノ許可ヲ受ケテ之ヲ使用スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ電氣事業者ハ管理者ノ定ムル所ニ依リ使用料ヲ納ムヘシ
管理者タル地方行政廳ニ於テ正當ノ事由ナクシテ第一項ノ許可ヲ拒ミタルトキ又ハ管理者ノ定メタル使用料ノ額ヲ不相當ナリトスルトキハ主務大臣ハ電氣事業者ノ申請ニ依リ使用ヲ許可シ又ハ使用料ノ額ヲ定ムルコトヲ得

第十條 電氣事業者ハ必要アルトキハ現在ノ使用方法ヲ妨ケサル限度ニ於テ他人ノ地上ノ空間若ハ地中ニ電線路ヲ施設シ又ハ建造物ノ存在セサル他人ノ土地ニ電線ノ支持物ヲ建設スルコトヲ得
電氣事業者前項ノ規定ニ依リ他人ノ土地ヲ使用セムトスル場合ニ於テ其ノ所有者及占有者ト協議調ハス又ハ協議ヲ爲スコト能ハサルハ其ノ使用ノ範圍ヲ定メ豫メ地方長官ノ許可ヲ受ケテ其ノ工事ニ著手スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ少クトモ五日前ニ其ノ旨土地ノ所有者及占有者ニ通知スヘシ

第十一條 電線路ヲ施設シタル土地ノ近接地又ハ前條ニ依リ電線路ヲ施設シタル土地ノ所有者又ハ占有者ハ土地ノ使用方法ヲ變更スル爲必要アルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ電氣事業者ニ對シ障害ノ豫防又ハ除却ニ必要ナル方法ヲ施スコトヲ請求スルコトヲ得

前項ノ工事ニ要スル費用ハ電氣事業者ノ負擔トス但シ其ノ工事ヲ爲シタル後正當ノ理由ナクシテ豫定ノ變更ヲ爲サルトキハ請求者ノ負擔トス

第十二條 第七條、第八條及第十條ノ場合ニ於テ現ニ生シタル損失ハ電氣事業者之ヲ補償スヘシ
前項ノ補償金額ハ許可ヲ爲シタル行政官廳ニ於テ之ヲ裁定ス裁定ニ不服アル者ハ其ノ通知ヲ受ケ

タル日ヨリ三月内ニ通常裁判所ニ出訴スルコトヲ得
行政官廳ハ必要ト認ムルトキハ電氣事業者ヲシテ損失ノ補償ニ充ツヘキ金額ヲ供托セシムルコトヲ得

第十三條 電氣事業者ハ地中電氣工作物ヲ施設スル場合ニ於テ他人ニ屬スル地中電氣工作物ノ位置ヲ變更スル必要アルトキハ當該工作物ノ効用ヲ妨ケサル限度ニ於テ其ノ位置ヲ變更シ又ハ其ノ工作物ノ所有者ヲシテ其ノ變更ヲ爲サシムルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ主務大臣ノ許可ヲ受クヘシ

第十四條 主務大臣ハ工事に己ムヲ得スト認メタル箇所ニ限り電氣事業者ニ對シ電線路ノ共用ヲ命スルコトヲ得

第十五條 電氣工作物相互間及電氣工作物ト其ノ他ノ工作物トノ間ニ於ケル障害ヲ防止スル爲必要ナル施設ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十六條 前三條ニ依ル工事ニ關スル費用ノ負擔其ノ他ノ條件ハ命令ヲ以テ定ムルモノ、外當事者間ノ協議ニ依ル協議調ハサルトキハ主務大臣之ヲ裁定ス

第十七條 第一條ニ掲クルモノ、外電氣ヲ供給又ハ使用スル事業ニ關シテハ勅令ノ定ムル所ニ依リ本法ノ規定ヲ準用スルコトヲ得

第十八條 電氣工作物ヲ損壞シ之ニ物品ヲ接觸シ又ハ其ノ他ノ方法ヲ以テ電氣ノ供給又ハ使用ヲ妨害シタル者ハ五年以下ノ懲役又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス
第十九條 電氣事業者ノ承諾ヲ得スシテ濫ニ電氣工作物ノ施設ヲ變更シタル者ハ二百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第二十條 本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ依リ許可又ハ認可ヲ受ケテ爲スヘキ行爲ヲ許可又ハ認可ヲ受ケケスシテ爲シタル者又ハ第六條ニ依ル命令ニ違反シタル者ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十一條 電氣事業者ハ其ノ代理人、戶主、家族、雇人其ノ他ノ從業者ニシテ其ノ業務ニ關シ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ違反シタルトキハ自己ノ指揮ニ出テサルノ故ヲ以テ其ノ處罰ヲ免ル、コトヲ得ス

第二十二條 明治三十三年法律第五十二號ハ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ依ル犯罪ニ之ヲ準用ス

附 則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

本法施行ノ際現ニ電氣事業ヲ營ム者又ハ本法施行前ニ於テ電氣事業經營ノ許可ヲ受ケタル者ハ第三條ニ依リ許可ヲ受ケタル者ト看做ス

○電氣事業法第九條ニ依ル使用許可ニ關スル件

○内務次官ヨリ長官へ通牒 明治四十四年十月七日
内務省土第二四五三號

本年九月廿八日遞信省令第二十九號電氣事業法第九條ニ依ル使用許可並使用料決定申請規則第二條ノ申請書ハ正副二通ヲ提出セシメ意見ヲ詳具シ内務大臣へ進達相成度依命此段及通牒候也

○電柱建設ノ際通知方ノ件

○土木部長ヨリ各支廳長へ通牒 明治四十四年八月十二日
土庶第一六三三號

遞信省ニ於テ電氣線電話線建設ノ爲メ道路ヲ使用スル場合ハ其ノ都度同省技術官ヨリ貴廳(貴役所)ノ立會ヲ求ムルコト、相成候條立會ニ際シテハ建設ノ位置ニ付充分注意ヲ加ヘ道路利用ノ幅員ヲ減

シ行通上支障ヲ生スルカ如キ箇所無之様取計ハレ度依命此段及通牒候也

追テ本文ノ通立會ヲ了シ候場合ハ電柱建設箇所ノ道路ノ種類及其ノ幅員並電柱位置ノ道路線ヨリノ距離ヲ表示シ其都度御報告相成度此段申添候也

○長官ヨリ札幌遞信管理局長へ照會 明治四十四年八月十二日
土庶第一六三三號

電氣線電話線建設ノ爲官有ノ土地又ハ營造物ヲ使用スル場合通知方ノ件本年六月一日土庶第一六三三號照會ニ對シ客月三十一日付工線第二六九號ヲ以テ御回答相成候處追書御申越ノ義ニ付テハ支廳管内ノ分ニ對シテハ支廳ノ立會ヲ求メ區内ニ屬スル分ニ對シテハ區役所ノ立會ヲ求メラレ候様致度此段及御照會候也

○札幌遞信管理局長ヨリ長官へ回答 明治四十四年七月三十一日
工線第二六九號

右御照會ノ件ニ付テハ從來工事施行ニ際シ其區域ヲ擔當スル各地駐在當局技術官ヨリ所轄支廳へ其都度通知セシメ處理シ來リタルモ自今尙當局ヨリ直接貴廳へ可及御通知候條御了知相成度

追テ追書御申越ノ道路ノ分ニ對シテハ從來ノ通り建設前所轄支廳吏員ノ立會ヲ求メ處理スルコトニ致度

○長官ヨリ札幌遞信管理局長へ照會 明治四十四年六月一日
土庶第一六三三號

貴局ニ於テ電氣線電話線建設ノ爲官有ノ土地又ハ營造物ヲ使用セラル、場合ハ明治二十三年八月法律第五十八號ニ依リ其所管應ニ御通知可相成義ト被思料候處從來當廳所管ノ土地ニ對シテハ嘗テ御通知無之道路ノ如キハ電柱ノ建設ニ由リ利用上影響ヲ被ルコト往々有之ニ付テハ爾今右ノ場合ニ於テハ總テ御通知相成候様致度此段及御照會候也

追テ本文ノ通御取計相成候ニ於テハ道路ノ分ニ對シテハ特ニ道路ノ幅及電柱建設位置ノ道路線ヨ

リ距離ヲ御明記相成度右申副候也

第十五類

○河 川

○河 川 法

○法律第七十一號 明治二十九年
四月七日

河川法

第一章 總則

第二章 河川ノ管理

第三章 河川ノ使用ニ關スル制限並警察

第四章 河川ニ關スル費用ノ負擔、土地所有者ノ權利義務並河川ノ管理ヨリ生スル收入等

第五章 監督及強制手續

第六章 訴願及訴訟

第七章 附則

河 川 法

第一章 總 則

第一條 此ノ法律ニ於テ河川ト稱スルハ主務大臣ニ於テ公共ノ利害ニ重大ノ關係アリト認定シタル河川ヲ謂フ

第二條 河川ノ區域ハ地方行政廳ノ認定スル所ニ依ル

流水河川ノ區域外ニ出テテ永期ニ渉ルヘキモノト認ムルトキハ地方行政廳ハ其河川ノ區域ヲ變更

スヘシ

第三條 河川並其敷地若ハ流水ハ私權ノ目的トナルコトヲ得ス

第四條 地方行政廳ニ於テ河川ノ支川若ハ派川ト認定シタルモノハ命令ヲ以テ特別ノ規程ヲ設ケタル場合ヲ除ク外總テ河川ニ關スル規定ニ從フ

堤防、護岸、水制、河津、曳船道其ノ他流水ニ因リテ生スル公利ヲ増進シ又ハ公害ヲ除却若ハ輕減スル爲ニ設ケタルモノニシテ地方行政廳ニ於テ河川ノ附屬物ト認定シタルモノハ命令ヲ以テ特別ノ規程ヲ設ケタル場合ヲ除ク外總テ河川ニ關スル規程ニ從フ

第五條 此ノ法律ニ規定シタル事項ハ命令ノ定ムル所ニ從ヒ河川ニ流入シ若ハ河川ヨリ分岐スル水流若ハ水面又ハ第一條ノ認定ヲ受ケサル河川ニ準用スルコトヲ得

第二章 河川ノ管理

第六條 河川ハ地方行政廳ニ於テ其ノ管内ニ係ル部分ヲ管理スヘシ但シ他府縣ノ利益ヲ保全スル爲ニ必要ト認ムルトキハ主務大臣ニ於テ代テ之ヲ管理シ又ハ其ノ維持修繕ヲナスコトヲ得

第七條 地方行政廳ニ關スル工事ヲ施行シ其ノ維持ヲナスノ義務アルモノトス但シ第四十三條ニ依リ通航料徴收ノ許可ヲ得タル者ヲシテ其ノ義務ノ一部ヲ負擔セシムルコトヲ妨ケス

第八條 河川ニ關スル工事ニシテ利害ノ關係スル所一府縣ノ區域ニ止マラサルトキ又ハ其ノ工事至難ナルトキ若ハ其ノ工費至大ナルトキ又ハ河川ノ全部若ハ一部ニ付キ大體ニ渉ル一定ノ計畫ニ基キテ施行スル改良工事ナルトキハ主務大臣ハ自ら其ノ工事ヲ施行シ又ハ其ノ工事ニ因リ特ニ利益ヲ受タル公共團體ノ行政廳ニ命シテ之ヲ施行セシムルコトヲ得
前項ノ場合ニ於テハ主務大臣ハ此ノ法律ニ依リテ地方行政廳ノ有スル職權ヲ直接施行スルコトヲ得

第九條 地方行政廳ハ命令ノ定ムル所ニ從ヒ其ノ管内ノ下級行政廳ヲシテ河川ニ關スル工事ノ一部ヲ施行セシメ又ハ其維持ヲナサシムルコトヲ得

第十條 河川ノ附屬物ニシテ兼テ他ノ工作物ノ效用ヲナスモノアルトキハ地方行政廳ハ其工作物ノ管理者ヲシテ其ノ附屬物ニ關スル工事ヲ施行シ又ハ其ノ維持ヲナサシムルコトヲ得

他ノ工作物ニシテ兼テ河川ノ附屬物ノ效用ヲナスモノアルトキハ地方行政廳ニ於テ其ノ工作物ニ關スル工事ヲ施行シ又ハ其ノ維持ヲナスコトヲ得

第十一條 他ノ工事ニ因リ河川ニ關スル必要ヲ生シタルトキハ地方行政廳ハ其ノ工事ノ施行者ヲシテ河川ニ關スル工事ヲ施行セシムルコトヲ得

河川ニ關スル工事ニ因リ必要ヲ生シタル他ノ工事又ハ河川ニ關スル工事ヲ施行スル爲ニ必要ナル他ノ工事ハ地方行政廳ニ於テ併セテ之ヲ施行スルコトヲ得

第十二條 行政廳ハ河川ニ關スル工事ノ請負ヲナスコトヲ得ス

第十三條 河川ニ關スル工事ノ請負ノ制限ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十四條 地方行政廳ハ其ノ管理ニ屬スル河川ノ臺帳ヲ調製シ主務大臣ノ認可ヲ受クヘシ
臺帳ノ調製、保管、記載事項等ニ關スル規程ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

主務大臣ノ認可ヲ經タル臺帳ニ記載セル事項ニ關シテハ反對ノ立證ヲ許サス但シ臺帳調製後其ノ事實ノ變更シタルコトヲ證スルヲ妨ケス

第十五條 地方行政廳ニ於テ河川管理ノ爲特ニ吏員ヲ置クコトヲ要スルトキハ其ノ定員、給料、手當、職務權限並其ノ費用ノ負擔者等ハ命令ヲ以テ之ヲ定ムルコトヲ得

第十六條 第三章 河川ノ使用ニ關スル制限並警察
舟筏ノ通航及流木ニ關スル規程ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十七條 左ニ記載スル工作物ヲ新築、改築若ハ除却セムトスル者ハ地方行政廳ノ許可ヲ受クヘシ

一 流水ヲ停滯セシメ若ハ引用シ又ハ流水ノ害ヲ豫防スル爲ニ施設スル工作物

二 河川ニ注水スル爲ニ施設スル工作物

三 河川ノ區域内ニ於テ敷地ニ固着シテ施設スル工作物又ハ河川ニ沿ヒ若ハ河川ヲ横過シ若ハ其ノ床下ニ於テ施設スル工作物

第十八條 河川ノ敷地若ハ流水ヲ占用セムトスル者ハ地方行政廳ノ許可ヲ受クヘシ

第十九條 流水ノ方向、清潔、分量、幅員若ハ深淺又ハ敷地ノ現狀等ニ影響ヲ及ホスノ虞アル工事營業其ノ他ノ行爲ハ命令ヲ以テ人ヲ禁止若ハ制限シ又ハ地方行政廳ノ許可ヲ受ケシムルコトヲ得

第二十條 左ノ場合ニ於テ地方行政廳ハ許可ヲ取消シ若ハ其效力ヲ停止シ若ハ其ノ條件ヲ變更シ又ハ既ニ施設シタル工作物ヲ改築若ハ除却セシメ又ハ原形ノ回復ヲ命シ又ハ許可セラレタル事項ニ因リテ生スル危害ヲ豫防スル爲ニ必要ナル設備ヲナサシムルコトヲ得

一 工事施行ノ方法若ハ施行後ニ於ケル管理ノ方法公安ヲ害スルノ虞アルトキ

二 河川ノ狀況ノ變更其ノ他許可ノ後ニ起リタル事實ニ因リ必要ヲ生スルトキ

三 河川ニ關スル工事ヲ施行シ又ハ許可ヲ與ヘタルモノノ外ニ工事、使用若ハ占用ヲ許可スル爲ニ必要ナルトキ

四 此ノ法律ニ基キテ發スル命令ノ規定ニ依リ必要ヲ生スルトキ

五 法律命令ニ違背シタルトキ

六 公益ノ爲ニ必要ナルトキ

第二十一條 本章ノ規程ニ依リ與ヘタル許可ニ依リテ生スル權利義務ハ地方行政廳ノ許可ヲ受クルニ非サレハ之ヲ他人ニ移スコトヲ得ス

第二十二條 法律命令若ハ許可ノ條件ニ違背シタル者ハ行政廳ノ命スル所ニ從ヒ其ノ違背ニ因リテ生シタル事實ヲ更正シ且其ノ因リテ生スル損害ヲ豫防スル爲ニ必要ナル設備ヲナスヘシ

第二十三條 洪水ノ危險切迫ナルトキハ地方行政廳又ハ其ノ委任ヲ受ケタル官吏ハ其ノ現場ニ於テ直ニ防禦ノ爲メニ必要ナル土地ヲ使用シ土砂、竹、木其ノ他ノ材料、車馬其ノ他ノ運搬具及器具等ヲ使用若ハ徵集シ又ハ其ノ現場ニ在ル者ヲ使役シ又ハ家屋其ノ他ノ障害物ヲ破毀スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ地方行政廳又ハ其ノ委任ヲ受ケタル官吏ハ其ノ管内ニ於テ夫役ヲ命シ又ハ下級公共團體ニ命シテ土地、材料、運搬具、器具及夫役ヲ供セシメ又ハ市町村長其ノ他ノ市町村吏員等ヲ指揮シテ必要ナル處分ヲナサシムルコトヲ得

地方行政廳ハ其ノ管内ノ下級公共團體ニ命シテ豫メ洪水防禦ノ爲ニ必要ナル準備ヲナサシムルコトヲ得

第四章

河川ニ關スル費用ノ負擔、土地所有者ノ權利義務並河川ノ管理ヨリ生スル收入等

第二十四條 河川ニ關スル費用ハ府縣ノ負擔トス

主務大臣ニ於テ第六條但書ニ依リ河川ノ管理若ハ其ノ維持修繕ヲナス場合ニ於テハ國庫ニ於テ其ノ費用ノ全部若ハ一部ヲ負擔スルコトヲ得

第一項費用ノ範圍ハ主務大臣ノ定ムル所ニ依ル

第二十五條 通航料徵收ノ許可ヲ受ケテ施設シタル工作物ノ爲ニ要スル費用ハ其ノ徵收期間許可ヲ受ケタル者ノ負擔トス

第二十六條 河川ノ改良工事ニ要スル豫算費用ニシテ其ノ府縣内ノ地租額十分ノ一ヲ超過スルトキハ其ノ超過額ノ三分ノ二以内ヲ國庫ヨリ補助スルコトヲ得但シ地租額ヲ超過スル部分ニ付テハ其

ノ超過額ノ四分ノ三以内ヲ補助スルコトヲ得

災害ニ因リ必要ヲ生シタル工事ニ要スル費用ハ前項ニ依ルノ限ニ在ラス

工事費用精算ノ上豫算ヨリ減スルコトアルモ既ニ與ヘタル補助金ハ之ヲ還付セシメサルコトヲ得

第二十七條 第八條ニ依リ主務大臣ニ於テ工事ヲ施行スル場合ニ於テハ府縣ハ前條ノ規定ニ準シテ其ノ豫算費用ヲ負擔シ國庫ハ其ノ殘額ヲ負擔スヘシ

前項ノ場合ニ於テ府縣ノ負擔スヘキ金額不足額ノ補充及殘餘金ノ處分等ハ主務大臣之ヲ定ム

第二十八條 第八條ニ依リ主務大臣ニ於テ工事ヲ施行スル場合ニ於テハ府縣ハ其ノ負擔スヘキ豫算金額ヲ國庫ニ納付スヘシ

第二十九條 地方行政廳ハ其ノ管内ノ下級公共團體ヲシテ河川ニ關スル費用ノ一部ヲ負擔セシムルコトヲ得

第三十條 河川ノ附屬物ニシテ兼テ他ノ工作物ノ效用ヲナスモノアルトキハ其ノ工作物ノ管理者タル行政廳ノ直接ニ管轄スル公共團體若ハ管理者タル私人ヲシテ其ノ附屬物ニ關スル費用ノ全部若ハ一部ヲ負擔セシムルコトヲ得

第三十一條 營業ノ結果ニ因リ特ニ河川ニ關スル工事ノ必要ヲ生セシムルモノアルトキハ其ノ營業者ヲシテ其ノ費用ノ一部ヲ負擔セシムルコトヲ得

第三十二條 河川ニ關スル工事ニシテ他ノ工事ニ因リ必要ヲ生シタルモノナルトキハ其ノ費用ハ工事ノ必要ヲ生シタル程度ニ於テ其ノ原因タル工事ノ費用負擔者ヲシテ之ヲ負擔セシムルコトヲ得 河川ニ關スル工事ニ因リテ必要ヲ生シタル他ノ工事ノ費用ハ其ノ工事ノ管理者タル行政廳ノ直接ニ管理スル公共團體若ハ管理者タル私人ノ負擔トス但シ命令ノ定ムル所ニ從ヒ河川ニ關スル費用ノ内ヨリ其費用ノ全部若ハ一部ヲ補助スルコトヲ妨ケス

第三十三條 河川ニ關スル工事ニシテ他ノ府縣若ハ他府縣内ノ公共團體ニ於テ著シク利益ヲ受クルモノナルトキ又ハ河川ニ關スル工事若ハ其ノ維持ニシテ主トシテ他府縣内ノ住民ノ河川ノ使用ニ因リ必要ヲ生スルモノナルトキハ其ノ府縣若ハ其ノ府縣内ノ公共團體ヲシテ其ノ費用ノ一部ヲ負擔セシムルコトヲ得

第三十四條 此ノ法律若ハ此法律ニ基キテ發スル命令ニ依リ行政廳ノ命シタル事項ヲ遵守スル爲ニ要スル費用ハ特別ノ規程ヲ設ケタル場合ヲ除クノ外其ノ命令ヲ受ケタル者ノ負擔トス

第五十二條ニ依リ主務大臣若ハ地方長官ニ於テ義務者ノ履行スヘキ事項ヲ自ら執行シ若ハ第三者ヲシテ執行セシメタルカ爲ニ要シタル費用ハ其ノ義務者ヨリ之ヲ追徴スルコトヲ得

第三十五條 公共團體ハ河川ニ關スル工事若ハ費用ノ爲寄附ヲナスコトヲ得

第三十六條 公共團體ハ河川ニ關スル費用ニ付キ私人若ハ其ノ區域内ノ下級公共團體ニ補助ヲナスコトヲ得

第三十七條 公共團體ハ河川ニ關スル費用ニ付キ利害關係ノ厚薄ヲ標準トシテ其ノ區域内ニ於テ不均一ノ賦課ヲナスコトヲ得

第三十八條 河川ニ關スル工事ノ爲必要ナルトキハ地方行政廳ハ管内ノ土地若ハ森林ノ所有者ニ命シ保償金トシテ時價相當ノ金額ヲ下付シテ其ノ所有ニ係ル土石、砂礫、芝草、竹木及運搬具ヲ供給セシムルコトヲ得但シ時價ニ關シテ協議整ハサルトキ又ハ所有者不明ナルトキ若ハ其ノ所在不明ナルトキハ地方行政廳ハ相當ト認ムル金額ヲ供託シテ本條ノ供給ヲナサシムルコトヲ得

第三十九條 河川ニ關スル工事ノ爲メ必要ナルトキハ地方行政廳ハ其ノ堤外地ニ立入り又ハ其ノ土地ヲ材料置場等ニ供シ又ハ己ムヲ得サルトキハ其ノ土地ニ現在スル建設物其ノ他ノ障害物ヲ除却スルコトヲ得

堤外地ニ非サル沿岸若ハ沿堤土地ニ關シテハ其地先ニ施行スヘキ工事ノ爲必要ナル場合ニ限り前項ヲ適用スルコトヲ得

前二項ノ適用ニ依リ損害ヲ受ケタル所有者ハ使用若ハ除却ノ後三箇月以内ニ府縣ニ對シ補助金ヲ請求スルコトヲ得

第四十條 第二十三條第一項ノ處分ニ因リ著シク損害ヲ受ケタル者アルトキハ地方行政廳ハ其ノ管内ノ市町村、町村組合若ハ水利組合ニ命シテ其ノ物件ノ價格ヲ補償セシムルコトヲ得其ノ價格ハ行政廳之ヲ定ム

前項補償ノ手續ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第四十一條 法律、命令若ハ許可認可ノ條件ニ違背シタル工事、設備使用占有若ハ工作物ノ管理ニ因リ損害ヲ受ケシメタル者ハ其ノ損害ヲ賠償スヘシ

前項ニ依リ行政廳ニ於テ下付スヘキ賠償金ハ其ノ行政廳ノ直接ニ管轄スル公共團體ノ負擔トス

第四十二條 流水ヲ停滯シ若ハ引用スル爲ノ工作物ノ施設其ノ他河川ノ使用若ハ占用ヲ許可スルトキハ其ノ管理者使用者、若ハ占用者ヨリ使用料若ハ占用料ヲ徵收スルコトヲ得

本條ノ使用料若ハ占用料其ノ他河川ヨリ生スル收入ハ府縣ニ歸ス

第四十三條 地方行政廳ハ私人若ハ其ノ管内下級公共團體ニ於テ舟筏ノ便ヲ謀ル爲新築若ハ改築工事ヲ施行スル場合ニ限り舟筏ヨリ通航料ヲ徵收スルコトヲ得但シ其ノ年限ハ當初許可シタル時ヨリ三十箇年ヲ超過スルコトヲ得ス

通航料ノ徵收ヲ停止スヘキ場合ニ於ケル補償其ノ他通航料ノ制限等ニ關スル規程ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第四十四條 河川敷地ノ公用ヲ廢シタルトキハ地方行政廳ハ命令ノ定ムル所ニ從ヒ之ヲ處分スヘシ

但シ此ノ法律施行前私人ノ所有權ヲ認メタル證據アルトキハ其ノ私人ニ下付スヘシ

第四十五條 河川附近ノ土地若ハ工作物ノ所有者ハ命令ノ規程ニ依リ行政廳ノ命スル所ニ從ヒ其ノ土地ノ缺壞若ハ土砂流出ヲ豫防スル爲又ハ其ノ工作物ノ河川ニ及ボス損害ヲ豫防スル爲ニ必要ナル設備ノ全部若ハ一部ヲナシ又ハ其ノ費用ノ全部若ハ一部ヲ負擔スル義務ヲ有ス

第四十六條 河川ニ土砂ヲ流出スルノ虞アル土地ノ所有者ハ行政廳ニ於テ其ノ土地ニ竹木芝草ヲ植附ケ若ハ培養シ又ハ其ノ他土砂扞止ノ設備ヲナシ若ハ之ヲ維持スルコトヲ拒ムコトヲ得ス

前項ニ依リ植付タル竹木芝草ハ命令ノ定ムル所ニ從ヒ其ノ土地所有者ヲシテ收益ノ全部若ハ一部ヲ取得シテ之ヲ培養スルノ義務ヲ負ハシムルコトヲ得

土砂扞止ノ爲ニ要スル土地ハ行政廳ニ於テ土地收用法ニ依リ之ヲ收用スルコトヲ得

第一項土地ノ區域ハ地方行政廳ニ於テ豫メ之ヲ告示スヘシ

第四十七條 此法律ヲ以テ定メタルモノノ外尚河川附近ノ土地、家屋若ハ其ノ他ノ工作物ニ關シ河川ノ公利ヲ増進シ又ハ公害ヲ除却若ハ輕減スル爲ニ必要ナル制限ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第四十八條 河川若ハ河川附近ノ土地ニ關シテ規定シタル事項ハ命令ノ定ムル所ニ從ヒ河川ニ關スル工事ニ因リ新ニ河川トナルヘキ區域若ハ其ノ附近ノ土地ニ之ヲ準用スルコトヲ得

第五章 監督及強制手續

第四十九條 主務大臣ハ河川ニ關スル行政ヲ監督ス

地方長官ヲシテ第一次ニ於テ監督セシムヘキ事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

此ノ法律ニ規定シタル事項ニシテ主務大臣若ハ地方長官ノ認可ヲ要スルモノハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第三十五條及第三十六條ニ規定シタル事項並此ノ法律ニ依リ行政廳ニ付與シタル職權ニ關シテハ

命令ヲ以テ制限ヲ設クルコトヲ得

第五十條 他ノ府縣若ハ他ノ府縣内ノ公共團體ヲシテ費用ヲ負擔セシムル爲ニ必要ナル手續ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第五十一條 主務大臣ハ地方行政廳ニ命シテ河川ニ關スル工事ヲ施行セシメ又ハ河川ノ區域及其ノ附屬物ノ認定若ハ臺帳ノ更正ヲナサシメ其ノ他此ノ法律ニ規定シタル地方行政廳ノ職權ヲ施行セシムルコトヲ得

第五十二條 義務者ニ於テ此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ依ル義務ヲ履行セス若ハ之ヲ履行スルモ必要ノ期限内ニ終了スルノ見込ナキトキ又ハ其ノ履行ノ方法宜ヲ得サルトキハ主務大臣若ハ地方長官ハ自ラ之ヲ執行シ又ハ第三者ヲシテ之ヲ執行セシムルコトヲ得

第五十三條 私人ニ於テ此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ依ル義務ヲ怠ルトキハ主務大臣若ハ地方長官ハ一定ノ期限ヲ示シ若期限内ニ履行セサルトキ若ハ之ヲ履行スルモ不充分ナルトキハ千圓以内ニ於テ指定シタル過料ニ處スルコトヲ豫告シテ其ノ履行ヲ命スルコトヲ得

第五十四條 此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ規定シタル事項ニ關シ納付セシメタル保證金ハ行政廳ニ於テ直ニ其ノ納付ノ目的又ハ過料ニ充用スルコトヲ得

前項保證金ハ他ノ債權ノ爲ニ差押フルコトヲ得ス

第五十五條 此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ依リ私人ニ於テ負擔スヘキ費用及過料ハ此ノ法律ニ於テ特ニ民事訴訟ヲ許シタル場合ヲ除クノ外行政廳ニ於テ國稅滯納處分法ニ依リ之ヲ徵收スルコトヲ得

前項ノ費用及過料ニ付キ行政廳ハ國稅ニ次キ先取特權ヲ有スル者トス

此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ依リ公共團體ニ於テ負擔スヘキ費用ニ關シテハ此ノ法律ニ於テ特ニ民事訴訟ヲ許シタル場合ヲ除クノ外主務大臣若ハ地方長官ハ必要ナル場合ニ於テハ金額ヲ定メテ之ヲ其豫算表ニ掲ケ其ノ他必要ナル處分ヲ指揮シ直ニ其ノ金額ヲ支出セシムルコトヲ得

第五十六條 此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ依リ行政廳ニ付與シタル職權ハ行政處分ニ依リ之ヲ強制スルコトヲ得

行政廳ノ許可若ハ認可ニ付シタル條件ニ關シテモ亦本條及前條ヲ準用ス

第五十七條 此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ於テ規定シタル事項ニ關シテハ河川視察ノ職務ヲ有スル官吏ヲシテ命令ノ定ムル所ニ從ヒ警察官ノ職權ノ全部若ハ一部ヲ執行セシムルコトヲ得

第五十八條 此ノ法律ニ規定シタル私人ノ義務ニ關シテハ命令ヲ以テ二百圓以内ノ罰金若ハ一年以下ノ禁錮ノ罰則ヲ設クルコトヲ得

第六章 訴訟及訴訟

第五十九條 此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ依リ主務大臣若ハ地方行政廳ノナシタル處分ニ對シテ不服アル私人若ハ公共團體ハ主務大臣ニ訴願スルコトヲ得

此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令若ハ地方行政廳ノ委任ニ依リ下級行政廳ノナシタル處分ニ對シテ不服アル私人若ハ公共團體ハ地方長官ニ訴願シ地方長官ノ裁決ニ不服アル者ハ主務大臣ニ訴願スルコトヲ得

此ノ法律ニ依リ行政訴訟ノ提起ヲ許シタル場合ニ於テハ主務大臣ニ訴願スルコトヲ得ス

第六十條 此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ廢スル命令ニ規定シタル事項ニ關シ行政廳ノ違法處分ニ依リ權利ヲ毀損セラレタリトスル私人若ハ公共團體ハ前條ニ依リ訴願ノ裁決ヲ經タル後行政訴訟

ヲ提起スルコトヲ得但シ主務大臣若ハ地方行政廳ノ處分ニ對シテハ直ニ之ヲ提起スルコトヲ得
第六十一條 第四十一條第一項ニ依リ損害賠償ヲ請求スル私人若ハ公共團體ハ損害ヲ受ケタル日ヨ
リ三箇月以内ニ民事訴訟ヲ提起スルコトヲ得

法律、命令若ハ許可認可ノ條件ニ違背シタルヤ否ヤニ付キ争ヒアルトキハ前數條ノ手續ニ依リ其
ノ違背シタリトノ事實確定シタル後ニ非サレハ民事訴訟ヲ提起スルコトヲ得但シ此ノ場合ニ於
テハ前項ノ期間ハ確定ノ日ヨリ起算スルモノトス

第六十二條 第三十八條若ハ第三十九條ニ依リ下付スヘキ補償金額ニ對シ不服アルトキハ行政廳ニ
於テ補償金額ノ通知ヲナシタル日ヨリ六箇月以内ニ民事訴訟ヲ提起スルコトヲ得但シ第三十九條
ノ場合ニ於テ補償金額ノ請求ノ後三箇月以内ニ其ノ金額ノ通知ナキトキハ其ノ期限經過後六箇月以内
ニ民事訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第六十三條 此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ規定シタル事項ニ關シテハ本章ノ規程ニ
依リ特ニ許シタル場合ヲ除クノ外訴訟若ハ行政訴訟ヲ提起シ又ハ行政廳ニ對シ民事訴訟ヲ提起ス
ルコトヲ得ス

第七章 附 則

第六十四條 此ノ法律ノ全部若ハ一部ヲ施行スヘキ區域及時期ハ主務大臣之ヲ定ム

此ノ法律ヲ施行スル爲ニ必要ナル規程ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第六十五條 河川ノ臺帳ハ此ノ法律施行ノ日ヨリ二箇年以内ニ之ヲ調製スヘシ

第六十六條 災害土木費負擔ニ關スル慣例及外國人居留地内ニ於ケル河川ニ關スル慣例ハ此ノ法律
ヲ以テ變更スルノ限ニ在ラス

○河川法施行規程

○勅令第二百三十六號

明治二十九年
六月二十一日

河川法施行規程

第一條 內務大臣ニ於テ公共ノ利害ニ重大ノ關係アリト認定シタル河川ハ官報ヲ以テ之ヲ告示スヘ
シ

內務大臣ニ於テ河川法全部若ハ一部ヲ施行スヘキ區域及時期ヲ定メタルトキ亦同シ

第二條 府縣知事ニ於テ河川ノ支川若ハ河川又ハ河川ノ附屬物ト認定シタルモノハ其ノ地方ノ公布
式ニ依リ之ヲ告示スヘシ(明治三十二年六月勅令第
二百八十六號ヲ以テ改正)

第三條 沿岸沿堤及河川附近ノ土地ノ區域ハ府縣知事之ヲ定メ內務大臣ノ定ムル方法ニ依リ之ヲ告
示スヘシ

第四條 河川法第八條ニ依リ內務大臣ニ於テ自ラ工事ヲ施行シ又ハ河川ニ關スル工事ニ因リ特ニ利
益ヲ受クル公共團體ノ行政廳ニ命シテ工事ヲ施行セシムル場合ニ於テハ官報ヲ以テ其ノ工事ヲ施
行スヘキ河川並ニ其ノ區域及工年度ヲ告示スヘシ

第五條 河川法第六條但書ニ依リ內務大臣ニ於テノ河川管理又ハ維持修繕ヲナストキハ內務省直轄
ノ土木事業ニ準シテ土木監督署長之ヲ行フ

第六條 河川法第三十八條ニ依リ府縣知事ニ於テ土石、砂礫、芝草、竹木及運搬具ノ供給ヲナサシ
メントスルトキハ少クトモ五日前ニ其ノ供給セシムヘキ物件ノ種類、數量及補償金額等ヲ其ノ所
有者ニ通知スヘシ

第七條 河川法第三十九條ニ依リ府縣知事ニ於テ堤外地、沿岸若ハ沿堤土地ニ立入り又ハ之ヲ材料
置場等ニ供セントスルトキハ少クトモ五日前ニ又之ニ現在スル建設物其ノ他ノ障害物ヲ除却セン

トスルトキハ少クトモ十五日前ニ其場所若ハ建設物等ヲ其ノ所有者ニ通知スヘシ

第八條 河川法施行前ニ確定シタル河川ニ關スル費用ノ豫算ハ河川法施行ノ爲其効力ヲ失ハス

前項豫算ニ依リ執行スヘキ事項ハ從前ノ規程又ハ慣習ニ依リ既ニ定リタル執行者ニ於テ之ヲ行フ

第九條 河川法施行前ニ私人ノ所有權ヲ認メタル河川ノ敷地ニシテ荒地ニアラルモノハ從前ノ所

有者若ハ其ノ相續人ノ請求ニ因リ府縣知事ハ公益ヲ妨ケサル限ニ於テ其ノ占用ヲ許可スヘシ

第十條 府縣知事ニ於テ從前ノ所有者若ハ其ノ相續人ニ前條ノ占用ヲ許可セサルトキ又ハ之ヲ禁止

スルトキハ府縣ハ内務大臣ノ認可ヲ得テ相當ノ補償金ヲ下附スヘシ

公共ノ利益トナルヘキ事業ノ爲前項處分ノ必要ヲ生スルトキハ府縣知事ハ其ノ事業ノ許可ノ條件

トシテ其ノ執行者ヲシテ補償金ノ全部若ハ一部ヲ負擔セシムルコトヲ妨ケス

河川ニ關スル工事ニ因リ下付ノ必要アル第一項ノ補償金ハ其ノ工事ノ豫算費用中ニ算入スヘシ

第十一條 河川法若ハ之ニ基キテ發スル命令ニ依リ行政廳ノ許可ヲ受ケヘキ事項ニシテ其施行ノ際

ニ現存スルモノハ河川法若ハ之ニ基キテ發スル命令ニ依リ許可ヲ受ケタルモノト看做ス但其施行

ノ日ヨリ三箇月以内ニ府縣知事ニ於テ更ニ許可ヲ受クヘキコトヲ命シタルモノハ此限ニアラス

河川法施行前許可ニ附シタル條件ハ河川法若ハ之ニ基キテ發スル命令ニ抵觸セサル程度ニ於テ効

力ヲ有ス

第十二條 河川法施行前ニ許可シタル通航料ノ徵收ハ從前ノ規程ニ依ル

但徵收ノ期限ナキモノハ府縣知事ニ於テ河川法施行後三十箇年以内ノ期限ヲ定メテ之ヲ許可スヘ

第十三條 内務大臣ハ河川法ニ規定シタル私人ノ義務ニ關シ其ノ發スル所ノ命令ニ二十五圓以内ノ

罰金若ハ二十五日以下ノ禁錮ノ罰則ヲ附スルコトヲ得

府縣知事及警視總監ハ河川法ニ規定シタル私人ノ義務ニ關シ其ノ發スル所ノ命令ニ十圓以内ノ罰

金若ハ拘留ノ罰則ヲ附スルコトヲ得

第十四條 河川法第四條、第五條、第十三條、第十五條、第十六條、第十九條、第四十五條及第四十六條

第二項ニ依リテ發スル命令ハ府縣知事ヲ以テスルコトヲ得但シ東京市ニ在テハ第十六條及第十九條

中警察ニ係ル事項ハ警視廳令ヲ以テスルヲ得

○河川法第四十八條ニ依レル命令ノ件

○勅令第三百七十七號 明治三十年十月十八日

第一條 此ノ勅令ニ於テ河川トナルヘキ區域ト稱スルハ河川ニ關スル工事ニ因リ新ニ河川トナルヘ

キ區域ヲ謂フ

第二條 河川トナルヘキ區域竝ニ其ノ附近ノ土地ノ區域ハ府縣知事ニ於テ内務大臣ノ定ムル方法ニ

依リ之ヲ告示スヘシ

第三條 河川トナルヘキ區域ニ於テ其ノ土地ニ固著シテ施設スル工作物又ハ之ニ沿ヒ若ハ之ヲ横過

シ若ハ其ノ地下ニ於テ施設スル工作物ヲ新築、改築若ハ除却セムトスル者ハ府縣知事ノ許可ヲ受

クヘシ

第四條 工事、營業其ノ他ノ行爲ニシテ河川トナルヘキ區域ノ現狀若ハ新ニ生スヘキ河川ニ影響ヲ

及ホスノ虞アルモノハ府縣知事ニ於テ命令ヲ以テ之ヲ禁止若ハ制限シ又ハ許可ヲ受ケシムルコト

ヲ得

第五條 此勅令ニ依リ許可シタル事項ニ關シテハ府縣知事ハ左ノ場合ニ於テ許可ヲ取消シ若ハ其ノ

效力ヲ停止シ若ハ其ノ條件ヲ變更シ又ハ既ニ施設シタル工作物ヲ改築若ハ除却セシメ又ハ原形ノ

回復ヲ命シ又ハ許可セラレタル事項ニ因リテ生スル危害ヲ豫防スル爲ニ必要ナル設備ヲナサシムルコトヲ得

- 一 工事施行ノ方法若ハ施行後ニ於ケル管理ノ方法公安ヲ害スルノ虞アルトキ
- 二 許可ノ後ニ起リタル事實ニ因リ必要ヲ生スルトキ
- 三 河川ニ關スル工事ヲ施行シ又ハ許可ヲ與ヘタルモノノ外ニ工事ヲ許可スル爲ニ必要ナルトキ
- 四 河川法ニ基キテ發スル命令ノ規程ニ依リ必要ヲ生スルトキ
- 五 法律命令ニ違背シタルトキ
- 六 公益ノ爲ニ必要ナルトキ

第六條 此ノ勅令ニ依リ與ヘタル許可ニ關シテハ河川法第二十一條ヲ準用ス

第七條 河川ニ關スル工事ノ爲ニ必要ナルトキハ府縣知事ハ河川トナルヘキ區域ニ立入り又ハ其ノ土地ヲ材料置場等ニ供シ又ハ己ムヲ得サルトキハ其ノ土地ニ現在スル建設物其ノ他ノ障害物ヲ除却スルコトヲ得

河川トナルヘキ區域ニ沿ヒタル土地ニ關シテハ其ノ地先ニ施行スヘキ工事ノ爲ニ必要ナル場合ニ限リ前項ヲ適用スルコトヲ得

前二項ノ場合ニ關シテハ河川法第三十九條第三項及第六十二條ヲ準用ス

第八條 前條第一項及第二項ノ場合ニ於テハ明治二十九年勅令第二百三十六號第七條ヲ準用ス

第九條 河川法第四十五條及第四十七條ニ基キ河川附近ノ土地ニ關シ發スル命令ニ規定シタル事項ハ府縣知事ニ於テ府縣令ヲ以テ河川トナルヘキ區域附近ノ土地ニ之ヲ準用スルコトヲ得

第十條 河川法第八條ニ依リ内務大臣ニ於テ自ラ工事ヲ施行シ又ハ公共團體ノ行政廳ニ命シテ工事ヲ施行セシムル場合ニ於テハ内務大臣ハ此ノ勅令ニ依リテ府縣知事ノ有スル職權ヲ自ラ施行スル

コトヲ得

第十一條 左ノ場合ニ於テ府縣知事ハ此ノ勅令ニ依リ有スル職權ノ施行ニ關シ内務大臣ノ認可ヲ受クルコトヲ要ス

- 一 第七條ニ依リ建設物其ノ他ノ障害物ヲ除却セムトスルトキ
- 二 河川法第八條ニ依リ内務大臣ニ於テ自ラ工事ヲ施行シ又ハ公共團體ノ行政廳ニ命シテ工事ヲ施行セシムルトキ

○河川ニ關スル行政監督ノ件

○勅令第二百三十五號 明治二十九年六月二日

第一條 河川法若ハ之ニ基キテ發スル命令ニ依リ郡、市、町、村、町村組合又ハ水利組合ノ行政廳ニ於テ執行スル河川行政及府縣知事ノ命シ又ハ許可シタル事項ニ關シテハ第一次ニ於テ府縣知事之ヲ監督シ第二次ニ於テ内務大臣之ヲ監督ス

第二條 左ニ掲クル事項及其ノ變更、停止又ハ廢止ハ内務大臣ノ認可ヲ受クルコトヲ要ス但シ河川ニ影響スルコト小ニシテ内務大臣ニ於テ命令ヲ以テ認可ヲ要セスト規定シタルモノハ此ノ限ニアラス

- 一 河川ノ支川、派川及河川ノ附屬物ノ認定(明治三十二年六月勅令第百八十七號ヲ以テ改正)
- 二 河川ニ關スル新築、改築若ハ除却工事ノ施行竝ニ其計畫及其ノ工費豫算
- 三 河川法第十七條、第十八條及第四十三條ニ依リ與フル許可
- 四 内務大臣ノ認可ヲ經テ許可シタル事項ニ關シ河川法第二十條ニ依ル府縣知事ノ處分
- 五 河川法第二十九條乃至第三十二條ニ依ル費用ノ負擔方法

- 六 河川法第三十七條ニ依ル府縣ノ不均一ノ賦課
- 七 河川法第三十九條ニ依ル建設物其ノ他ノ障害物ノ除却
- 第三條 左ニ掲クル事項及其ノ變更、停止又ハ廢止ハ府縣知事ノ認可ヲ受クルコトヲ要ス
 - 一 河川法第二十二條及第四十六條第一項ニ依ル下級行政廳ノ處分
 - 二 河川法第三十七條ニ依ル下級公共團體ノ不均一ノ賦課
 此ノ勅令ニ依リ府縣知事ノ第一次ニ監督スヘキ事項ニ關シテハ府縣知事ハ府縣令ヲ以テ其ノ認可ヲ受クヘキモノヲ定ムルコトヲ得
- 第四條 河川法第三十五條ニ依リ郡、市、町、村、町村組合又ハ水利組合ニ於テ寄附ヲナストキハ左ノ條件ヲ具備シ且府縣知事ノ認可ヲ受クルコトヲ要ス
 - 一 河川ニ關スル事業ニシテ寄附ヲナサントスル公共團體ノ利害ニ直接ノ關係アルコト
 - 二 寄附ヲナサントスル公共團體ニ於テ起債ノ方法ニ因ラスシテ寄附ヲナシ得ヘキコト
- 第五條 河川法第三十六條ニ依リ郡、市、町、村、町村組合又ハ水利組合ニ於テ補助ヲナストキハ左ノ條件ヲ具備シ且府縣知事ノ認可ヲ受クルコトヲ要ス
 - 一 河川ニ關スル事業ニシテ永遠ノ利益ヲ目的トシ且其ノ補助ヲ受クヘキ者ニ於テ其ノ費用ノ負擔ニ堪ヘサルコト
 - 二 補助ヲナサントスル公共團體ニ於テ起債ノ方法ニ因ラスシテ補助ヲナシ得ヘキコト

○河川臺帳ニ關スル件

○勅令第三百三十一號 明治二十九年十月十四日

河川臺帳

- 第一條 河川臺帳ハ帳簿及實測圖ヲ以テ組成ス
- 第二條 河川臺帳ニハ市町村毎ニ區別シテ左ノ事項ヲ記載スヘシ但シ河川ノ狀況ニ依リ内務大臣ハ其記載事項ヲ省畧セシムルコトヲ得
 - 一 河川ノ敷地及堤外地ノ區域
 - 二 河川ノ附屬物及河川ニ影響ヲ及ホスヘキ工作物ノ種類、數量、構造及位置形狀
 - 三 河川ニ影響ヲ及ホスヘキ水流及水面ノ種類、數量及位置形狀
- 第三條 府縣知事ハ其ノ調製ニ係ル河川臺帳ニ付地元市參事會及町村長ノ意見ヲ徵シ且之ヲ其市役所及町村役場ニ於テ七日以上ノ期限ヲ定メテ公衆ノ縦覽ニ供スヘシ但シ地元市町村ノ多數ナル場合ニ於テハ府縣知事ハ縦覽所ヲ指定シ其ノ所在市町村ニ隣接スル市町村ニ限り併合縦覽セシムルコトヲ得(明治三十一年七月勅令第百六十七號ヲ以テ追加)
- 前項ノ場合ニ於テ利害關係者ハ縦覽期限經過後十五日以内ニ河川臺帳ニ對シ意見ヲ申立ルコトヲ得
- 第四條 府縣知事ハ河川臺帳ノ認可ヲ請フニ際シ前條意見書類ヲ内務大臣ニ提出スヘシ
- 第五條 府縣知事ハ河川臺帳ノ更正ヲナサントスルトキモ亦前二條ノ手續ヲ經テ内務大臣ノ認可ヲ請フヘシ
- 第六條 内務大臣ハ其ノ認可シタル河川臺帳ノ原本ヲ保管スヘシ
- 第七條 内務大臣ハ河川臺帳ノ原本ニ就テ正本ヲ調製シ府縣知事ヲシテ之ヲ保管セシムヘシ
- 府縣知事ハ公衆ノ請求ニ依リ河川臺帳ノ正本ヲ縦覽ニ供スルノ方法ヲ設ケ其ノ地方ノ分布式ニ依リ之ヲ告示スヘシ其ノ更正ヲ爲シタルトキ亦同シ(明治三十二年六月勅令第百八十八號ヲ以テ改正)
- 第八條 府縣知事河川臺帳ノ認可ヲ得タルトキハ其ノ正本ニ就テ副本ヲ調製シ之ヲ所轄土木監督署

長ニ交付スヘシ其ノ更正ニ付認可ヲ得タルトキ亦同シ

第九條 府縣知事河川臺帳ノ認可ヲ得タルトキハ七日以内ニ其旨ヲ地元市參事會及町村長ニ通知スヘシ其ノ更正ニ付認可ヲ得タルトキ亦同シ

第十條 市參事會及町村長前條ノ通知ヲ受ケタルトキハ正本ニ就テ其ノ管内ニ係ル河川臺帳ノ副本ヲ調製シ又ハ更正スヘシ

市參事會及町村長ハ河川臺帳ノ副本ヲ調製シ又ハ更正シタルトキハ其ノ旨ヲ公告シ公衆ノ請求アリタルトキハ之ヲ其ノ縦覽ニ供スヘシ(明治三十二年六月勅令第百八十八號ヲ以テ改正)

第十一條 土木監督署長、市參事會及町村長ハ各其ノ管内ニ係ル河川臺帳ノ副本ヲ保管スヘシ

第十二條 第十條ノ爲ニ要スル費用ハ當該市町村長ノ負擔トス

○河川臺帳ニ關スル細則

○内務省令第十三號 明治二十九年十二月八日

河川臺帳ニ關スル細則

第一條 河川臺帳ニ記載スヘキ事項ハ凡ソ左ノ區域内ニ係ルモノトス

一 有堤部ニ於テハ堤外地及ヒ堤防附近

第二條 河川臺帳ノ河川平面圖ハ縮尺千二百分ノ一トス

河川ノ附屬物其ノ他ノ工作物ノ圖面ハ其ノ構造ヲ明瞭ナラシムルニ足ルヘキ縮尺ヲ用ユヘシ

第三條 河川ノ平面圖ハ原本ニ屬スルモノノ外總テ眞北ヲ上トセル切圖トシ其輪廓ハ縱一尺二寸横一尺八寸トス

前項平面圖ハ一葉毎ニ全川ヲ通シタル番號ヲ付シ重要ナル地物ノ外左ノ件々ヲ記載スヘシ

- 一 磁 北
- 一 梯 尺
- 一 地名及境界
- 一 一流レノ方面
- 一 隣接平面圖ノ番號

第四條 地方行政廳ハ河川ノ兩岸市町村ノ大字毎ニ少クトモ一箇所位置及高低ノ基標ヲ設置若ハ撰定シ之ヲ保存スヘシ

第五條 川敷竝ニ堤敷ノ境界ハ總テ折線ヲ以テ區畫スヘシ

折線ノ交叉點ハ二箇ノ基標ヲ連結スル直線若ハ之ニ準據スル直線ニ基キ支距法ニ依リ之ヲ測定スヘシ

川敷ノ區域ハ青色實線、堤敷ノ區域ハ褐色實線、測量連結線ハ朱色實線、支距線ハ朱色點線ヲ以テ河川平面圖ニ記入スヘシ

第六條 堤防ハ凡ソ二町毎ニ横斷面ヲ測リ其ノ位置及ヒ番號若ハ符號ヲ支距平面圖ニ記載シ別ニ各横斷面圖ヲ調製シ一定基線上ノ高、馬踏幅、數幅等ヲ記入スヘシ

斷面ニ劇變アル場所ハ前項ノ制限ニ依ラス實測スヘシ

第七條 左ニ掲クル河川ノ附屬物、其ノ他ノ工作物、水流及水面ハ其ノ位置形狀ヲ河川平面圖ニ載セ其ノ長、幅、高等構造ヲ明瞭ナラシムル事項ヲ河川臺帳ノ帳簿ニ記入シ且必要ナル場合ニハ明細圖ヲ添付スヘシ

各種ノ水制、護岸、環堤

樋管、閘門

乘船場、荷揚場

第一號書式ニ依ル

第二號書式ニ依ル

第三號書式ニ依ル

道路、鐵道

第四號書式ニ依ル

橋梁

第五號書式ニ依ル

水流

第六號書式ニ依ル

船渠、船溜

第七號書式ニ依ル

右ノ外河川ニ影響ニ及ホスヘキ各種ノ工作物若ハ水面ノ記載法ハ本條ニ準ス

河川ノ附屬物ハ河川平面圖及帳簿ニ記號ヲ付シ他ノ工作物ト區分スヘシ(明治三十二年四月内務省令第八號ヲ以テ追加)

第八條 基標若ハ之ニ準スル測標ハ其ノ位置、一定基線上ノ高、近接基線若ハ測標トノ角度、距離

等ヲ第八號書式ニ依リ帳簿ニ記入シ河川平面圖ニ記載シ得ルモノハ之ヲ記載スヘシ

第九條 河川臺帳ノ帳簿ニ記載セル事項ノ内延長、箇所數等市町村毎ニ合計シ得ルモノハ府縣郡毎

ノ合計ヲ調製スヘシ

第十條 特別ノ理由アル場合ニ於テハ地方行政廳ハ内務大臣ノ認可ヲ得テ第二條乃至第八條ノ規定

ヲ一時省畧若ハ變更スルコトヲ得

内務大臣ハ前項ノ認可ヲ爲シタルトキハ第三條ノ規定ヲ變更シテ正本ノ調製ヲ爲スコトヲ得(明治三十二年四月内務省令第八號ヲ以テ追加)

(書式畧之)

○河川臺帳取扱方ノ件

○内務省訓令第二十六號 明治三十一年八月

第一條 明治二十九年勅令第三百三十一號第三條第一項但書(明治三十一年勅令第百六十七號ヲ以テ追加)ノ場合ニ於テハ十日

以上ノ期限ヲ定メテ縦覽ニ供スヘシ

府 縣 沖繩縣 ヲ除ク

第二條 河川臺帳ノ原本ニ屬スル河川平面圖ハ原圖紙(幅五尺)ヲ用ヒ其長ハ隣接市町村併合縦覽ノ便宜ヲ得ル程度ニ於テ適宜之ヲ定ムルコトヲ得

第三條 河川臺帳ハ其調製ヲ了シタル部分ヨリ漸次明治二十九年勅令第三百三十一號第三條ノ手續ヲ履行シ認可ヲ請フコトヲ得

第四條 河川臺帳ノ認可ヲ請フトキハ土木監督署ヲ經由スヘシ其更正ニ付認可ヲ請フトキ亦同シ

○河川法第五條ニ依ル命令ノ件

○勅令第四百四號 明治三十二年十月

第一條 河川法ニ規定シタル事項ヲ準用スヘキ水流若ハ水面又ハ河川ハ内務大臣ノ認可ヲ經テ府縣知事之ヲ認定ス

府縣知事前項ノ認定ヲ爲シタルトキハ之ヲ告示スヘシ

第二條 前條ノ認定ヲ受ケタル水流若ハ水面又ハ河川ニハ河川法第三條(敷地ヲ除ク)第四條第二項

第十二條、第十三條、第十六條乃至第二十二條、第三十四條、第三十八條乃至第四十三條、第四

十五條乃至第四十七條、第四十九條、第三項、第四項、第五十二條乃至第六十三條及之ニ基キテ

發スル命令ノ規定ヲ準用ス

第三條 前條ニ掲ケタルモノノ外河川法ニ規定シタル事項ハ内務大臣又ハ府縣知事ニ於テ命令ヲ以

テ第一條ノ認定ヲ受ケタル水流若ハ水面又ハ河川ニ準用スルコトヲ得但シ河川法第六條但書第八

條、第二十四條第二項、第二十六條乃至第二十八條及第三十三條ノ規定ハ此ノ限リニ在ラス

府縣知事ニ於テ前項ニ依リ河川法ノ規定ヲ準用セントスルトキハ内務大臣ノ認可ヲ受クルコトヲ

要ス

○河川法第九條ニ依ル命令ノ件

○内務省令第十六號 明治三十二年五月

第一條 府縣知事ニ於テ下級行政廳ヲシテ河川ニ關スル工事ヲ施行セシメ又ハ其維持ヲ爲サシムルニハ其行政廳ハ河川ニ就キ直接ニ利害ノ關係ヲ有スル公共團體ノ行政廳タルコトヲ要ス

第二條 府縣知事ニ於テ下級行政廳ヲシテ河川ニ關スル工事ヲ施行セシメ又ハ其維持ヲ爲サシムルトキハ土木監督署ヲ經由シ内務大臣ノ認可ヲ受クルコトヲ要ス其變更廢止ヲ爲ストキ亦同シ

○河川法第五十八條ニ依ル罰則ノ件

○勅令第四百十八號 明治三十三年四月

第一條 許可ヲ受ケスシテ河川法第十七條ニ記載スル工事ヲ施行シ又ハ詐僞ノ手段ヲ以テ其ノ許可ヲ受ケタル者ハ二百圓以下ノ罰金又ハ一年以下ノ重禁錮ニ處ス

第二條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ五十圓以下ノ罰金又ハ三箇月以下ノ重禁錮ニ處ス

一 許可ヲ受ケスシテ河川ノ敷地若ハ流水ヲ占有シ又ハ詐僞ノ手段ヲ以テ其ノ許可ヲ受ケタル者

二 河川法第二十三條ノ場合ニ於テ正當ノ事由ナクシテ地方行政廳又ハ其ノ委任ヲ受ケタル官吏ノ命ニ從ハサル者

三 許可ヲ受ケスシテ舟筏ヨリ通航料ヲ徵收シ又ハ欺僞ノ手段ヲ以テ其ノ許可ヲ受ケタル者

○河川工事費補助手續ノ件

○内務省令第二十一號 明治三十二年五月

第一條 内務大臣ノ直接施行ニ係ル河川ニ關スル工事ニ因リテ必要ヲ生シタル他ノ工事ノ費用ニ對シ補助ヲ受ケントスルトキハ其工事ノ管理者ニ於テ工事計畫書工事豫算書及圖面ヲ添ヘ府縣知事ヲ經由シ内務大臣ニ申請スヘシ但工事ノ管理者ニシテ行政廳ナルトキハ其行政廳ノ直接ニ管轄スル公共團體ノ議會ノ議決書ヲ添付スルコトヲ要ス

第二條 府縣知事ニ經テ前條補助ノ申請ヲ受ケタルトキ又ハ明治三十二年勅令第二百十號第五條ニ依リ内務大臣ノ認可ヲ受ケントスルトキハ補助申請者ノ行政廳ナル場合ニ於テハ其行政廳ノ直接ニ管轄スル公共團體ノ地租年額及戸數ヲ調査シ私人ナル場合ニ於テハ其資力ヲ調査シ尙工事ノ計畫及工費ノ豫算ヲ審査シ之ニ對スル意見ヲ付シ當該内務省土木出張所ニ送付スヘシ

○河川法第二十三條第二項費用補助ニ關スル件

○勅令第二百二十二號 明治三十二年四月

第一條 河川ニ關スル工事ニ因リテ必要ヲ生シタル他ノ工事ニ對シ河川ニ屬スル費用ノ内ヨリ補助ヲ爲スニハ左ノ條件ヲ具備スルコトヲ要ス

一 河川法第十七條ニ記載スル工作物ノ新築改築若ハ除却ナルコト

二 工事ノ必要ヲ生シタル程度ニ於ケル工費ニシテ其管理者タル行政廳ノ直接ニ管轄スル公共團體又ハ管理人タル私人ノ資力ニ比シ大ナルコト

第二條 河川ニ關スル工事ニ因リテ必要ヲ生シタル他ノ工事ノ費用ニ對スル補助ハ其工費ノ三分ノ二以内トス但シ他工事ノ管理者ニシテ私人ナルトキ又ハ特別ノ事情アル場合ハ此限リニアラス

第三條 此勅令ノ規定ニ依リ國庫ヨリ工事ノ豫算費用ニ對シ補助シタル場合ニ於テハ工事費用精算ノ上豫算ヨリ減スルコトアルモ既ニ與ヘタル補助金ハ之ヲ還付セシメサルコトヲ得

第四條 河川ニ關スル工事ニ因リテ必要ヲ生シタル他ノ工事ニシテ其管理者不明ナルトキハ河川ニ

關スル費用ノ内ヨリ其工費ノ全部ヲ支辨スルコトヲ得
第五條 府縣ニ於テ河川法第二十六條ニ依リ補助ヲ受ケタル場合ニ於テ此勅令ノ規定ニ依リ補助又ハ支辨ヲ爲サントスルトキハ内務大臣ノ認可ヲ受クルコトヲ要ス其變更又ハ廢止ヲ爲サントスルトキ亦同シ

○河川法第四十條ニ依ル補償手續ノ件

○内務省令第三十六號 明治三十二年七月

河川法第四十條ニ依レル補償ノ手續左ノ通之ヲ定ム

第一條 府縣知事ニ於テ河川法第四十條ニ依リ市町村、町村組合若ハ水利組合ニ補償ヲ命スルトキハ補償スヘキ物件ノ種類、員數及補償金額並ニ其ノ仕拂期限ヲ定メ補償金ヲ受取ルヘキ者ノ氏名住所ト共ニ之ヲ其ノ市町村、町村組合若ハ水利組合ニ通知スヘシ

第二條 府縣知事ニ於テ前條ノ通知ヲ爲シタルトキハ同時ニ前條ニ依リ定メタル事項ヲ補償金ヲ受取ルヘキ者ニ通知スヘシ

○河川法第四十三條ニ依ル命令ノ件

○内務省令第二十八號 明治三十三年五月

第一條 府縣知事ニ於テ河川法第四十三條ニ依リ通航料ノ徵收ヲ許可スルトキハ其ノ金額及徵收期間ヲ定ムヘシ

第二條 通航料ノ金額及其徵收期間ハ原資及ノ其利子ノ償還ヲ標準トシテ之ヲ定ムルコトヲ要ス
第三條 公益ノ爲必要アルトキハ府縣知事ハ通航料徵收ノ許可ヲ取消シ又ハ其效力ヲ停止シ若ハ其條件ヲ變更スルコトヲ得

第四條 通航料徵收ノ許可ヲ取消シタルトキハ其ノ許可ヲ取消サレタル者ノ申請ニ依リ府縣ニ於テ補償金ヲ下付スルコトヲ得

第五條 通航料徵收許可ノ效力ヲ停止シ若ハ其ノ條件ヲ變更シタルニ因リ其ノ收入ノ減少シタルトキ又ハ更ニ新築若ハ改築ヲ爲シタルトキハ府縣知事ニ於テ通航料ノ増額及徵收期間ノ伸長ヲ許可スルコトヲ得

第六條 通航料ハ左ニ掲ケタル舟筏ヨリ之ヲ徵收スルコトヲ得ス

- 一 河川ノ視察其ノ他公務ノ爲通航スル船舶
 - 二 行政廳ノ使用スル船舶
 - 三 國及府縣以下ノ公共團體ノ所有ニ屬スル筏
 - 四 自家耕作ノ肥料ヲ積載スル船舶
 - 五 府縣知事ニ於テ特ニ定メタル舟筏
- 第七條 通航料徵收ノ許可ニ依リテ生スル權利義務ハ府縣知事ノ許可ヲ受クルニ非サレハ之ヲ他人ニ移スコトヲ得ス
- 第八條 左ニ掲ケタル各號ニ該當スル者ハ五圓以下ノ罰金ニ處ス
- 一 許可ノ效力停止期間内ニ通航料ヲ徵收シタル者
 - 二 第六條ノ規定ニ違背シタル者

○河川法第四十七條ニ依ル命令ノ件

○勅令第三百號 明治三十三年七月

第一條 河川附近ノ土地ノ形狀又ハ家屋其ノ他ノ工作物ニシテ河川ニ害ヲ及ホシ又ハ及ホス虞アルトキハ府縣知事ハ其ノ土地ノ形狀ヲ變更シ又ハ家屋其他ノ工作物ヲ改築若ハ除却シ又ハ其ノ所有者ヲシテ之ヲ爲サシムルコトヲ得

第二條 河川附近ノ土地ニ在ル土砂竹木等ニシテ河川ニ害ヲ及ホシ又ハ及ホスノ虞アルトキハ府縣知事ハ其ノ所有者ヲシテ之ヲ除却セシムルコトヲ得

第三條 河川ニ關シ必要アルトキハ府縣知事ハ河川附近ノ土地ニ立入り又ハ之ニ標柱等ヲ設置スルコトヲ得

第四條 左ニ掲ケタル行爲ヲ爲サトスル者ハ府縣知事ノ許可ヲ受クヘシ

一 河川附近ノ土地ニ於ケル家屋以外ノ工作物ノ新築改築又ハ除却

二 河川附近ノ土地ノ掘鑿其ノ他土地ノ形狀ノ變更

三 堤外地ニ於ケル家屋ノ新築改築若ハ除却又ハ竹木ノ栽培若ハ伐採

第五條 沿岸土地ノ所有者ハ其ノ土地ヲ曳船道ニ供スヘシ

第六條 沿堤土地ノ所有者ハ堤防ヨリ雨水ノ自然ニ流來ルヲ妨ケ又ハ其ノ土地ノ水ヲ堤防ニ注流セシムル設備ヲ爲スコトヲ得ス

第七條 第一條第二條第三條又ハ第五條ノ場合ニ於テ損害ヲ受ケタル者アルトキハ府縣ハ相當ノ補償金ヲ下付スヘシ

第八條 府縣知事ニ於テ第一條ニ依リ土地ノ形狀ヲ變更シ又ハ家屋其ノ他ノ工作物ヲ改築若ハ除却セムトスルトキハ少クトモ十五日前ニ第三條ニ依リ土地ニ立入り又ハ標柱等ヲ設置セントスルトキハ少クトモ五日前ニ其ノ所有者及占有者ニ之ヲ通知スヘシ

第九條 左ニ掲ケタル事項及其ノ變更又廢止ハ内務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

一 第一條ニ依ル處分

二 第四條ニ掲ケタル行爲ニシテ重大ナル者ノ許可

第十條 第四條又ハ第六條ノ規定ニ違背シタル者ハ五十圓以下ノ罰金又ハ三箇月以下ノ重禁錮ニ處ス

○河川法第五十條ニ依ル命令ノ件

○内務省令第二十二號 明治三十二年六月

河川法第五十條ニ依レル命令左ノ通之ヲ定ム

第一條 府縣知事ニ於テ他ノ府縣又ハ他ノ府縣内ノ公共團體ヲシテ河川ニ關スル費用ヲ負擔セシメントスルトキハ其ノ府縣知事ニ協議ノ上負擔金額及納付期限ヲ定ムヘシ

第二條 前條ノ協議調ヒタルトキハ府縣知事ニ於テ土木監督署ヲ經由シテ内務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第三條 第一條ノ協議調ハサルトキハ府縣知事ニ於テ土木監督署ヲ經由シテ内務大臣ノ指揮ヲ受クヘシ

第四條 府縣知事ハ他ノ府縣又ハ他ノ府縣内ノ公共團體ヲシテ負擔セシムヘキ金額及納付セシムヘキ期限確定シタルトキハ之ヲ其ノ府縣知事ニ通知スヘシ

前項ノ通知ヲ受ケタル府縣知事ハ其ノ府縣内ノ公共團體ヲシテ負擔セシムヘキ金額アル場合ニ於テハ更ニ其ノ金額及納付期限ヲ其ノ公共團體ヲ直接ニ管轄スル行政廳ニ通知スヘシ

第五條 他ノ府縣ニ於テ期限内ニ其ノ負擔金額ヲ納付セサルトキハ府縣知事ハ内務大臣ニ其ノ旨ヲ

具申スヘシ

他ノ府縣内ノ公共團體ニ於テ其ノ負擔金額ヲ期限内ニ納付セサルトキハ府縣知事ノ公共團體ヲ管轄スル府縣知事ニ其ノ旨ヲ通知スヘシ

前項ノ通知ヲ受ケタル府縣知事ハ河川法第五十五條第三項ニ依リ直ニ其ノ金額ヲ支出セシムヘシ

第六條 内務大臣ニ於テ自ラ河川ニ關スル工事ヲ施行シ又ハ府縣知事ニ代テ河川ノ管理ヲ爲シ若ハ其ノ維持修繕ヲ爲ス場合ニ於テハ他ノ府縣又ハ他ノ府縣内ノ公共團體ヲシテ負擔セシムヘキ金額及納付セシムヘキ期限ハ内務大臣之ヲ定ム

○河川敷地ノ公用ヲ廢シタル土地ノ處分ニ關スル件

○勅令第三百九十一號 明治三十二年九月

第一條 本令ニ於テ廢川敷地ト稱スルハ河川敷地ノ公用ヲ廢シタルモノヲ謂フ

第二條 廢川敷地ハ府縣知事之ヲ告示スヘシ

第三條 廢川敷地ノ處分ハ府縣知事之ヲ行フ

第四條 廢川敷地ニシテ御料地又ハ國有地ト爲スノ必要アルモノハ之ヲ御料地又ハ國有地ニ編入スヘシ

第五條 府縣以外ノ公共團體又ハ私人ニ於テ河川ニ關スル工事ヲ爲シタルニ因リ生シタル廢川敷地ハ之ヲ其ノ公共團體又ハ私人若ハ其ノ相續人ニ下付スルコトヲ得

第六條 府縣以外ノ公共團體ニ於テ維持又ハ修繕ノ費用ヲ負擔シタル河川ノ廢川敷地ハ之ヲ其ノ公共團體ニ下付スルコトヲ得

第七條 河流ノ變更ニ因リ生シタル廢川敷地ハ之ヲ其ノ沿岸若ハ沿堤ノ土地所有者又ハ河川ノ區域

ヲ其ノ所有地ニ移サレタル公共團體又ハ私人若ハ其ノ相續人ニ下付スルコトヲ得

第八條 廢川敷地ニシテ公共團體又ハ私人ノ寄附ニ係ルモノハ之ヲ其ノ公共團體又ハ私人若ハ其ノ相續人ニ下付スルコトヲ得

第九條 河川ニ關スル工事ノ爲土地ヲ寄附シタル公共團體又ハ私人アルトキハ其ノ工事ニ因リ生シタル廢川敷地ヲ其ノ公共團體又ハ私人若ハ其ノ相續人ニ下付スルコトヲ得

第十條 河川ニ關スル工事ノ爲土地ヲ賣渡シ又ハ收用セラレタル公共團體又ハ私人アルトキハ其ノ工事ニ因リ生シタル廢川敷地ヲ其ノ公共團體又ハ私人若ハ其ノ相續人ニ有償ニテ下付スルコトヲ得

第十一條 廢川敷地ニシテ御料地又ハ國有地ト爲スノ必要アルトキハ宮内大臣又ハ主務大臣ハ第二條告示ノ日ヨリ三箇月以内ニ内務大臣ニ通知シ内務大臣ハ府縣知事ヲシテ之ヲ編入セシムヘシ

河川法第四十四條但書又ハ本令ニ依リ廢川敷地ノ下附ヲ受ケントスル者ハ前項ノ期間内ニ府縣知事ニ申請スヘシ

第十二條 府縣知事ニ於テ第五條乃至第十條ニ依リ受ケタル申請ニ對シテハ内務大臣ノ認可ヲ受ケ之ヲ處分スヘシ

第十三條 廢川敷地ニシテ編入又ハ下付ヲ爲ササルモノ及廢川敷地ノ償金ハ府縣ニ歸屬ス

第十四條 廢川敷地ニシテ現ニ他ノ公用ニ供スルモノハ内務大臣ノ認可ヲ經テ第四條乃至第十條及第十三條ノ規定ニ拘ハラス其ノ處分ヲ爲スコトヲ得

第十五條 廢川敷地ヲ取得シタル者ハ公用ヲ廢シタル日ヨリ其ノ土地ノ所有權ヲ取得ス

○河川改修ノ爲メ官有地ヲ要スルトキ取扱方ノ件

(明治三十八年四月訓令第十四號ヲ以テ一部改正)

○内務省訓令第二十號 明治三十三年六月

府 縣 沖繩縣ヲ除ク

内務大臣ニ於テ河川改修工事ヲ施行スル爲メ官有地ヲ要スルトキハ自今一般官有地ニ在テハ直ニ國有林野ニ在テハ地所受納ノ上、其都度本省土木出張所ヨリ通牒スヘキニ付地種組替方等總テ其應限リ處分ノ上内務報告例ニ依リ報告スヘシ
但シ社寺境内名所舊蹟及古墳墓ハ此ノ限リニ在ラス

○河川法及同施行規程ニ依ル告示ノ件

○内務省令第十三號 明治三十二年五月

第一條 府縣知事ニ於テ土砂并止ノ爲ニ要スル土地沿岸沿堤若ハ河川附近ノ土地又ハ新ニ河川トナルヘキ區域若ハ其附近ノ土地ノ區域ヲ定メ告示スルトキハ其地方ノ公布式ニ依ルヘシ
前項ノ場合ニ於テハ土木監督署ヲ經由シ内務大臣ノ認可ヲ受クヘシ
第二條 前條ノ告示ニハ左ニ掲ケタルモノノ一又ハ一以上ニ依リ土地ノ區域ヲ明記スヘシ
一 市町村、大字、字又ハ小字
二 地番地目
三 一定ノ地物又ハ之ヲ去ル距離及方向
四 圖面
第三條 内務大臣ニ於テ第一條ノ土地又ハ區域ヲ定メタルトキハ前條ニ準シ官報ヲ以テ之ヲ告示ス

○河川法等ニ依ル認可申請ハ土木監督署經由ノ件

○内務省訓令第十五號 明治三十二年五月

府 縣 (沖繩縣ヲ除ク)

明治二十九年勅令第二百三十五號第二條第一號乃至第四號及第七號ニ關シ認可ヲ受ケントスルトキハ土木監督署ヲ經由スヘシ

○河川法ニ依ル稟伺又ハ報告ニ關スル件

○内務省訓令第十六號 明治三十二年五月

土木監督署

河川法又ハ之ニ基キテ發スル命令ニ規定シタル事項ニ關シ府縣知事ノ稟伺又ハ報告ヲ受領シタルトキハ審査ヲ遂ケ之ニ關スル意見ヲ付シ本大臣ニ進達スヘシ但河川ノ附屬物ノ改築通航料ノ徵收期限ノ變更及其他事體ノ輕易ニシテ利害ノ關係他府縣ニ著シク影響セスト認ムヘキ事項ニ關スル稟伺ニシテ異見ナキモノハ直ニ依命通牒ヲ以テ之ヲ許可スルコトヲ得

○明治二十九年勅令第二百三十五號第二條但書ニ依リ認可ヲ經ルヲ要セサル河川工事ニ關スル件

○内務省令第四號 明治三十八年三月 改正 明治四十年六月 省令第十四號

第一條 左ニ掲ケタル事項及其ノ變更停止又ハ廢止ハ内務大臣ノ認可ヲ受クルコトヲ要セス
一、河川ノ附屬物ノ新築改築又ハ除却工事ニシテ著シク河身ニ影響ヲ及ボサ、ルモノ、施行並其ノ計畫及其工費ノ豫算
二、堤防ノ嵩置又ハ腹付ノ施行並其ノ計畫及其ノ工費ノ豫算但シ對岸他府縣ニ屬シ又ハ上流若ハ下流他府縣ニ連接スル場所ニ施行スル嵩置又ハ堤外ノ腹付ハ此ノ限ニ在ラス
三、河川法第十七條ニ掲ケタル工作物ニシテ著シク河身ニ影響ヲ及ボサ、ルモノ、新築改築又ハ除却ノ許可但シ對岸他府縣ニ屬シ又ハ上流若ハ下流他府縣ニ連接スル場合ニ於テハ季節ヲ限

リ一時許可スルモノ、外此ノ限ニ在ラス

四、河川ノ敷地又ハ流水ノ占用ニシテ著シク河身ニ影響ヲ及ホサ、ルモノ及一旦認可ヲ受ケタルモノ、繼續占用ノ許可

五、河川法第三十九條ニ依ル障害物ノ除却ニシテ建築物以外ニ係ルモノ

第二條 (削除)

第三條 明治三十二年内務省令第十二號ハ之ヲ廢止ス

○河川法ヲ施行サセル河川等ニ關スル工事ニシテ稟伺ノ上處分スヘキ件

○内務省訓令第五號 明治三十八年 改正 明治三十九年六月 明治四十年六月 府 縣

第一條 河川法ヲ施行セサル河川、道路、港灣等ニ關スル事項ニシテ左ニ掲クルモノハ本大臣ニ稟伺ノ上處分スヘシ

一、流域二府縣以上ニ跨ル河川(支派川ヲ包含シ)ノ河身及堤防ニ關スル工事ノ新築改築除却但シ其ノ

工事ニシテ著シク河身ニ影響ヲ及ホサ、ルモノハ此ノ限リニ在ラス

二、第一號但書ニ該當スルモノ、内對岸他府縣ニ屬シ又ハ上流若ハ下流他府縣ニ連接スル場所ニ

施行スル工事但シ堤内ノ腹付ハ此ノ限ニ在ラス

三、流域二府縣以上ニ跨ル河川ヨリ引水シ若ハ之ニ注下スヘキ水路ニ關スル工事ノ新築、改築、除却但シ其ノ引入口吐口ノ同一府縣内ニ在リテ水利上他府縣ニ影響ヲ及ホサ、ルモノハ此ノ限

ニ在ラス

ニ在ラス

五、國道及假定縣道ニ關スル工事ニシテ築造標準ニ違セサルモノ但シ改築工事ニシテ改良ヲ加フルモノハ此ノ限ニ在ラス

六、樞要港灣ニ關スル新築改築及除却

七、(削除)

第二條 河川法ヲ施行シタル河川ニ就テ府縣ニ於テ同法第十七條及第十八條ニ記載シタル行爲ヲ爲サントムルトキハ本大臣ニ稟伺スヘシ但シ對岸他府縣ニ屬シ又ハ上流若ハ下流他府縣ニ連接スル

場合ヲ除キ其他ノ場所ニ施設スル工作物ニシテ著シク河身ニ影響セサルモノハ此ノ限ニ在ラス

第三條 第一條第四號但書ノ場合ニ於テハ處分ノ後直ニ本大臣ニ報告スヘシ

第四條 明治三十年^甲當省訓令第九七六號ハ之ヲ廢止ス

○河川法第三十二條第二項ニ依リ費用ノ補助ヲ受ケタル土木工事竣功認可ニ關スル規程

○内務省令第八號 明治三十六年 改正 明治三十八年三月 省令第六號

第一條 河川法第三十二條第二項ニ依リ費用ノ補助ヲ受ケタル土木工事ニシテ内務大臣ニ於テ施行スル河川工事費ヨリ補助シタルモノニ付テハ其ノ工事竣功シタルトキハ管理者ニ於テ内務大臣ニ

申請シ工事竣功ノ認可ヲ受クヘシ

第二條 前條ノ申請ニハ竣功調書及費用精算書ヲ添付シ地方長官ヲ經由スヘシ

地方長官前項ノ書類ヲ受ケタルトキハ之ニ意見ヲ付シ當該内務省土木出張所ニ送付スヘシ

第三條 工事費ニ殘餘ヲ生シタル場合ニ於テ内務大臣ニ於テ金額ヲ指定シ還付ヲ命シタルトキハ管

理者ハ其ノ命ヲ受ケタル日ヨリ二箇月内ニ之ヲ國庫ニ納付スヘシ
第四條 本令ノ規定ハ本令發布前既ニ竣功シタルモノニ付テ亦之ヲ適用ス但シ第一條ノ規定ニ依
ル申請ハ本令發布ノ日ヨリ三箇月内ニ提出スヘシ

○河川法ヲ施行シタル河川ニ對シ認可ヲ要セサル事項ノ件

○内務省訓令第四號 明治三十八年 改正 明治四十年六月 府 縣 (沖繩縣
ヲ除ク)
河川法ヲ施行シタル河川ニ對シ各廳ニ於テ河川法第十七條乃至第十九條ニ記載シタル行爲ヲ爲サン
トスルニ當リ協議アリタルトキハ第十七條第十八條ノ行爲ニシテ本年內務省令第四號第一條第三號
(但書ヲ除ク)第四號ニ該當スルモノ及第十九條ノ行爲ハ本大臣ノ認可ヲ受クルコトヲ要セス直ニ處
分シ其以外ノ行爲ハ本大臣ノ認可ヲ受クヘシ明治三十二年內務省訓令第九〇六號ハ之ヲ廢止ス

○河川法ヲ施行セサル河川ニ關シ認可ヲ要スル事項ノ件

○内務省訓令第二五號 大正元年 十一月十六日 北海道廳、府縣
第一條 河川法ヲ施行セサル河川ニ關スル事項ニシテ左ニ掲クルモノハ本大臣ノ認可ヲ受ケ處分ス
ヘシ

- 一、流域ニ府縣以上ニ跨ル河川(支派川ヲ包含)ノ河身及堤防ニ關スル新築、改築、除却工事但シ其ノ
工事ニシテ他府縣ニ影響ヲ及ササルモノハ此ノ限ニ在ラス
- 二、前號但書ニ該當スルモノノ内對岸他府縣ニ屬シ又ハ上流若ハ下流他府縣ニ連接スル場所ニ施
行スル工事但シ堤内ノ腹付及季節ヲ限リ一時施設スルモノハ此ノ限ニ在ラス
- 三、流域ニ府縣以上ニ跨ル河川ヨリ引水シ又ハ之ニ注下スヘキ水路ニ關スル新築改築除却工事但
シ其ノ引入口及吐口ノ同一府縣内ニ在リテ他府縣ニ影響ヲ及ホササルモノハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ工事ニシテ關係府縣知事ノ間ニ協議調ヒタルモノハ認可ヲ受クルコトヲ要セス
第二條 道路ニ關スル事項ニシテ左ニ掲クルモノハ本大臣ノ認可ヲ受ケ處分スヘシ

- 一、國道及假定縣道ノ編入、但替、廢止、及其ノ路線ノ變更但シ些少ノ變更ハ此ノ限ニアラス
- 二、府縣費支辨里道ノ指定
- 三、國道及假定縣道ニ關スル工事ニシテ左ノ制限ニ達セサルモノ但シ改築工事ニシテ改良ヲ加フ
ルモノハ此ノ限ニアラス
 - 一、道路ノ有効幅 國道四間以上假定縣道三間以上但シ山間等工事困難ノ箇所ハ十六尺迄ニ
縮少スルコトヲ得
 - 二、道路ノ最急勾配國道三十分一假定縣道二十五分一但シ山間等工事困難ノ箇所ハ十五分一
(長百間以内ニ
限リ十分一)ト爲スコトヲ得
 - 三、道路曲線ノ最小半徑、六間
 - 四、橋梁有効幅
 - 長五間未滿ノ橋梁 前後道路有効幅ニ依ル
 - 長五間以上ノ橋梁 十六尺以上但シ前後道路ノ有効幅十六尺未滿ナルトキハ其ノ有効幅
迄ニ縮少スルコトヲ得
 - 五、橋梁ノ動荷重 橋上滿面ニ負ヒ得ヘキ重量一坪ニ付四百貫目以上
 - 六、隧道ノ有効幅 十六尺以上但シ前後道路ノ有効幅十六尺未滿ナルトキハ其ノ有効幅迄ニ
縮少スルコトヲ得
 - 七、橋面及路面上ノ有効高 上部水平構桁ヲ有スル橋梁橋面上十三尺以上

隧道及他ノ橋下ヲ通スル道路 路面上十三尺以上

第二條 港灣ニ關スル事項ニシテ在ニ掲クルモノハ本大臣ノ認可ヲ受ケ處分スヘシ

一、左ノ港灣ニ關スル工事ノ新築、改築、除却及浚渫

東京港 横濱港 四日市港 大阪港 神戸港 門司港 下關港 長崎港 鹿兒島港 境港

敦賀港 新潟港 土崎港 船川港 青森港 鹽釜港(花淵港ヲ包含ス) 函館港 室蘭港 小樽港

二、前號港灣ノ外本大臣ニ於テ指定シタル港灣ニ關スル工事ノ新築、改築、除却及浚渫ニシテ其ノ港灣ノ利用ニ著シキ影響ヲ及ボスヘキモノ

第四條 前三條ノ河川、道路(府縣費支辨里道ヲ除ク)港灣並運河ニ關シ明治四年太政官布告第六百

四十八號ニ依リ使用料ノ徵收ヲ許可セムトスルトキハ本大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第五條 河川法ヲ施行シタル河川ニ就キ府縣ニ於テ同法第十七條及第十八條ニ掲クル行爲ヲ爲サム

トスルトキ又ハ他ノ各廳ヨリ同法第十七條及第十八條ニ掲クル行爲ニ關シ協議ヲ受ケタルトキハ

本大臣ノ認可ヲ受クヘシ但シ明治三十八年内務省令第四號第一條第三號(但書ヲ除ク)及第四號ニ

該當スルモノハ此限ニ在ラス

○河川法ニ依リ工作物ノ除却又ハ占用許可ノ取消ヲ要スルモノ

ノ處分後直ニ報告ノ件

○内務省訓令第七號

明治二十八年五月

改正 明治四十年六月 訓令第十三號

當省ニ於テ直接施行スル河川工事ノ爲メ河川法第十七條ニ依レル工作物ノ除却又ハ第十八條ニ依

ル専用許可ノ取消ヲ要スルモノニシテ本省土木出張所長ヨリ除却又ハ取消ノ通知ヲ爲シタルトキハ

本大臣ノ認可ヲ受クルコトヲ要セス直ニ處分スヘシ

明治三十二年内務省訓令第四號ハ之ヲ廢止ス

○河川法ニ依ル河川ニ關スル工事ノ爲不用ニ歸スル土地ノ

處分ニ關スル件

○勅令第一百十九號

明治四十一年五月

河川法ノ規定ニ依ラサル河川、水流水面ニシテ河川法ニ依ル河川ニ關スル工事ノ爲不用ニ歸スルモノニ付テハ河川法第四條第二項並第四十四號及之ニ基キテ發シタル命令ノ規定ヲ準用ス

○河川取締規則

○北海道廳令第三十六號

明治三十六年三月十四日

河川取締規則

第一條 本規則ニ於テ河川ト稱スルハ河身並ニ官有ニ屬スル堤防敷地ヲ謂フ

本規則ヲ適用スル河川及其區域ハ北海道廳長官之ヲ指定ス

流水河川ノ區域外ニ出テ、永期ニ亘ルモノト認ムルトキハ其區域ヲ變更ス此場合ニハ北海道廳長

官之ヲ指定ス

第二條 堤防敷地トシテ除地スヘキ官有地ハ川幅八十間未滿ハ兩岸各川幅ニ準シ川幅八十間以上ハ

百二十間トス

第三條 河川區域内ニ施設シタル工作物ハ河川ノ附屬物トシテ總テ本規則ヲ適用ス

第四條 河川ニ工事ヲ施行シ若クハ土石礫竹木其他雜產物ヲ採取シ又ハ河川ヲ使用シ若クハ木材

ノ流送ヲナサントスルトキハ左ノ區別ニ依リ當該行政廳ノ許可ヲ受クヘシ

但シ北海道廳ニ願出ツヘキモノハ所轄戸長役場町村役場區役所支廳、支廳ニ願出ツヘキモノハ所轄戸長役場町村役場ヲ經由スヘシ

一、國費地方費支辨ニ屬スル河川ニ關スルモノハ北海道廳ニ願出ツヘシ但シ工事ヲ施行セサル河川ノ使用ハ此期ニアラス

二、前號ノ河川ニ於テ工事ヲ施行セサル河川ノ使用並ニ國費地方費區町村費ノ支辨ニ屬セサル河川ニ關スルモノハ所轄支廳ニ願出ツヘシ

但シ河身變更及河底又ハ水面ノ異動ニ關スル工事若クハ工事ノ二支廳以上ニ跨ルモノハ北海道廳ニ願出ツヘシ

三、區町村費支辨ノ河川ニ關スルモノハ費用負擔ノ行政廳ニ願出ツヘシ
但其處分ニ付町村ニアリテハ管轄支廳區ニアリテハ北海道廳ノ許可ヲ受クヘシ

第五條 本規則ニヨリ許可ヲ得ントスルトキハ利害關係者ノ承諾書ヲ添ヘ別紙第一號乃至第四號書式ニ準據シ要項ヲ記入シ提出スヘシ

前項ノ利害關係者トハ接續地主及許可ニ依リ河川ニ關シ權利ヲ有シ且ツ直接利害關係アルモノヲ謂フ

第六條 堤防敷地ノ使用ハ左ノ各項ニ該當シ公益上支障ナシト認ムルモノニ限り許可ス

一、開墾及除草ヲナスシテ楊柳ノ栽培ニ供スルトキ

二、水利ノ便ニ依ラサルヲ得サル事業ニ供スルトキ

三、公益上必要ト認メタルトキ

第七條 國費地方費支辨ニ屬スル河川ノ使用ニ付テハ其使用料土砂石礫竹木其他ノ雜產物ノ採取ニ付テハ其代金ヲ徵收ス但シ公用ニ供シ若クハ公共ノ利益トナルヘキ事業ニ供スルモノハ之ヲ徵收セサルコトヲ得

第八條 使用期限ハ五箇年以内トシ滿期前繼續使用ヲ出願セシモノニシテ公益上支障ナキモノハ許可スルコトアルヘシ

第九條 使用期限滿了ノトキ又ハ使用者ヨリ期限内使用地ヲ返納シタルトキハ使用地ニ現存スル使用者ノ物件ハ指定ノ期限内ニ自費ヲ以テ之ヲ除却セシムルコトアルヘシ

但シ第六條第一號ノ楊柳ハ除却セシテ無償國有トス

第十條 許可ヲ受ケタルモノハ目的以外ニ使用シ若クハ之ヲ擔保貸付ニ供シ又ハ他人ニ移スコトヲ得ス

第十一條 左ノ各號ニ該當スルモノト認メタルトキハ北海道廳又ハ管轄支廳區町村行政廳ハ許可ヲ取消シ若クハ其効力ヲ停止シ其條件ヲ増減變更シ又ハ既設工作物ノ改築除却又ハ原形ニ回復ヲ命シ又ハ許可セラレタル事項ニ依リ生スル危險ヲ豫防スルタメ必要ナル設備ヲ爲サシムルコトアルヘシ但シ區町村ノ處分ニ付テハ第四條三號但書ヲ準用ス

一、工事施行ノ方法若クハ施行後ニ於ケル管理ノ方法公安ヲ害スル虞アルトキ

二、河川ノ狀況ヲ變更其他許可ノ後ニ起リタル事實ニ依リ必要ヲ生シタルトキ

三、河川ニ關スル工事ヲ施行シ又ハ許可ヲ與ヘタルモノ、外ニ工事又ハ使用ヲ許可スル爲メニ必要ナルトキ

四、法律命令ノ結果ニ依リ必要ヲ生シタルトキ

五、法律命令又ハ許可ノ條件ニ違背シタルトキ

六、公益ノ爲メ必要ナルトキ

第十二條 前條ノ場合ニ要スル費用及之カ爲メニ生シタル損害ハ總テ許可ヲ受ケタル者ノ負擔トス

第十三條 許可ヲ受ケタルモノニ於テ其義務ヲ履行セス若クハ工事ノ施行期限内終了ノ見込ナキトキ又ハ其方法ノ宜シキヲ得サルトキ又ハ危険ノ切迫シタルモノト認メタルトキハ北海道廳又ハ管轄支廳及ヒ區町村ニ於テ直ニ執行シ又ハ第三者ヲシテ執行セシメ其費用ヲ徴收ス此場合ニ於テ如何ナル損害ヲ生スコトアルモ賠償ノ責ニ任セス

第十四條 許可ヲ受ケスシテ第四條ノ行爲ヲナシタルモノハ之ヲ取拂ヒ原形ニ復セシムルコトアルヘシ

前項ノ場合ニ於テハ第十二條ノ規定ヲ準用ス

第十五條 橋梁ヲ距ル上下流トモ五十間以内ノ箇所ニ於テ土砂石礫竹木其他雜產物ヲ採取シ又ハ流送物揚卸場ヲ設クヘカラス

河岸ヨリ河方十間以内ニ於テ土砂石礫ヲ採取スヘカラス

但シ河幅三十間内ノ場所ニ於テハ特ニ許可スルコトアルヘシ

第十六條 河川ニ木材ヲ散流スヘカラス

第十七條 堤防敷地内ニ於テ土砂石礫ヲ採取シ又ハ開墾ヲナスヘカラス

第十八條 河川ニ木石土砂塵芥又ハ障害物ヲ投棄スヘカラス

第十九條 河川ニ建築セル諸測量標其他標識ヲ毀棄汚損シ若クハ移轉變更シ又ハ之ニ獸畜舟筏ノ類ヲ繫クヘカラス

第二十條 河川ノ工作物ヲ毀損シ又ハ河岸ヲ缺壞シ又ハ流水ノ疏通ヲ妨クヘカラス

第二十一條 河川ノ工作物又ハ橋脚流木除ノ建設物ニ舟筏ヲ繫留スヘカラス

第二十二條 許可ヲ受ケスシテ第四條ノ行爲ヲナシタルモノ及第十條第十五條第十六條第十七條第二十條ニ違反シタルモノハ十圓以下ノ罰金ニ處ス第十八條第十九條第二十一條ニ違反シタルモノ

ハ一圓九十五錢以下ノ料料又ハ十日以下ノ拘留ニ處ス但シ刑法ニ於テ罰セラル、モノハ本規則ヲ適用セス

附 則

第二十三條 明治二十七年^ハ北海道廳令第三十五號ハ本規則施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

第二十四條 北海道廳長官ハ告示ヲ以テ本規則一部ノ施行ヲ停止スルコトアルヘシ(三十六年四月

廳令第五十三號ヲ以テ本條追加)

(別紙畧ス)

○河川取締規則ニ依ル河川指定ノ件

○北海道廳告示第二百三號 明治三十六年三月二十二日

明治三十六年^ハ北海道廳令第三十六號河川取締規則ニ依ル河川左ノ通り指定ス

河川名	區	域	國	名
石狩川	幹流	支流	石狩國	
天鹽川	幹流		天鹽國	
十勝川	幹流		十勝國	
大津川	十勝川派流		同上	
釧路川	幹流		釧路國	
尻別川	幹流		後志國、膽振國	

○許可ヲ得スシテ堤防ヲ築キ又ハ堰止ヲ爲スヲ禁スル件

○北海道廳訓第一九六號 明治三十一年五月十八日
治水工事ノ儀ハ一部ノ利益ノミヲ目的トシテ施行スルニ於テハ他ニ反對ノ妨害ヲ與ヘ延テ全川ニ波及スルノ虞アルヲ以テ最モ慎重スヘキ事ニ有之候處近來許可ヲ得シテ私ニ堤防ヲ築キ若クハ堰止等ヲ爲スモノ有之哉ニ相聞不都合ニ付自今右等ノ所爲無之様嚴重取締ヲ爲スハ勿論許可ナク設置シタルモノハ之ヲ取拂ハシムヘシ

○河川ノ土砂採取願取扱ノ件

○殖民部長ヨリ各支廳長ヘ通牒 明治三十二年十一月十七日 殖拓第五〇八九號
明治二十七年朕當廳令第三十五號河川取締規則第一條ニ依リ土石砂利ノ取採ヲ願出ツルモノアルトキハ先ツ以テ採取ニ就キテノ指令ヲナシ其許可ヲ與ヘタルモノハ更ニ該土石砂利ノ拂下願ヲ徴シ處分スヘキコトハ三十年六月十九日内地第五三三號通牒及置候處自今採取願ニハ相當代金納付スヘキ旨ヲ記載セシメ實地調査ヲ遂ケ支障ナキ限リハ其願書ニ就キ代金評價ノ上直ニ拂下處分相成候義ト御承知有之度依命此段及通牒候也

○農科大學所屬演習林内ノ河川ニ關スル件

○拓殖部長ヨリ 上川空知 室蘭増毛 各支廳長ヘ通牒 大正二年七月二日 殖拓第四五六四號
今般貴管内ニ於ケル東北帝國大學農科大學所屬ノ演習林内ノ河川ニ對シテハ當分ノ内左記各項ニ依リ取扱候事ニ決定致候ニ付右ニ御承知有之度此段及通牒候也

記

- 一 東北帝國大學農科大學所屬演習林内ノ河川ニシテ水源ノ演習林内ニアルモノハ演習林内ニ包有セル流域ヲ限り當分ノ内演習林所屬ノ私有水面トシテ取扱フコト
但シ公用ニ供シタル事實ヲ發見シタルトキ若クハ公用ニ供スル必要アリト認メタルトキハ何時ニテモ國ニ屬スル公有水面トシテ取扱フコト
- 二 演習林内ニ包有セル河川ニ關シ左記ノ工事ヲ東北帝國大學農科大學ニ於テ執行シルカ又ハ第三土舊ヲシテ執行セシメントスルトキハ執行前其設計仕様書ヲ添ヘ當廳ニ協議スルコト
- 一 河川ニ護岸工事ヲ施行スル事
- 二 河川ニ水制工事ヲ施行スル事
- 三 堤防工事ヲ施行スル事
- 四 河川ノ堀割及分水工事ヲ施行スル事
- 五 河身ノ附替工事ヲ施行スル事
- 六 河川ノ障害物ヲ除却スル事
- 七 河川ノ埋立工事ヲ施行スル事
- 八 河川ニ固定ノ網場ヲ設クル事
- 九 河川ニ連絡シテ木圍堀ヲ設クル事
- 十 河川ニ物揚場ヲ設クル事
- 十一 河川ニ堰止工事ヲ施行スルコト
- 十二 河川ニ長十間以上ノ架橋工事ヲ施行スル事
- 十三 河川ニ土砂ノ流出スヘキ工事ヲ施行スル事
- 三 堤防敷地(左右共川幅ニ同シ但シ川幅八十間以上ノモノニ對シテ河川ノ幅員ニ拘ハラズ其左右共二十間)ハ原狀ヲ變更セサコト

以上

○砂 防

○砂 防 法

○法律第二十九號 明治三十年三月二十七日

砂 防 法

- 第一章 總 則
- 第二章 土地ノ制限及砂防設備
- 第三章 砂防ニ關スル費用ノ負擔、土地所有者ノ權利義務並收入等
- 第四章 警察、監督及強制手續
- 第五章 訴願及訴訟
- 第六章 附 則

砂 防 法

第一章 總 則

第一條 此ノ法律ニ於テ砂防設備ト稱スルハ主務大臣ノ指定シタル土地ニ於テ治水上砂防ノ爲施設スルモノヲ謂ヒ砂防工事ト稱スルハ砂防設備ノ爲ニ施行スル作業ヲ謂フ

第二條 砂防設備ヲ要スル土地又ハ此ノ法律ニ依リ治水上砂防ノ爲一定ノ行爲ヲ禁止若ハ制限スヘキ土地ハ主務大臣之ヲ指定ス

第三條 此ノ法律ニ規定シタル事項ハ命令ノ定ムル所ニ從ヒ主務大臣ノ指定シタル土地ノ範圍外ニ於テ治水上砂防ノ爲施設スルモノニ準用スルコトヲ得

第二章 土地ノ制限及砂防設備

第四條 第二條ニ依リ主務大臣ノ指定シタル土地ニ於テハ地方行政廳ハ治水上砂防ノ爲一定ノ行爲ヲ禁止若ハ制限スルコトヲ得

前項ノ禁止若ハ制限ニシテ他府縣ノ利益ヲ保全スル爲必要ナルカ又ハ其ノ利害關係一府縣ニ止マラサルトキハ主務大臣ハ前項ノ職權ヲ施行スルコトヲ得

第五條 地方行政廳ハ其ノ管内ニ於テ第二條ニ依リ主務大臣ノ指定シタル土地シ監視シ及其ノ管内ニ於ケル砂防設備ヲ管理シ其ノ工事ヲ施行シ其ノ維持ヲナスノ義務アルモノトス

第六條 砂防設備ニシテ他府縣ノ利益ヲ保全スル爲必要ナルカ又ハ其ノ利害關係一府縣ニ止マラサル場合ニ於テハ主務大臣ハ之ヲ管理シ又ハ其ノ工事ヲ施行シ又ハ其ノ維持ヲナスコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ主務大臣ハ其ノ砂防設備ニ因リ特ニ利益ヲ受ケル公共團體ノ行政廳ニ命シテ其ノ工事ヲ施行セシメ又ハ其ノ維持ヲナスコトヲ得

本條ノ場合ニ於テハ主務大臣ハ此ノ法律ニ依リ地方行政廳ノ有スル職權ヲ直接施行スルコトヲ得

第七條 地方行政廳ハ其ノ管内ノ下級行政廳ヲシテ砂防工事ヲ施行セシメ又ハ砂防設備ノ維持ヲナサシムルコトヲ得

第八條 他ノ工事、作業其ノ他ノ行爲ニ因リ砂防工事ヲ施行スルノ必要ヲ生スルトキハ地方行政廳ハ其ノ行爲ヲナシタル者ヲシテ其ノ工事ヲ施行シ又ハ其ノ砂防設備ノ維持ヲナサシムルコトヲ得

第九條 行政廳ハ砂防工事ノ請負ヲナスコトヲ得

第十條 砂防工事ノ請負ノ制限ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十一條 第二條ニ依リ主務大臣ノ指定シタル土地ニ對シテハ勅令ノ定ムル所ニ從ヒ地租其ノ他ノ公課ヲ減免スルコトヲ得

第三章 砂防ニ關スル費用ノ負擔、土地所有者ノ權利義務並收入等

第十二條 第二條ニ依リ主務大臣ノ指定シタル土地ノ監視及砂防ノ設備ノ管理、維持並砂防工事ニ要スル費用ハ府縣ノ負擔トス

第十三條 砂防工事ニ要スル費用ハ其ノ一部ヲ國庫ヨリ府縣ニ補助スルコトヲ得

前項國庫ノ補助額ハ工費豫算ノ三分ノ二ヲ超過スルコトヲ得ス

本條ノ補助金ハ精算ノ上其ノ費用ノ三分ノ二ヲ超過スルコトアルモ其ノ超過額ヲ還付セシメサルコトヲ得

災害ニ因リ必要ヲ生シタル砂防工事ニ要スル費用ハ本條ニ依ルノ限ニ在ラス

第十四條 第六條ニ依リ主務大臣ニ於テ砂防設備ノ管理及維持ヲナシ又ハ砂防工事ヲ施行スル場合ニ於テハ其ノ費用ハ國庫ノ負擔トス

前項ノ場合ニ於テハ主務大臣ハ府縣ヲシテ前項費用ノ三分ノ一以內ヲ負擔セシムルコトヲ得

第十五條 地方行政廳ハ其ノ管内ノ下級公共團體ヲシテ砂防ニ關スル費用ノ一部ヲ負擔セシムルコトヲ得

第十六條 砂防工事ニシテ他工事、作業其ノ他ノ行爲ニ因リ必要ヲ生スルモノナルトキハ其ノ費用ハ工事ノ必要ヲ生スル程度ニ於テ其ノ原因タル工事、作業其ノ他ノ行爲ニ關シ費用ヲ負擔スル者ヲシテ之ヲ負擔セシムルコトヲ得但シ河川法第三十二條第二項ノ場合ハ此限ニ在ラス

第十七條 砂防工事ニシテ他ノ府縣若ハ他府縣內ノ公共團體ニ於テ著シク利益ヲ受クルモノナルトキハ其ノ府縣若ハ其府縣內ノ公共團體ヲシテ其ノ費用ノ一部ヲ負擔セシムルコトヲ得

第十八條 此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ依リ行政廳ノ命シタル事項ヲ遵守スル爲ニ

要スル費用ハ特別ノ規程ヲ設ケタル場合ヲ除クノ外其ノ命ヲ受ケル者ノ負擔トス

主務大臣若ハ地方行政廳ニ於テ義務者ノ履行スヘキ義務ヲ自ラ執行シ又ハ第三者ヲシテ執行セシメタル爲ニ要シタル費用ハ其ノ義務者ヨリ之ヲ追徴スルコトヲ得

第十九條 公共團體ハ砂防工事若ハ砂防ニ關スル費用ノ爲寄附ヲナスコトヲ得

第二十條 公共團體ハ砂防ニ關スル費用ニ付キ私人若ハ其區域內ノ下級公共團體ニ補助ヲナスコトヲ得

第二十一條 公共團體ハ砂防ニ關スル費用ニ付キ利害關係ノ厚薄ヲ標準トシテ其ノ區域內ニ於テ不均一ノ賦課ヲナスコトヲ得

第二十二條 砂防工事ノ爲必要ナルトキハ地方行政廳ハ管内ノ土地若ハ森林ノ所有者ニ命シ補償金

トシテ時價相當ノ金額ヲ下付シテ其ノ所有ニ係ル土石、砂礫、芝草、竹木及運搬具ヲ供給セシムルコトヲ得但シ時價ニ關シテ協議整ハサルトキ又ハ所有者不明ナルトキ若ハ其所在不明ナルトキ

ハ地方行政廳ハ相當ト認ムル金額ヲ供託シテ本條ノ供給ヲナサシムルコトヲ得

第二十三條 砂防ノ爲必要ナルトキハ行政廳ハ第二條ニ依リ主務大臣ノ指定シタル土地又ハ之ニ隣接スル土地ニ立入り又ハ其ノ土地ヲ材料置場等ニ供シ又ハ己ムヲ得サルトキハ其ノ土地ニ現在スル障害物ヲ除却スルコトヲ得

前項ノ適用ニ依リ損害ヲ受ケタル時ハ使用若ハ除却ノ後三箇月以內ニ補償金ヲ請求スルコトヲ得

第二十四條 第二條ニ依リ主務大臣ノ指定シタル土地ノ所有者若ハ關係人ハ行政廳若ハ其ノ命ヲ受ケタル私人ニ於テ其ノ土地ニ砂防工事ヲ施行シ又ハ砂防設備ノ維持ヲナスコトヲ拒ムコトヲ得ス

第二十五條 法律、命令若クハ許可認可ノ條件ニ違背シタル工事、設備若クハ工作物ノ管理ニ因リ損害ヲ受ケシメタル者ハ其ノ損害ヲ賠償スヘシ

第二十六條 此ノ法律ニ依リ行政廳ニ於テ下付スヘキ補償金若クハ賠償金ハ其ノ行政廳ノ直接ニ管轄スル公共團體ノ負擔トス

第二十七條 砂防設備ヨリ生スル收入ハ府縣ニ歸ス但シ地方行政廳ハ其ノ收入ヲ第二條ニ依リ主務大臣ノ指定シタル土地若クハ其ノ土地ニ在ル森林ノ所有者又ハ其ノ砂防設備ノ施設者ニ下付スルコトヲ得

第二十八條 砂防設備ニシテ其ノ公用ヲ廢シタルトキハ地方行政廳ハ之ヲ其ノ砂防設備ノ現在スル土地若クハ森林ノ所有者ニ下付スルコトヲ得

第四章 警察、監督及強制手續

第二十九條 第四條ニ依リ主務大臣若クハ地方行政廳ニ於テ一定ノ事項ニ對シ許可ヲ受ケシメタル場合ニ於テ必要ト認ムルトキハ主務大臣若クハ地方行政廳ハ其ノ許可ヲ取消シ若クハ其ノ効力ヲ停止シ若クハ其ノ條件ヲ變更シ又ハ設備ノ變更若クハ原形ノ回復ヲ命シ又ハ許可セラレタル事項ニ因リ生スル害ヲ豫防スル爲ニ必要ナル設備ヲ命スルコトヲ得

第三十條 法律、命令若クハ許可ノ條件ニ違背シタル者ハ行政廳ノ命スル所ニ從ヒ其ノ違背ニ因リテ生スル事實ヲ更正シ且其ノ違背ニ因リテ生スヘキ損害ヲ豫防スル爲ニ必要ナル設備ヲナスヘシ

第三十一條 地方行政廳ハ第二條ニ依リ主務大臣ノ指定シタル土地監視ノ爲並砂防設備管理ノ爲吏員ヲ置クヘシ其ノ定員、給料、手當、職務權限並其ノ費用ノ負擔者等ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第三十二條 主務大臣ハ砂防ニ關スル行政ヲ監督ス
地方行政廳ヲシテ第一次ニ於テ監督セシムヘキ事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム
此ノ法律ニ規定シタル事項ニシテ主務大臣若クハ地方行政廳ノ認可ヲ要スルモノハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十九條及第二十條ニ規定シタル事項並此ノ法律ニ依リ行政廳ニ付與シタル職權ニ關シテハ命令ヲ以テ制限ヲ設クルコトヲ得

第三十三條 他ノ府縣若クハ他府縣内ノ公共團體若クハ私人ヲシテ費用ヲ負擔セシムル爲ニ必要ナル手續、命令ヲ以テ之ヲ定ム

第三十四條 主務大臣ハ地方行政廳ニ命シテ砂防工事ヲ施行セシメ其ノ他此ノ法律ニ規定シタル地方行政廳ノ職權ヲ施行セシムルコトヲ得

第三十五條 義務者ニ於テ此ノ法律若クハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ依ル義務履行セス若クハ之ヲ履行スルモ必要ノ期限内ニ終了スルノ見込ナキトキ又ハ其ノ履行ノ方法宜ヲ得サルトキハ主務大臣若クハ地方行政廳ハ自ラ之ヲ施行シ又ハ第三者ヲシテ之ヲ施行セシムルコトヲ得

第三十六條 私人ニ於テ此ノ法律若クハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ依ル義務ヲ怠ルトキハ主務大臣若クハ地方行政廳ハ一定ノ期限ヲ示シ若シ期限内ニ履行セサルトキ若クハ之ヲ履行スルモ未充分ナルトキハ五百圓以内ニ於テ指定シタル過料ニ處スルコトヲ豫告シテ其ノ履行ヲ命スルコトヲ得

第三十七條 此ノ法律若クハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ規定シタル事項ニ關シ保證金ヲ納付セシメタル場合ニ於テハ行政廳ニ於テ直ニ之ヲ其ノ納付ノ目的又ハ過料ニ充用スルコトヲ得

第三十八條 此ノ法律若クハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ依リ私人ニ於テ負擔スヘキ費用及過料ハ此ノ法律ニ於テ特ニ民事訴訟ヲ許シタル場合ヲ除クノ外行政廳ニ於テ國稅ノ滯納處分ニ關スル規程ニ依リ之ヲ徵收スルコトヲ得

前項ノ費用及過料ニ付行政廳ハ國稅ニ次キ先取特權ヲ有スルモノトス
此ノ法律若クハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ依リ公共團體ニ於テ負擔スヘキ費用ニ關シテハ此ノ

法律ニ於テ特ニ民事訴訟ヲ許シタル場合ヲ除クノ外主務大臣若ハ地方行政廳ハ必要ナル場合ニ於テハ金額ヲ定メテ之ヲ其ノ豫算表ニ掲ケ其ノ他必要ナル處分ヲ指揮シ直ニ其ノ金額ヲ支出セシムルコトヲ得

第三十九條 此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ依リ行政廳ニ付與シタル職權ハ行政處分ニ依リ之ヲ強制スルコトヲ得

行政廳ノ許可若ハ認可ニ附シタル條件ニ關シテモ亦本條及前條ヲ準用ス

第四十條 此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ規定シタル事項ニ關シテハ砂防視察ノ職務ヲ有スル官吏ヲシテ命令ノ定ムル所ニ從ヒ警察官ノ職權ノ全部若ハ一部ヲ執行セシムルコトヲ得

第四十一條 此ノ法律ニ規定シタル私人ノ義務ニ關シテハ命令ヲ以テ二百圓以内ノ罰金若ハ一年以下ノ禁錮ノ罰則ヲ設クルコトヲ得

第五章 訴願及訴訟

第四十二條 此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ依リ主務大臣若ハ地方行政廳ノナシタル處分ニ對シテ不服アル私人若ハ公共團體ハ主務大臣ニ訴願スルコトヲ得

ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令若ハ地方行政廳ノ委任ニ依リ下級行政廳ノナシタル處分ニ對シテ不服アル私人若ハ公共團體ハ地方行政廳ニ訴願シ地方行政廳ノ裁決ニ不服アル者ハ主務大臣ニ訴願スルコトヲ得

此ノ法律ニ依リ行政訴訟ヲ提起ヲ許シタル場合ニ於テハ主務大臣ニ訴願スルコトヲ得ス

第四十三條 此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ規定シタル事項ニ關シ行政廳ノ違法處分ニ依リ權利ヲ毀損セラレタリトスル私人若ハ公共團體ハ前條ニ依リ訴願ノ裁決ヲ經タル後行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得但シ主務大臣若ハ地方行政廳ノ處分ニ對シテハ直ニ之ヲ提起スルコトヲ得

第四十四條 第二十五條ニ依リ損害賠償ヲ請求スル私人若ハ公共團體ハ損害ヲ受ケタル日ヨリ三箇月以内ニ民事訴訟ヲ提起スルコトヲ得

法律命令若ハ許可認可ノ條件ニ違背シタルヤ否ヤニ付キ爭アルトキハ前數條ノ手續又ハ監督官廳ノ決定ニ依リ其ノ違背シタリトノ事實確定シタル後ニアラサレハ民事訴訟ヲ提起スルコトヲ得ス但シ此ノ場合ニ於テハ前項ノ期間ハ確定ノ日ヨリ起算スルモノトス

第四十五條 第二十二條若ハ第二十三條ニ依リ下付スヘキ補償金額ニ對シ不服アルトキハ行政廳ニ於テ金額ノ通知ヲナシタル日ヨリ六箇月以内ニ民事訴訟ヲ提起スルコトヲ得但シ第二十三條ノ場合ニ於テ補償金請求ノ後六箇月以内ニ其ノ金額ノ通知ナキトキハ其ノ期限經過後六箇月以内ニ民事訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第四十六條 此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ規定シタル事項ニ關シテハ本章ノ規程ニ依リ特ニ許シタル場合ヲ除クノ外訴願若ハ行政訴訟ヲ提起シ又ハ行政廳ニ對シ民事訴訟ヲ提出スルコトヲ得

第六章 附 則

第四十七條 此ノ法律ハ明治三十年四月一日ヨリ施行ス

此ノ法律ヲ施行スル爲ニ必要ナル規程ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第四十八條 第二條ニ依リ主務大臣ノ指定シタル土地ニ在ル從來ノ砂防ニ關シテハ勅令ヲ以テ特別ノ規程ヲ設クル場合ヲ除クノ外此ノ法律ノ規程ニ依ル

○砂防法施行規程

○勅令第三百八十二號

明治三十年十月二十三日

砂防法施行規定

第一條 内務大臣ニ於テ砂防法第二條ニ依リ指定スル土地ハ官報ヲ以テ之ヲ告示スヘシ

第二條 砂防法第三條ニ依テ同法ニ規定シタル事項ヲ準用スヘキ施設物ハ府縣知事ニ於テ其ノ地方ノ公布式ヲ以テ之ヲ告示スヘシ其ノ準用スヘキ事項ハ府縣令ヲ以テ之ヲ定ム但シ同法第十三條及第十四條ニ規定シタル事項ハ之ヲ準用スルコトヲ得ス

第三條 砂防法第四條ニ依リ禁止若ハ制限スヘキ行爲ハ同條第一項ノ場合ニ於テハ府縣令ヲ以テ第二項ノ場合ニ於テハ内務省令ヲ以テ定ム

第四條 砂防法第六條第一項ニ依リ内務大臣ニ於テ砂防設備ヲ管理シ又ハ其ノ維持ヲナス場合ニ於テハ其ノ砂防設備ヲ其ノ工事ヲ施行スル場合ニ於テハ其ノ砂防設備工事ノ施行區域及起工年度ヲ官報ヲ以テ告示スヘシ

前項ノ工事ヲ終了シタルトキハ官報ヲ以テ之ヲ告示スヘシ

砂防法第六條第二項ニ依リ内務大臣ニ於テ砂防設備ニ因リ特ニ利益ヲ受クル公共團體ノ行政廳ニ命シテ其ノ工事ヲ施行セシメ又ハ其ノ維持ヲナサシムル場合ニ於テモ亦前二項ノ例ニ依ル

第五條 内務大臣ニ於テ砂防設備ノ管理又ハ其ノ維持ヲナストキハ内務省直轄ノ土木事業ニ準シテ土木監督署長之ヲ行フ

第六條 砂防法第二十二條ニ依リ府縣知事ニ於テ土石、砂礫、芝草、竹木及運搬具ノ供給ヲナサシムトスルトキハ少クトモ五日前ニ其ノ供給セシムヘキ物件ノ種類、數量及補償金額等ヲ其ノ所有者ニ通知スヘシ若シ其ノ所有者不明ナルトキ又ハ其ノ所在不明ナルトキハ物件所在地ノ市町村長ニ通知スヘシ

第七條 砂防法第二十三條ニ依リ府縣知事、郡長、市參事會、町村長、町村組合長又ハ水利組合ノ

管理者ニ於テ内務大臣ノ指定シタル土地又ハ之ニ隣接スル土地ヲ材料置場等ニ供セムトスルトキハ少クトモ五日前ニ又之ニ現在スル障害物ヲ除却セムトスルトキハ少クトモ十五日前ニ其ノ場所若ハ障害物ヲ其ノ所有者ニ通知スヘシ若シ其ノ所有者不明ナルトキ又ハ其ノ所在不明ナルトキハ其ノ土地ノ市町村長ニ通知スヘシ

第八條 行政廳若ハ其ノ命ヲ受ケタル私人ニ於テ砂防工事ヲ施行セムトスルトキハ少クトモ七日前ニ之ヲ其ノ土地所有者ニ通知スヘシ其ノ所在者不明ナルトキ又ハ其ノ所在不明ナルトキハ其ノ土地ノ市町村長ニ通知スヘシ

第九條 砂防ニ關スル費用ノ豫算ニシテ砂防法第二條ニ依ル土地ノ指定前ニ確定シタルモノハ其ノ指令ノ爲其效力ヲ失ハス

前項豫算ニ依リ執行スヘキ事項ハ從前ノ規程又ハ慣習ニ依リ既ニ定リタル執行者ニ於テ之ヲ行フ

第十條 砂防法ニ基キテ發スル命令ニ依リ行政廳ノ許可ヲ受クヘキ事項ハ從來許可ヲ受ケタルモノト雖内務大臣又ハ府縣知事ノ定ムル所ノ期限内ニ於テ更ニ其ノ許可ヲ受クヘシ

○砂防ニ關スル行政監督ノ件

○勅令第十五號

明治三十一年一月三十一日

砂防ニ關スル行政監督

第一條 砂防法若ハ之ニ基キテ發スル命令ニ依リ郡、市、町、村、町村組合又ハ水利組合ノ行政廳ニ於テ執行スル砂防ニ關スル行政及府縣知事ノ命シ又ハ許可シタル事項ニ關シテハ第一次ニ於テ府縣知事之ヲ監督シ第二次ニ於テ内務大臣之ヲ監督ス

第二條 左ニ掲クル事項及其ノ變更、停止又ハ廢止ハ内務大臣ノ認可ヲ受タルコトヲ要ス但シ利害

關係小ニシテ内務大臣ニ於テ命令ヲ以テ認可ヲ要セスト規定シタルモノハ此ノ限ニアラス

- 一 砂防法第三條ニ依ル準用
 - 二 砂防法第四條ニ依リ府縣知事ニ於テ禁止若ハ制限スヘキ一定ノ行爲
 - 三 砂防法第七條及第八條ニ依ル府縣知事ノ處分
 - 四 砂防法第十三條ニ依リ國庫ノ補助ヲ受クル砂防工事ノ計畫及其ノ工費豫算
 - 五 砂防法第十五條乃至第十七條ニ依ル費用ノ負擔方法
 - 六 砂防法第二十一條ニ依ル府縣ノ不均一ノ賦課
 - 七 國庫ノ補助ヲ受ケテ施設シタル砂防設備ノ公用廢止
- 第三條 左ニ掲クル事項及其ノ變更、停止又ハ廢止ハ府縣知事ノ認可ヲ受クルコトヲ要ス
- 一 砂防法第二十一條ニ依ル下級公共團體ノ不均一ノ賦課
- 二 砂防法第二十三條ニ依リ下級行政廳ノナスヘキ障害物ノ除却
- 三 砂防法第三十條ニ依ル下級行政廳ノ處分
- 第四條 砂防法第十九條ニ依リ郡、市、町、村、町村組合又ハ水利組合ニ於テ寄付ヲナストキハ左ノ條件ヲ具備シ且府縣知事ノ認可ヲ受クルコトヲ要ス
- 一 砂防ニ關スル事業ニシテ寄付ヲナサントスル公共團體ノ利害ニ直接ノ關係アルコト
- 二 寄付ヲナサントスル公共團體ニ於テ起債ノ方法ニ依ラスシテ寄付ヲナシ得ヘキコト
- 第五條 砂防法第二十條ニ依リ郡、市、町、村、町村組合又ハ水利組合ニ於テ補助ヲナストキハ左ノ條件ヲ具備シ且府縣知事ノ認可ヲ受クルコトヲ要ス
- 一 砂防ニ關スル事業ニシテ永遠ノ利益ヲ目的トシ且其ノ補助ヲ受クヘキモノニ於テ其ノ費用ノ負擔ニ堪ヘサルコト

二 補助ヲナサントスル公共團體ニ於テ起債ノ方法ニ依ラスシテ補助ヲナシ得ヘキコト

○砂防法第十一條ノ地租其他ノ公課減免ノ件

○勅令第三百七十四號 明治三十二年 月 (明治四十三年二月) (勅令第七號ヲ以テ改正)

- 第一條 砂防法ニ依リ一定ノ行爲ヲ禁止又ハ制限シタル土地ニ對シテハ其ノ所有者ノ申請ニ依リ地租ヲ免除又ハ輕減スルコトヲ得
- 第二條 前條ニ依リ地租ヲ免除シタル土地ニ對シテハ地租以外ノ公課ヲ免除シ其地租ヲ輕減シタル土地ニ對シテハ同一ノ割合ヲ以テ地租以外ノ公課ヲ輕減ス
- 第三條 本令ニ依ル地租其他ノ公課ノ免除又ハ輕減ノ期間ハ一定ノ行爲ヲ禁止又ハ制限シタル日以後ニ開始スヘキ納期分ヨリ其ノ禁止又ハ制限ヲ解キタル日以前ニ開始シタル納期分迄トス
- 第四條 本令ニ依リ地租ノ免除又ハ輕減ヲ受ケントスル者ハ一定ノ行爲ヲ禁止又ハ制限セラレタル日ヨリ三十日以内ニ稅務局長ニ申請スヘシ
- 第五條 本令施行前一定ノ行爲ヲ禁止又ハ制限シタル土地ニ付テハ第三條ノ期間ハ此勅令施行ノ月第四條ノ期間ハ本令施行ノ日ヨリ起算ス

○砂防法第二十三條ニ依ル命令ノ件

○内務省令第三十九號 明治三十二年 月

砂防法第三十三條ニ依ル命令左ノ通之ヲ定ム

- 第一條 府縣知事ニ於テ他ノ府縣又ハ他ノ府縣内ノ公共團體若ハ私人ヲシテ砂防ニ關スル費用ヲ負擔セシメントスルトキハ其ノ負擔者カ府縣又ハ公共團體ナル場合ニ於テハ其ノ府縣知事ニ協議ノ上負擔金額及納付期限ヲ定メ私人ナル場合ニ於テハ府縣知事自ラ之ヲ定ムヘシ

第二條 前條ニ依リ負擔金額及納付期限定マリタルトキハ府縣知事ニ於テ土木監督署ヲ經由シテ内務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第三條 第一條ノ協議調ハサルトキハ府縣知事ニ於テ土木監督署ヲ經由シテ内務大臣ノ指揮ヲ受クヘシ

第四條 府縣知事ハ他ノ府縣又ハ他ノ府縣内ノ公共團體若ハ私人ヲシテ負擔セシムヘキ金額及納付セシムヘキ期限確定シタルトキハ之ヲ其ノ府縣知事ニ通知スヘシ

前項ノ通知ヲ受ケタル府縣知事ハ其ノ府縣内ノ公共團體若ハ私人ヲシテ負擔セシムヘキ金額アル場合ニ於テハ更ニ其ノ金額及納付期限ヲ其ノ公共團體ヲ直接ニ管轄スル行政廳又ハ私人ニ通知スヘシ

第五條 他ノ府縣ニ於テ期限内ニ其ノ負擔金額ヲ納付セサルトキハ府縣知事ハ内務大臣ニ其ノ旨ヲ具申スヘシ

他ノ府縣内ノ公共團體若ハ私人ニ於テ其ノ負擔金額ヲ期限内ニ納付セサルトキハ府縣知事ハ其ノ公共團體又ハ私人ヲ管轄スル府縣知事ニ其旨ヲ通知スヘシ

前項ノ通知ヲ受ケタル府縣知事ハ砂防法第三十八條ニ依リ直ニ其ノ處分ヲ爲スヘシ

第六條 内務大臣ニ於テ自ラ砂防設備ノ管理ヲ爲シ又ハ其ノ工事ヲ施行シ又ハ其ノ維持ヲ爲ス場合ニ於テハ他ノ府縣又ハ他ノ府縣内ノ公共團體若ハ私人ヲシテ負擔セシムヘキ金額及納付セシムヘキ期限ハ内務大臣之ヲ定ム

○砂防法第十三條ニ依リ國庫ノ補助ヲ受ケテ施行スル砂防工事竣功認可ノ件

○内務省訓令第二十三號

明治三十三年七月

府

縣

(沖繩縣ヲ除ク)

明治三十年法律第二十九號砂防法第十三條ニ依リ國庫ノ補助ヲ受ケテ施行スル砂防工事ハ竣工ノ都度竣工調書ヲ製シ土木監督署ヲ經テ本大臣ニ稟伺シ工事竣工ノ認可ヲ受クヘシ

第十六類

○鑛 山

○鑛 業 法

○法律第四十五號 明治三十八年 明治四十年四月法律 明治四十三年三月 明治四十四年三月
鑛業法 三 第四十一號ヲ以テ改正 法律第十號ヲ以テ改正 法律第九號ヲ以テ改正

第一章 總 則

- 第一條 本法ニ於テ鑛業ト稱スルハ鑛物ノ試掘採掘及之ニ附屬スル事業ヲ謂フ
- 第二條 本法ニ於テ鑛物ト稱スルハ金鑛、銀鑛、銅鑛、鉛鑛、蒼鉛鑛、錫鑛、安質母尼鑛、水銀鑛、亞鉛鑛、鐵鑛、硫化鐵鑛、格魯謨鐵鑛、滿俺鑛、重石鑛、水鉛鑛、砒鑛、磷鑛、黑鉛、石炭、亞炭、石油、土瀝青及硫黃ヲ謂フ但シ砂鑛ハ此ノ限ニ在ラズ
- 含油層ト密接ノ關係アル可燃質天然瓦斯ハ之ヲ石油ト看做ス但シ工業用其ノ他ノ營利ヲ目的トセズシテ單ニ一家ノ自用ニ供スルモノニハ本法ヲ適用セス
- 第三條 未ダ掘採セサル鑛物(廢鑛及鑛滓ヲ含ム)ハ國ノ所有トス
- 第四條 本法ニ於テ鑛業權ト稱スルハ試掘權及採掘權ヲ謂フ
- 鑛業權者ハ鑛區ニ於テ其ノ許可ヲ受ケタル鑛物ヲ掘採シ及之ヲ取得スル權利ヲ有ス但シ鐵區ノ重復シタル場合ニ於テハ鑛業權者ハ互ニ其ノ權利ヲ制限セラル
- 第五條 帝國臣民又ハ帝國法律ニ從ヒ成立シタル法人ニ非サレハ鑛業權者トナルコトヲ得ス
- 第六條 本法ニ規定シタル鑛業權者ノ權利義務ハ鑛業權ト共ニ移轉ス

本法ノ規定ニ依リ爲シタル手續其ノ他ノ行爲ハ鑛業ヲ出願セムトスル者鑛業出願人鑛業權者土地所有者又ハ關係人ノ承繼人ニ對シテモ其ノ効力ヲ有ス

第七條 二人以上共同シテ鑛業ヲ爲シ又ハ之ヲ爲サムトスルトキハ内一人ヲ選定シテ代表者ト爲シ鑛山監督署長ニ届出ヘシ其ノ届出ナキトキハ鑛山監督署長之ヲ指定ス

代表者ハ國ニ對シ共同鑛業出願人又ハ共同鑛業權者ヲ代表ス

共同鑛業出願人又ハ共同鑛業權者ハ組合契約ヲ爲シタル者ト看做ス

第八條 本法ニ於テ鑛夫ト稱スルハ鑛業ニ從事スル勞役者ヲ謂フ

第九條 本法ニ於テ鑛區ト稱スルハ鑛業權ノ登録ヲ得タル土地ノ區域ヲ謂フ

鑛區ノ境界ハ直線ヲ以テ之ヲ定メ地表境界線ノ直下ヲ限トス其ノ面積ハ石炭ニ在リテハ五萬坪以上其ノ他ノ鑛物ニ在リテハ五千坪以上トシ共ニ百萬坪ヲ超ユルコトヲ得ス但シ鑛利保護上又ハ鑛區分合上已ヲ得サル場合ニハ百萬坪ヲ超ユルコトヲ得

同一ノ鑛區ニ於テハ二以上ノ鑛業權ヲ設定スルコトヲ得ス但シ其ノ目的異種ノ鑛物ナルトキ及第三十六條ノ場合ハ此ノ限ニ在ラス

第十條 宮城、離宮、神宮及皇陵ノ周圍三百間以内並要塞地帶第一區内ノ場所ハ之ヲ鑛區ト爲スコトヲ得ス

陸海軍所轄ノ軍港要港火藥製造所火藥庫及彈藥庫ノ周圍三百間以内並要塞地帶第二區及第三區内ノ場所ハ所轄官廳ノ許可ヲ受クルニ非サレハ之ヲ鑛區ト爲スコトヲ得ス

前二項ニ掲ケタル場所ハ所轄官廳ノ許可ヲ受クルニ非サレハ鑛業ノ爲之ヲ使用スルコトヲ得ス

第十一條 鐵道軌道道路運河河湖沼池堤塘社寺境内地墓地公園地其ノ他ノ營造物及建物ノ地表地下トモ其ノ周圍三十間以内ノ場所ニ於テハ所轄官廳ノ許可所有者及關係人ノ承諾ヲ受クルニ非サレ

ハ鑛業ヲ爲スコトヲ得ス但シ所有者及關係人ハ正當ノ理由ナクシテ其ノ承諾ヲ拒ムコトヲ得ス

第十二條 鑛業出願地又ハ鑛區ノ訂正増減及改正ノ出願ニ付テハ鑛業ノ出願ニ關スル規定ヲ準用ス

第十三條 本法ニ於テ鑛業稅ト稱スルハ鑛區稅及鑛產稅ヲ謂フ

第十四條 本法ハ第八章ノ規定ヲ除クノ外國ノ鑛業ニ之ヲ適用ス

第十四條ノ二 農商務大臣ハ命令ノ定ムル所ニ依リ本法ニ依ル職權ノ一部ヲ鑛山監督署長ニ委任スルコトヲ得

第二章 鑛業權

第十五條 鑛業權ハ物件トシ不動産ニ關スル規定ヲ準用ス

但シ民法第七十九條第一項ノ規定ハ此ノ限ニ在ラス

第十六條 鑛業權ハ不可分トス

第十七條 鑛業權ハ相續讓渡滯納處分及強制執行ノ目的タルノ外權利ノ目的タルコトヲ得ス但シ探掘權ハ抵當權ノ目的ト爲スコトヲ得

第十八條 試掘權ノ存續期間ハ登録ノ日ヨリ二箇年トス

前項ノ期間ハ鑛區ノ増減又ハ改正ノ爲變更セラルコトナシ

第十九條 鑛業權及抵當權ノ設定變更移轉消滅並處分ノ制限ハ鑛業原簿ニ登録ス共同鑛業權者ノ脱退ニ付テモ亦同シ但シ鑛業權ノ處分ヲ制限セラレタルトキハ廢業ノ登録ヲ爲スコトヲ得ス

前項ノ登録ハ登記ニ代ルモノトス

登録ニ關スル規定ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十條 前條第一項ニ掲ケタル事項ハ相續期限ノ到來ニ因ル鑛業權ノ消滅並第四十二條及第四十三條ノ競賣ノ場合ヲ除クノ外登録ヲ爲スニ非サレハ其ノ効力ヲ生セス

第二十一條 鑛業ヲ爲サムトスル者ハ願書ニ鑛區圖ヲ添ヘ試掘ニ付テハ鑛山監督署長採掘ニ付テハ農商務大臣ニ出願スヘシ

第二十二條 鑛業出願人ハ名義ノ變更ヲ爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テハ試掘ニ付テハ鑛山監督署長採掘ニ付テハ農商務大臣ニ届出ヲ爲スニ非サレハ其ノ効力ヲ生セス

第二十三條 採掘出願人ハ出願地ニ其ノ採掘セムトスル鑛物ノ存在スルコトヲ證明スヘシ

第二十四條 農商務大臣ニ於テ試掘出願地採掘ニ適スルモノト認メタルトキハ採掘ノ出願ヲ命スヘシ

前項ノ場合ニ於テ命令書到達ノ日ヨリ六十日以内ニ採掘ノ出願ヲ爲サ、ルトキハ試掘ノ出願ハ之ヲ許可セス

前二項ノ規定ハ農商務大臣ニ於テ採掘出願地仍試掘ヲ要スルモノト認メタル場合ニ之ヲ準用ス

第二十五條 採掘出願地ノ位置形狀鑛床ノ位置形狀ト相違シ鑛利ヲ損スルモノト認メタルトキハ農商務大臣ハ其ノ訂正ノ出願ヲ命スヘシ

前項ノ場合ニ於テ命令書到達ノ日ヨリ六十日以内ニ訂正ノ出願ヲ爲サ、ルトキハ採掘ノ出願ハ之ヲ許可セス

第二十六條 採掘出願地ノ位置形狀鑛床ノ位置形狀ト相違シ鑛利ヲ損スルモノト認メタルトキハ採掘出願人ハ其ノ訂正ヲ出願スルコトヲ得

第二十七條 鑛業出願人ハ出願地ノ増減ヲ出願スルコトヲ得

第二十八條 試掘出願地出願ノ當時鑛區ト重複スル場合ニ於テ同種ノ鑛物ナルトキハ其ノ重複スル部分ニ付テハ其ノ出願ヲ許可セス

第二十九條 採掘出願地出願ノ當時他人ノ鑛區ト重複スル場合ニ於テ同種ノ鑛物ナルトキハ其ノ重

複スル部分ニ付テハ其ノ出願ヲ許可セス但シ第三十六條ノ場合ハ此ノ限ニ在ラス

第三十條 採掘出願地他人ノ試掘出願地ト重複スル場合ニ於テ同種ノ鑛物ナルトキハ其ノ重複スル部分ニ付テハ第二十四條第一項及第二項ノ規定ヲ準用ス

第三十一條 鑛業出願地他人ノ鑛區ト重複スル場合ニ於テ異種ノ鑛物ナルトキハ鑛山監督署長ハ之ヲ鑛業權者ニ通知スヘシ

鑛業權者ハ前項ノ通知書到達ノ日ヨリ六十日以内ニ自ラ其鑛業ヲ出願スルコトヲ得

前二項ノ規定ハ第三十六條及豫メ鑛業權者ノ承諾ヲ得タル場合ニハ之ヲ適用セス

第三十二條 公益ヲ害スルモノト認メタルトキ又ハ鑛業ノ價值ナシト認メタルトキハ鑛業ノ出願ヲ許可セス

第三十三條 試掘出願地又ハ採掘出願地重複スルトキハ其ノ重複スル部分ニ付テハ願書發送ノ日時ノ先ナル者優先權ヲ有ス願書發送ノ日時同一ナルトキハ鑛山監督署長ハ之ヲ各出願人ニ通知スヘシ此ノ場合ニ於テハ出願人ハ其ノ通知書發送其ノ日ヨリ六十日以内ニ協議ヲ調ヘ之ヲ届出ヘシ

出願人前項ノ届出ヲ爲サ、ルトキハ抽籤ニ依リ優先權者ヲ定ム

前二項ノ規定ハ第二十五條第二十六條第三十一條第二項及第三十六條ノ場合ニハ之ヲ適用セス

試掘出願地採掘出願地ト重複スル場合ニ於テ願書發送ノ日時同一ナルトキハ其ノ重複スル部分ニ付テハ採掘出願人ハ優先權ヲ有ス

第三十三條ノ二 試掘權者試掘權ノ存續期間滿了後十日以内ニ同種ノ鑛物ニ付更ニ鑛業ノ出願ヲ爲シタルトキハ舊試掘鑛區ニ係ル部分ニ付テハ他ノ出願人ニ對シ優先權ヲ有ス

前項ノ場合ニ於テ他人ノ出願ノ目的異種ノ鑛物ナルトキハ第三十一條ノ規定ヲ準用ス此ノ場合ニ